

# 官報

號外

昭和二年二月二十三日 水曜日

內閣印刷局

## 第五十二回衆議院議事速記第十六號

○帝國議會 衆議院議事速記第十六號

議事日程 第十五號

昭和二年二月二十二日(火曜日)午後一時十九分開議

午後一時開議

質問

- 一、和議法中改正ニ關スル質問(加藤十四郎君提出)
- 二、政弊ノ根本革新及政費ノ經濟的使
- 用ニ關スル質問(建部遷吾君提出)
- 三、貴衆兩院議員ノ待遇及事務局ノ職制並豫算ニ關スル質問(篠原和子君提出)

第一 (第一號) 大正十五年  
總豫算追加案

第二 (特第一號) 昭和元年度各特別  
會計歲入歲出豫算追加案

第三 (追第一號) 豫算外國庫ノ負擔ト  
ナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

第四 明治四十年法律第二十一號中改  
正法律案(梅本ニ於ケル租稅ニ關ス  
ル件)

(政府提出) 第一讀會

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員  
ノ選舉

第六 御料地拂下地ノ地租及登錄稅免  
除ニ關スル法律案(政府提出)

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員  
ノ選舉

第八 計理士法案(政府提出)  
第一讀會ノ續(委員長報告)

第九 會計検査院法中改正法律案(政  
府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十 牧野法案(八田宗吉君提出) 第一讀會

第十一 寺院現境内地無償下戻ニ關ス  
ル法律案(高木益太郎君外一名提出) 第一讀會

第十二 寺院現境内地無償下戻ニ關ス  
ル法律案(安藤正純君外二名提出) 第一讀會

第十三 商法中改正法律案(三浦數平  
君提出) 第一讀會

第十四 恩給法中改正法律案(山口政  
二君外四名提出) 第一讀會

第十五 治安警察法中改正法律案(山  
枅儀重君外五名提出) 第一讀會

第十六 大正十四年法律第四十七號衆  
議院議員選舉法中改正法律案(林田  
龜太郎君外一名提出) 第一讀會

第十七 大正十四年法律第四十七號衆  
議院議員選舉法中改正法律案(東武  
君外二名提出) 第一讀會

第十八 大正十四年法律第四十七號衆  
議院議員選舉法中改正法律案(小池  
仁郎君外六名提出) 第一讀會

第十九 義務教育年限延長ニ關スル建  
議案(曾田義一君提出) 第一讀會

第二十 郡山市ニ高等工業學校設置ニ  
關スル建議案(栗山博君外六名提出)

第二十一 郡山市ニ高等師範學校設置  
ニ關スル建議案(栗山博君外五名提  
出)

第二十二 奈良縣ニ醫學專門學校建設  
ニ關スル建議案(福井甚三君外二名  
提出)

第二十三 國立蠶絲大學設置ニ關スル  
建議案(篠原和子君外五名提出)

第二十四 福井縣小濱ニ高等水產學校  
設置ニ關スル建議案(山口嘉七君外  
二名提出)

第二十五 福島市ニ高等蠶絲學校設置  
ニ關スル建議案(大島要三君外六名  
提出)

第二十六 岡山市ニ綜合中國帝國大學  
設置ニ關スル建議案(清水長郷君提  
出)

第二十七 金澤市ニ綜合大學設置ニ關  
スル建議案(佐藤實君外四名提出)

第二十八 盛岡市ニ高等師範學校設置  
ニ關スル建議案(柏田忠一君外四名  
提出)

第二十九 松江市ニ山陰帝國大學設置  
ニ關スル建議案(原夫次郎君外二名  
提出)

第三十 仙臺市ニ高等師範學校設置ニ  
關スル建議案(内ヶ崎作三郎君外三  
名提出)

第三十一 文政改革ニ關スル建議案  
(篠原和子君外三名提出)

第三十二 國定教科書中略字採用及字  
音假名遣改正ニ關スル建議案(曾田  
義一君提出)

第三十三 書道振興ニ關スル建議案  
(山宮藤吉君外二名提出)

第三十四 民族博物館設立ニ關スル建  
議案(山枅儀重君提出)

第三十五 滋賀縣伊吹山高層氣象觀測  
所國營移管ニ關スル建議案(井上敬  
之助君外二名提出)

第三十六 明治六年地租改正條例ニ依  
ル土地丈量立替費用償還ニ關スル建  
議案(土屋清三郎君提出)

第三十七 剩餘金豫算編入ニ關スル建  
議案(馬場義興君提出)

第三十八 織物消費稅廢止ニ關スル  
建議案(藤田胸太郎君外二名提出)

第三十九 國有雜種財產處分ニ關スル  
建議案(大島要三君外七名提出)

第四十 稅務官ノ待遇改善ニ關スル建  
議案(大島要三君外七名提出)

第四十一 國稅徵收交付金額額ニ關ス  
ル建議案(八田宗吉君提出)

第四十二 葉煙草賠償價格增額ニ關ス  
ル建議案(中林友信君外四名提出)

第四十三 飛行事業擴張ニ關スル建議  
案(長岡外史君提出)

第四十四 國防會議設置ニ關スル建  
議案(長岡外史君提出)

第四十五 國防會議設置ニ關スル建議  
案(蟻川五郎君提出)

第四十六 陸海軍現役兵及豫後備兵優  
遇並在郷軍人會國庫補助ニ關スル建  
議案(三善清之助君外七名提出)

第四十七 海洋調查機關整備ニ關スル  
建議案(小西和君外一名提出)

第四十八 勞働省設置ニ關スル建議案  
(清瀨一郎君提出)

第四十九 我力國國號ノ統一顯正ニ關  
スル建議案(由谷義治君提出)

第五十 恩給法改正ニ關スル建議案  
(湯淺凡平君提出)

第五十一 恩給其ノ他ノ恩典ニ雇員在  
職年數通算ニ關スル建議案(青木精  
一君提出)

第五十二 一時賜金燈兵ニ對スル恩給  
支給法制定ニ關スル建議案(山下谷  
次君外一名提出)

第五十三 軍人傷痍記章令中改正ニ關スル建議案(山下谷次君外一名提出) 第五十四 決議案(議員小川平吉君ノ處決ニ關スル件)(武富濟君外九名提出)

○議長(粕谷義三君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

(書記官朗讀)

一議員ノ異動左ノ如シ 山梨縣第五區選出議員藤田胸太郎君死去セラレタリ

一今二十二日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ 保險業法中改正法律案

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ 金錫勳章年金ニ關スル法律案

提出者

古川 清君 坂井 大輔君 木暮武太夫君

著作權法中改正法律案

提出者

内ヶ崎作三郎君 杉浦 武雄君 牧野 良三君 有馬 賴寧君 原 夫次郎君 東郷 實君 清瀬 一郎君 山口 政二君

恩給法中改正法律案

提出者

松實喜代太君 東 武君 岡田伊太郎君 黒住 成章君

北海道御料拂下地免租年期ニ關スル法律案

提出者

東 武君 松實喜代太君 岡田伊太郎君 黒住 成章君 大正天皇ノ神靈ヲ奉祀スル爲葉山町ニ神宮造營ニ關スル建議案 川口 義久君

提出者

舊韓國將校待遇ニ關スル建議案 林田龜太郎君 今里準太郎君 中林 友信君 神田 正雄君 山口 政二君

京都府警察費國庫下渡金増額ニ關スル建議案

提出者

森田 茂君 川崎安之助君 村上 國吉君 長田 桃藏君 吉村 伊助君 木戸 豊吉君 鷲野米太郎君 田崎 信藏君 絹及絹交織廣幅織物課稅免除ニ關スル建議案

提出者

飯塚春太郎君 戸井 嘉作君 谷口宇右衛門君 九州博物館設置ニ關スル建議案

提出者

山内 範造君 山口恒太郎君 中村 清造君 坂井 大輔君 故金玉均表彰ニ關スル建議案

提出者

志賀和多利君 坂井 大輔君 牧山 耕藏君 中山 貞雄君 荒川 五郎君 杉浦 武雄君 羽大塚竹田間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者

有馬 賴寧君 山崎達之輔君 坂梨 哲君 中村 清造君 山内 範造君 霧島山國立公園設定ニ關スル建議案

提出者

逆瀬川仁次郎君 東郷 實君 陣 軍吉君 寺田 市正君 兒玉 實良君 津崎 尚武君 岩切 重雄君 永井 作次君 長峰 與一君

提出者

北海道綜合大學ノ完成並高等教育機關設置ニ關スル建議案 東 武君 松實喜代太君 黒住 成章君 岡田伊太郎君 沖繩縣營鐵道買收並嘉手納名護間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者

大城幸之一君 麓 純義君 宜保 成晴君 神村 吉郎君

岸本 賀昌君 小西 和君 藤井 敬慎君 川口 義久君 加藤久米四郎君

提出者

體育運動獎勵ニ關スル建議案 牧野 良三君 鳩山 一郎君 平沼 亮三君 岩切 重雄君 山口 左一君 千葉 三郎君 菅原 英伍君

提出者

私學獎勵ニ關スル建議案 山下 谷次君

提出者

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ 滋賀縣縣農會、農業倉庫並信用組合等ニ於ケル背任横領事件簇出ニ付善後策ニ關スル質問主意書

提出者

平井光三郎君 田中 養達君 (以上二月十九日提出) 一政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ 衆議院議員砂田重政君外一名提出鐵道特別小口扱貨物制度ニ關スル質問ニ對スル答辯書

提出者

衆議院議員佐藤富十郎君提出蠶業獎勵ニ關スル質問ニ對スル答辯書 衆議院議員山枡儀重君提出文政ニ關スル質問ニ對スル答辯書 衆議院議員佐藤富十郎君提出水源涵養ニ關スル質問ニ對スル答辯書

提出者

衆議院議員砂田重政君提出健康保險法ニ關スル質問ニ對スル答辯書 (以上二月二十一日受領)

提出者

鐵道特別小口扱貨物制度ニ關スル質問主意書 右成規ニ據リ提出候也 昭和二年一月二十九日 提出者 砂田 重政 外一名

提出者

鐵道特別小口扱貨物制度ニ關スル質問主意書 鐵道省カ今回新設シタル特別小口扱貨物

制度ニ於テ貨物配達ノ全國的請負ヲ獨リ合同運送株式會社ニ契約シタル理由如何及貨率公定ノ例外規定ヲ設ケテ運送料金ノ値上ケヲ爲サムスル理由如何

鐵道省カ小運送機關改善ノ爲特別小口扱貨物制度ヲ新設シ該貨物ノ小運送料金ヲ貨物貨率中ニ包含セシメテ其ノ統一制禦ヲ計ラムトスル計畫ハ未タ完璧ナラズ雖其ノ方法宜シキヲ得ハ必スシモ非議スヘキモノニアラス然レトモ若

其ノ運用ニシテ過誤アラムカ百弊忽チ生シテ止マル所ヲ知ラサルヘシ今鐵道省ノ爲ス所ヲ見ルニ吾人ハ全ク此ノ憂ヲ抱カサルヲ得サルモノアリ此ノ制度ヲ實施セムトスルニ當リ名ヲ運送取扱業者間ノ紛擾ニ對スル仲裁ニ藉リテ内容空

虛ニシテ何等全國的小運送設備ヲ有セサル所謂空手ノ合同運送株式會社ニ其ノ請負契約ヲ爲シ而シテ全國鐵道各停車場地域ニ於テ直接小運送行爲ヲ爲ス者ヨリ料金ノ五分以上ノ歩合ト稱スル

權利金ノ如キモノヲ仲介利得スルコトヲ容認シタルカ如キハ小運送改善ノ趣旨ヲ没却スルノ甚シキモノト謂ハサルヲ得是レ嘗テ手小荷物ノ請負ヲ一私設會社ニ許シテ其ノ弊害ニ堪ヘザリシ過

去ノ苦々體驗ヲ繰返サムトスル暴舉ナリ若之ヲ各驛事業團體或ハ組合ニ許シテ仲介利得ヲ省クヲ得ハ獨リ當業者ノ利福ノミナラス民間ノ荷主ヲ益スルコ

ト尠カラスト信ス況ヤ此ノ制度ニ依リテ請負契約者ヲ保護シ或ハ鐵道ノ收益ヲ增加セムカ爲ニ貨率ヲ公定シ其ノ例外規定ニ依リテ運送料金ノ値上ケヲ決

定シ民間經濟ヲ壓迫スルカ如キ結果ヲ見ムトスルニ於テオヤ本員ハ鐵道當局ト合同運送株式會社ト間ニ於テ當局ハ未タ會社ノ成立セザルニ先チテ此ノ利權ヲ提供スルコトヲ公言シ綱紀ノ紊

亂ヲ敢テ爲シツアルカ如キ風聞ヲ耳ニスレトモ決シテ之ヲ信スルモノニアラス只願フ所ハ若過チアラハ之ヲ正シ鐵道或ハ一部業者ニ偏スルコトナク廣

ク國民ノ經濟ヲ考慮シテ折角ノ企圖ヲシテ弊害ナカラシメムコトヲ望ム政府ノ所見如何  
右及質問候也

右質問ニ對シテハ趣旨辯明ヲ爲サス依テ速ニ書面ニテ答辯アラムコトヲ望ム

昭和二年二月二十一日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長 柏谷義三殿

衆議院議員 砂田重政君外一名提出鐵道特別小口扱貨物制度ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員 砂田重政君外一名提出鐵道特別小口扱貨物制度ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一、鐵道及船舶ニ依ル陸上並海上ノ大運送ニ對スル運賃料金ヨリハ、近距離輸送ノ小運送ニ對スル費額カ著シク高額ニシテ而モ小量貨物ニ於テ特ニ然リ、故ニ小運送料金ヲ低廉、公正ニシ其ノ運送ノ速達、正確ヲ圖ラムカ爲ニ小量貨物ニ對シテ今回簡易シテ且低廉ナル特別小口扱貨物ノ制度ヲ新設シタルモノナリ、

本來鐵道ニ依ル貨物運送ノ作業ハ、單ニ各都市其他一地方ノ勢力範圍内ニ於ケル物資ノ移動ノミナラス、鐵道ヲ介シテ長距離ニ亙リ戸口ヨリ戸口ニ至ル迄ノ運送行爲カ其ノ内容ヲ爲スモノニシテ此等ノ土地ヲ異ニスル物資ノ移動ニ付テハ、取扱、計算、整理等ニ對スル相互ノ連絡カ、最も重要ナル作業タルハ明カナリ、從來鐵道省ノ方針ハ、事實上發達シ來レル小運送機關ノ存在ヲ前提トシ、相互共存共榮ノ連絡ヲ圖ラムトスルモノナルヲ以テ、其ノ組織、取扱數量、設備等ニ於テ甚タ區々タル各驛事業團體若ハ組合ト個々ノ契約ヲ締結スルノ煩ヲ避クルノ要アルノミナラス、鐵道自身カ小運送ノ地方事情ヲ考慮シ一々契約ヲ爲スコトハ、却テ其

ノ實效ヲ收ムル所以ニ非ス、依テ之等ノ各驛事業團體若ハ組合等ヲ連絡シ、土地ヲ異ニスル運送ニ對シテ完全ナル責任ヲ負擔シ得ル者ニ、統一の二請負ハシムルコトハ、小運送機關ノ圓滿ナル發達ヲ促ス所以タルノミナラス、其ノ相互ノ連絡ニ就テモ經濟上ノ作用ヲ全カラシムル所以ニシテ、之ニ依リテ地方的ノ不公正ヲ調節シ費率ヲ省キ直接間接ニ小運送費ノ輕減公正ヲ期シ得ヘキモノナリ、從來トテモ或ル廣キ地域ヲ限リテ其ノ地域内ノ各驛小運送機關ヲ連絡統一スル團體ニ請負ハシメタル例甚多シ、然ルニ今回運送合同ニ依リ、之等地方的請負機關カ統一セラルルコトトナリタルヲ以テ此ノ統一セル者ト請負契約ヲ締結シ、損害其ノ他ニ對スル全體ノ責任ヲ負ハシメ、以テ土地ヲ異ニスル物資ノ小運送ヲ、鐵道ト協力シテ圓滿ニ遂行セシムルコトヲ、必要ト認メタルモノナリ、尤モ統一セル會社ノ成立以前ニ於テハ、暫定的ノ方法トシテ、本州ニ於テハ合同運送會社、北海道ニ於テハ北海道組合ニ請負ハシメタルモノニシテ、本州ニ於テハ大正十五年十月裁定案發表當時ニ於ケル一般ノ情勢ハ運クモ本請負契約締結ノ頃迄ニハ從來地方々々ニ於テ請負セル團體若クハ會社カ次第ニ合同運送會社ニ合同スル傾向明ナリシヲ以テ該會社ヲ選定シタルモノニ過キス、

若シ夫レ運送合同會社カ如キ下請契約ニ際シテ、其ノ損害填補、連絡上ノ責任等ニ對シ、一定ノ手續料ヲ取得スルコトアリトスルモ、此ハ凡テ請負事業ニ於ケル危険擔保等ヨリ生スル契約關係ニシテ該料金ノ歩合若ハ權利金ノ如キモノハ其ノ契約ノ内容ナルヲ以テ之等ニ對シ鐵道ハ豫メ承認ヲ與ヘタルカ如キコト無シ、  
二、質問ノ第二點「貨率公定ノ例外的規定ヲ設ケテ運賃料金ノ値上ケヲ爲サムトスル」ノ意味ニシテ特別小口扱貨物

制度ノ割増若クハ一般小口扱貨物ノ最低取扱斤量ノ引上ノ義ナラハ此等ノ例外規定ハ貨率ヲ簡易ニシ取扱ヲ民衆化セル特別小口扱貨物制度ニ於テ貨率作成上已ムヲ得サル結果ナリ、  
即チ特別小口扱貨物制度ハ舊發行便制度ノ改善ナルヲ以テ其ノ貨率ハ發行便貨物運賃ノ最低五級品質率ヲ標準トシテ等級並才積撤廢止ノ結果生スル運賃上ノ減收ヲ考慮シテ、制定シタルモノニシテ從來ノ急行便扱ノ貨率ヨリハ遙ニ低廉ナリ、割増ノ制度ニ依ル運賃料金及小口扱貨物ノ最低料金引上ノ如キモ或ハ現在ノ等級ニ依リ、ヨリ高額ノ運賃ヲ支拂ヒ、若ハ才積扱ノ爲事實上重量扱ヨリ遙ニ高額ナル運賃ヲ支拂ヒタルモノ、又ハ一口ノ取扱斤量カ比較的大ナルカ爲實際調査ノ結果著シキ影響ナキコトノ確信ヲ得タルモノノミニ就キ、例外規定ヲ設ケタルモノニシテ、之ニ依リテ、鐵道ハ運賃ノ引上ヲ企テタルモノニ非ス、從テ民間經濟ヲ壓迫スルカ如キ結果ヲ見ルモノトハ信セス、  
右及答辯候也

昭和二年二月二十一日

鐵道大臣 子爵井上匡四郎

衆議院議員 佐藤富十郎

鐵道獎勵ニ關スル質問主意書  
右成規ニ據リ提出候也  
昭和二年二月五日

提出者 佐藤富十郎  
蠶業獎勵ニ關スル質問主意書  
政府ハ産業政策ニ専力ヲ致シ各種保護獎勵ニ努力セラルルハ帝國ノ爲我我ノ贊成スル所ナリ然ルニ養蠶業者ニ對シテハ何等ノ保護ヲ與ヘタルヲ視ス僅ニ間接的ニ地方的共進會等ノアルヲ視ルノミ然ルニ鐵道ニハ鐵道補助アリ農業ニハ開墾助成法アリ漁業ニハ漁業補助ヲ設ケ其ノ他諸種ニ付テ其ノ實際的ニ補助金ヲ交付セルニモ拘ラス我カ國輸出品價ノ過半ヲ占ムル重要ナル養蠶家ニ對シテハ何等ノ實際的ノ補助ヲ與ヘサルハ國家ノ爲ニ本員ノ

遺憾トスル所ナリ政府ハ宜シク補助政策ヲ直ニ實行スヘキヲ適當ナリト認ム政府ノ所見如何  
右及質問候也

昭和二年二月二十一日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長 柏谷義三殿

衆議院議員 佐藤富十郎君提出蠶業獎勵ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員 佐藤富十郎君提出蠶業獎勵ニ關スル質問ニ對スル答辯書  
政府ハ養蠶業ノ極メテ重要ナルヲ認メ從來消極的方面ニ於テ蠶病豫防補助ヲ爲スノ外尙積極的ニ桑園ノ改善、繭質ノ改良、養蠶業者ノ共同乾繭販賣ノ助成等獎勵助長ノ方面ニモ相當施設ヲ爲シツツアリ將來一層此等ノ施設ニ力ヲ致スヘキハ勿論ナルモノト共ニ其ノ他各般ノ助長政策ニ關シ調査スルノ必要アルヲ以テ新ニ蠶絲委員會ヲ設置シ之ニ附議スルコトトシ其實施ニ力ムル所アラトス、  
右及答辯候也

昭和二年二月二十一日

農林大臣 町田忠治

文政ニ關スル質問主意書  
右成規ニ據リ提出候也  
昭和二年二月五日

提出者 山柁儀重  
文政ニ關スル質問主意書  
一 義務教育年限延長ハ如何ナル條件カ満足セララルルニ至レハ之ヲ實施スル見込ナリヤ  
二 育英資金獎勵ノ狀況並 今上天皇陛下御成婚記念恩賜金ニ基テ就學獎勵ノ狀況如何  
三 小學校及中等諸學校教員委任待遇者ヲ增加スル意思ナキヤ  
四 現今小學校教育法ノ革新ヲ要スルモノト認メサルヤ  
五 高等小學校改修施行後ノ經過如何  
六 補習教育内容改善指導方針ヲ變更スル要ナキヤ

官報號外 昭和二年二月二十三日 衆議院議事速記第十六號 議長ノ報告

七 青年訓練所ノ成績良好ナラストノ世評アリ政府ノ之ニ對スル詳細ナル辯明ヲ承リタシ

八 高等學校入學資格ヲ中學校卒業程度ニ復舊スル意思アリヤ

九 文部省直轄學校ノ訓練上遺憾ノ點多シトノ世評アリ政府ノ對策如何

一〇 帝國大學ニ演習組織又ハ指導組織ヲ以テ研究ヲ徹底セシムル必要ヲ認メサルヤ

一一 帝國大學ニ日本思想史講座ヲ設クル意思ナキヤ

一二 大人教育ヲ大ニ獎勵スル計畫ヲ立ツル意思ナキヤ

一三 學科課程ニ關シ法令ノ規定アル私立學校ニ宗教教育及宗教上ノ儀式ヲ行フ自由ヲ與フル意思ナキヤ

昭和二年二月二十一日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長 粕谷義三殿

衆議院議員 山根儀重君提出文政ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員 山根儀重君提出文政ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一、義務教育費國庫負擔金ノ增加ニ依リ市町村財政ノ緩和ヲ圖リ師範學校規程ヲ改正シテ優良ナル小學教員ノ供給ヲ潤澤ニシ小學校令ヲ改メテ高等小學校教育ノ充實ヲ期スル等著々義務教育年限延長實施ノ機運ヲ進メツツアルヲ以テ此等ノ施設ノ結果實施上支障ナキニ至ラハ速ニ之ニ著手センコトヲ期ス

二、近時育英事業ハ其ノ施設全國ニ普ク事業資產總額ハ學校關係ノモノ二十八萬圓其ノ他經營ノモノ一千九百三十萬圓ニ達シ其ノ成績漸ク見ルヘキモノアルニ至レリト雖モ概ネ私設團體ノ經營ニ係リ其ノ施設ニ於テモ遺憾ノ點多シトセス本省ニ於テハ豫テ新事業ノ助成獎勵ニ力メ之ニ關スル調査研究ノ歩ヲ

進メツツアリ最近ノ調査ニ依レハ從來育英事業ニ於テ施設スル所ノ概ネ高等專門ノ教育ヲ受クル者ニ止レリ小學校ヲ卒業シタル者ニシテ成績優秀ナルモ資力ノ乏シキカ爲メ上級ノ學校ニ入學シ得サル者ハ全國其ノ數一万余人ニ達スルノ實情ニ在リ育英上ノ施設ヲ充實

大正十三年度 六二、三、四五  
同十四年度 六四、九、〇、九

ニシテ全國市町村ニ於テ就學困難ナル兒童ニ對シ教科書、學用品、衣服食料等ヲ支給シタル狀況ハ左ノ通りナリ

年 度 男 女 受給兒童數

大正十三年度 八一、七、〇、七 七七、三、三、四  
同十四年度 一四、六、〇、三 一三、一、〇、六、三

三、教育效果ノ向上ハ教員ノ素質改善ヲ第一義ト爲スヲ以テ教員ノ待遇ヲ高ムルコトハ急務中ノ急務ト認メ目下奉任待遇者ノ員數增加ニ關スル法規ノ改正ヲ立案シ審議中ニ屬ス

四、小學校教育法ノ改善ニ關シテハ當局ハ常ニ多大ノ努力ヲ傾注シツ、アリ之ヲ歐米諸國ノ現況ニ比シ著シキ遜色アリトハ認メサルモ尙今後教育ノ内容ヲシテ一層地方ノ實狀ト兒童ノ環境トニ適應セシメンカ爲隨時相當ノ改善ヲ施シ其充實ヲ圖ランコトヲ期ス

五、高等小學校ノ改善ニ關スル法規ハ施行後日尙淺ク未タ具體的ニ其ノ實績ヲ知ルニ由ナキモ既ニ相當ノ效果ヲ舉ケツツアルモノト信ス

六、實業補習教育ノ内容ヲ改善シ其ノ普及發達ヲ圖ルコトハ最モ緊要トス從テ優良ナル教員ノ養成教育ノ指導獎勵等ニ力メツ、アリテ此ノ方針ヲ變更スルノ必要ヲ認メス

七、客年七月開設以降ノ情況ヲ見ルニ全國市町村中其ノ未設置ノモノ僅カニ九十餘ニ過キス而カモ其ノ設置ヲ見サルハ當該町村ノ區域内ニ於テ青年訓練ヲ受クル者ノ數寡ナルニ由ルモノ大部

改善スルト同時ニ是等薄俸ナル少年ヲ保護救濟スルノ方法ヲ講スルハ最モ緊切ナルモノアリト信ス又

今上天皇陛下御成婚紀念恩賜金ニ基ク就學獎勵ニ付テハ其ノ道廳府縣ニ設置セル就學獎勵資金(特別會計)歳入出ノ狀況ヲ見ルニ

支 出 年度未有高

一〇、七、四、五、一 一、二、〇、九、八、〇  
二、六、九、八、五、三 一、五、七、八、九、三

分ヲ占ム

計 總額 一人當

一、五、九、〇、三、一 二、四、三、三、五 一、三、五  
二、七、七、〇、八、五 四、三、五、二、二 一、五、七

次ニ訓練所ノ數及生徒數ニ就テ見レハ(客年八月申現在)其ノ公立青年訓練所數ハ一萬五千三百八十九、之ニ入所シタル青年ノ數百九十六千八百有餘ヲ算

ハ私立青年訓練所數八百三十四、之ニ入所シタル青年ノ數一萬一千餘ヲ算スルノ盛況ニアリ

更ニ其ノ出席ノ情況ニ關シテハ全國青年訓練所一萬四千四百十六ニ付キ客年七月一日ヨリ同十月末日ニ至ル四箇月平均出席歩合ヲ調査シタルニ四箇月平均出席歩合ハ概ネ七十%以上ニ在リ勿論本施設ハ之ヲ青年ニ強制スルヲ本旨トセサルヲ以テ或ハ地方產業ノ情況ニ依リ或ハ青年ノ境遇關係等ヨリシテ地方ニヨリ訓練所ノ出席歩合ハ小學校ノ出席歩合ニ比シ多少ノ差等ヲ生スルコトアルハ數ノ免レサル所ナルモ前掲ノ出席ノ成績ハ大體良好ナリト謂サル可

ラス尙訓練ノ實際ニ就テハ其學科タルト教練タルトヲ問ハス青年訓練本來ノ目的達成ニ關シ十分ノ指導監督ヲ講シツツアルヲ以テ是亦大ニ見ルヘキモノアルヲ信ス

八、高等學校高等科第一學年中學校第

四學年修了者ヲ入學セシムルコト、ナシタルハ大學卒業ニ至ル迄ノ教育年限ニ對シ短縮ヲ加ヘントスルノ根本精神ニ依リ臨時教員會議ノ決議ニ基キタルモノナリ之レカ實施後ニ於ケル實績ヲ見ルニ今直ニ之ヲ改正スルノ必要ヲ認メサルモ此問題ニ付テハ文政審議會ニ於テ曩ニ建議ノ提出アリ目下同會ニ於テ調査研究中ニ屬ス

九、直轄學校ノ訓練ニ付テハ當局ノ最モ深ク意ヲ用ヒツツアル所ナルモ尙將來一層遺憾ナキヲ期スヘシ

一〇、帝國大學ニ於テハ必要ニ依リ演習又ハ指導ヲ爲シツツアルコト無論ナルモ外國ノ制度ニ依リ演習組織又ハ指導組織ヲ其ノ儘採用スルノ可否ニ付テハ尙考究ノ要アリト認ム

一一、帝國ニ於テ日本思想史ノミヲ授クル講座ノ設ナキモ他ノ講座ニ於テ現ニ之ヲ授ケツツアル所ナリ

一二、成人教育ノ普及獎勵ニ關シテハ從來本省ニ於テ本省直轄學校及府縣ニ依屬シテ之ヲ實施セリ本年度ヨリハ特ニ該費目カ豫算ニ計上サレタルヲ以テ全國ノ二施設ノ擴張ヲ圖リ東京ニ於テハ本省之ヲ主催シ地方ニ於テハ直轄學校十八校及二十縣ニ委囑開設シ各地方トモ其成績著シク良好ナリ尙將來ニ於テモ之カ獎勵ヲナスノ計畫ヲ以テ實施方法ニ關シ考究中ナリ

一三、學校ノ事業トシテ宗教上ノ教育ヲ施シ又ハ宗教上ノ儀式ヲ行フコトヲ許ササルハ一般ノ教育ヲシテ宗教ノ外ニ特立セシメントスル旨趣ニ外ナラス從テ私立學校ニシテ是等ヲ必要トスル者ニ對シテハ之ヲ各種學校トシテ認可スル途アルヲ以テ現制ニ依ルモ支障無キモノト認ム

右及答辯候也

昭和二年二月二十一日

文部大臣 岡田 良平

水源涵養ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

四

昭和二年二月五日 佐藤富十郎 提出者

水源涵養ニ關スル質問主意書  
一政府ニ於テ水源涵養保安林ヲ急速ニ設置スヘキ要アリト信ス果シテ政府ハ其意思アリヤ否ヤ

一政府ハ八年歳歳ノ水源ノ枯渴ヲ何ムト見ラルルヤ本員ノ見ル所ハ保安林ノ宜シキヲ得サルニ起因スルモノト信ス政府ノ所見如何

右及質問候也  
昭和二年二月二十一日 内閣總理大臣 若槻禮次郎 衆議院議長 柏谷義三殿

衆議院議員 佐藤富十郎君提出水源涵養ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)  
衆議院議員 佐藤富十郎君提出水源涵養ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一、政府ハ既ニ水源涵養ノ爲四十三万五千餘町歩ヲ保安林ニ編入セルモ尙必要ニ應シ之カ編入ヲ爲シツツアリ

一、水源ノ涵養ハ保安林ニ依リ相當效果ヲ擧ケツツアリト認ムルモ尙ホ保安林以外ノ私有及社寺有林野ニ對シテモ其ノ關係重要ナルモノニ在リテハ之カ造林促進ノ爲昭和二年度ヨリ同二十二年

度ニ至ル二十一年間ノ事業トシテ水源涵養ニ關スル經費六百八十九万九千八百七拾五圓ヲ計上シ(明年度分十九万三千三百七拾五圓) 水源涵養上重要ナル私有及社寺有林野ノ無立木地及散生地二十万町歩ノ造林補助ヲ計畫シ以テ水源涵養ノ充實ヲ期セリ

右及答辯候也  
昭和二年二月二十一日 農林大臣 町田 忠治

健康保險法ニ關スル質問主意書  
右成規ニ據リ提出候也  
昭和二年二月五日 提出者 砂田 重政

健康保險法ニ關スル質問主意書  
一健康保險法第二十八條ニ依レハ二以上事業主ノ共同ニ依リ健康保險組合設立ヲ認可シ得ルコトヲ明記シタルニ拘ラズ政府當局カ省議ヲ以テ之カ設立ヲ認可セザルコトニ決定セリト明言シ居ルハ立法ノ精神ヲ無視スルモノニシテ且自治の觀念ノ發達ヲ阻害スルモノニアラスヤ

一組合組織ヲ以テ保險管理ヲ爲ストキハ事業主ト従業員間及各事業主間ノ意思ヲ疎通シ得ルヲ以テ勞資共有共榮ノ實ヲ擧クルニ多大ノ效果アルモ政府ニ於テ保險管理ヲ爲ストキハ事業主ト従業員トヲシテ各個ニ權利主張ノ立場ニアラシムル關係上徒ニ相互ノ意思ヲ疎隔セシムル止マリ勞資ノ協調ヲ望ムヘカラスト認ム政府ノ所見如何

一健康保險實施以前ニ於テハ各事業主ハ勞務者保護ノ精神ノ下ニ傷害、疾病ニ對シテ救護ノ目的ノ積立等ヲ爲シ來リタルニ拘ラズ健康保險實施ノ結果強制的ニ給料ヨリ保險料ノ差引クニ至リ殊ニ現下經濟界深酷ナル不況ノ際ニ當テハ經營者モ勞働者モ漸ク收入低下ヲ見ツツアル際保險料ノ負擔ヲ強制スルハ政府社會政策ノ趣旨ニ反スルモノト認ム政府ハ之ニ對シ適當ナル改正ヲ加ヘ其ノ負擔減輕ヲ爲スノ意思ナキヤ

一政府保險管理ノ場合ニ於ケル所定保險料率ハ百分ノ四ニシテ從業員給料額一圓ニ付四錢ノ割合ニ相當ス而シテ其ノ料金四錢中其ノ半額ハ從業員ニ於テ他ノ半額ハ事業主ニ於テ負擔スヘキ制規ナルカ或種ノ事業ニ在リテハ例ヘハ織物業ノ如キ素雜業ノ如キ醬油酒造業ノ如キ比較的危险率少キ事業ニ在リテハ統計上百分ノ一・八即チ一圓ニ付一錢八厘ノ料金ヲ以テ保險管理ヲ爲シ得ヘキヲ以テ政府ノ保險管理ヨリ組合組織ノ方負擔輕キニ拘ラス強テ料金ノ重キ政府管理ノ保險ヲ強エルハ勞務從業員ノ經濟的生活ヲ不安ナラシムル憾アリ

ト認ム政府ノ所見如何  
特ニ注意スヘキハ政府ハ當初各種ノ事業ニ付恰モ組合組織ノ保險ヲ許可スルカ如キ口實ノ下ニ料金ヲ政府所定同率ヲ以テ出願ヲ勸誘シ後チ省議ヲ以テ其ノ認可ヲ與ヘザルコトニ決定シタリト聞ケ果シテ然ラハ其ノ出願ヲ基礎トセル率ヲ以テ辯明ノ資料ト爲スコトヲ許サズ

各主要工業別ニ付保險料率ヲ百分ノ四ト定メタル統計ノ基礎ヲ明示セラレタシ  
右及質問候也  
昭和二年二月二十一日 内閣總理大臣 若槻禮次郎 衆議院議長 柏谷義三殿

衆議院議員 砂田重政君提出健康保險法ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)  
衆議院議員 砂田重政君提出健康保險法ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 被保險者ヲ使用スル二以上ノ事業主カ共同シテ健康保險組合ヲ設立シ得ルコトハ健康保險法ノ規定スル所ナルモ今日此ノ種健康保險組合ノ設立認可ヲ爲ササルハ次ノ理由ニ基クモノナリ

即チ二以上ノ事業主ニ付キ組合ノ設立ヲ認可スルトキハ組合ヲ設立スル事業ニ付夫々設備ノ程度モ異ルヘク又其ノ事業ニ於ケル傷病其ノ他ノ危險率モ相同シカラサルモノアリ從テ共同シテ組合ヲ設立スルコトハ負擔ノ關係ニ於テ面白カラサル結果ヲ生スヘク又事業主間ノ感情其ノ他ノ事情ニ依リ必スシモ利害ヲ一ニセス爲メニ組合事務ノ遂行上共同一致ヲ缺キ支障ヲ來ス虞ナシトセズ殊ニ健康保險法ハ我邦ニ於テハ全く新ナル社會政策的施設ナルヲ以テ其ノ實施ノ當初ニ際シテハ法ノ圓滿ナル實施ヲ期スルカ爲比較的健康ナリト認メラルル組合ノ設立ヲ認可シ相當時期

ヲ經テ法ノ内容及組合事務ノ實際ノ周知ヲ得タル後漸次廣ク組合設立ヲ認可スルヲ以テ穩健ナル方策ト謂ハサルヘカラス  
一 健康保險ハ社會連帶ノ觀念ヲ基礎トシタル社會政策的施設ニシテ其ノ目的タルヤ要スルニ勞働者ノ經濟生活ヲ安固ニシ其ノ健康ヲ増進スルト同時ニ勞資兩階級間ノ反目ヲ除去輕減シテ勞資協調ヲ保持シ依テ以テ社會全體ノ安寧幸福ヲ増加シ社會ノ圓滿ナル發達ヲ計ラムトスルモノナリ故ニ組合組織ヲ以テ保險ヲ管理スルモ政府ニ於テ保險ヲ管理スルモ勞資ノ協調ヲ保持スル點ニ於テハ敢ヘテ異ル所ナキモノニシテ勞資ノ協調ヲ破ルカ如キコトハ健康保險法ノ目的及其ノ規定ニ微シ全然アリ得サル所ナリ加之健康保險ニ於テハ被保險者タル勞働者ニ對シ保險給付ヲ爲スモノハ事業主亦其ノ者ニアラスシテ政府又ハ健康保險組合ナルヲ以テ此ノ點ヨリ觀ルモ假令政府カ保險ヲ管理スルト雖モ勞資相反スル現象ヲ呈スルコト能ハサルモノト謂フコトヲ得ヘシ

一 健康保險法ニ於テハ勞働者ノ負傷、疾病、死亡及分婉ニ關シテ總ヘテ之ヲ救護シ以テ之等ノ事故ヨリ生スル災厄ヲ除去輕減セムトスルモノニシテ之ニ要スル經費ハ主トシテ政府ノ負擔金ト事業主及勞働者ヨリ徵收スル保險料ト以テ之ニ充ツルモノナリ而シテ現ニ賦課スル保險料率タルヤ保險給付ヲ爲ス爲ニ要スル費用ノ最低限度ニ止マル、而シテ之カ強制的ニ負擔セシメラルルハ社會保險ノ性質上當然ノコトト言ハサルヘカラス保險料率ノ低減ニ關シテハ今後ノ實況ニ徵シ本事業遂行ニ支障ナキヲ認ムルニ於テハ進ンテ適當ナル改正ヲ加フルヲ辭セザルモノナリ  
一 政府ノ管掌スル保險ニ於ケル保險料率ハ一般ノ場合ハ百分ノ四、炭坑ニ在リテハ百分ノ八ナルカ此率ハ全國工業ニ於ケル危險ヲ平均シタル率ニシテ各

個人事業ニ付健康保險組合ヲ設立シタル場合ニ於テハ其ノ利率カ之ト異ルヘキハ論ヲ俟タサルモ政府ノ見ル所ニ依レハ健康保險組合ノ保險料率ハ相當高率トナルヲ普通トスルモノト認メラレハ蓋シ傷病率ハ健康保險實施後ニ於テハ從來ノ統計ヨリモ一時増加スヘキハ先例ニ徴シテモ明ナルノミナラス組合ノ事務費ノ如キモ比較的多額ヲ要スルモノトス隨テ政府ノ管掌スル場合ト健康保險組合ノ管掌スル場合トニ於テ其ノ保險料率ハ大差ナカルヘク當時者ノ負擔ニモ大差ナキモノト謂フヘシ

次ニ政府ノ保險料率ハ前述ノ如ク全國ヲ一團トシテ保險給付ニ要スル總額ニ基キ被保險者數ニ依リ算出シタルモノナルヲ以テ工業別ニ之ヲ明示シ難シ右及答辯候也

昭和三十一年二月二十一日 內務大臣臨時代理 遞信大臣 安達 謙藏

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス〕

一 去十九日若槻內閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

內務省土木局長 次田大三郎 內務省所管事務政府委員被仰付

司法省民事局長 池田寅二郎 司法省所管事務政府委員被仰付

一 去十九日辭任シタル常任委員左ノ如シ

第一部決算委員 森 恪君 一 去十九日委員長補闕選舉ノ結果左ノ如シ

市町村義務教育費國庫負擔法中改正法律案(政府提出)委員

委員長 堀田義次郎君(委員長八木逸郎君昨十八日辭任ニ付其ノ補闕)

一 去十九日理事二名追加互選ノ結果左ノ如シ

北海道農地特別處理法案(丸山浪彌君外六名提出)委員

理事信太儀右衛門君 理事東郷 實君 一 去十九日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

議院法中改正法律案外一件委員

橫山金太郎君 高木益太郎君 村上紋四郎君 戶澤民十郎君 西脇 晉君 江藤 榮吉君 傳田 清作君 黒住 成章君 青木 精一君 山口 義一君 今井 健彦君 松岡 俊三君 杉 宜陳君 原 惣兵衛君 山谷徳治郎君 志波安一郎君 藏園三四郎君 林田龜太郎君 商法中改正法律案外四件委員

室木彌次郎君 廣瀬 徳藏君 松井 郡治君 中谷 貞頼君 吉木 陽君 近藤 達見君 飯村 五郎君 大石 大君 前田 兼實君

移住組合法案外一件委員

樋口 秀雄君 神田 正雄君 藤井 敬慎君 由谷 義治君 谷口源十郎君 山本 勝次君 村上 國吉君 渡邊 伍君 榊原 經武君 佐々木春作君 二木 洵君 木戸 豊吉君 島本 信二君 池田 泰親君 津崎 尚武君 奥野小四郎君 小島 善作君 岡田 温君 造林助成法案委員

神谷 彌平君 村山喜一郎君 中野 猪之助君 篠原 和市君 土井 權大君 八田 宗吉君 藤田胸太郎君 宮崎友太郎君 山口 左一君

鑛業法中改正法律案委員

中野 寅吉君 岡本實太郎君 山田 又司君 青木 精一君 砂田 重政君 坂井 大輔君 大城幸一君 逆瀬川仁次郎君 増田 義一君

一 去十九日水戸鐵道株式會社、越後鐵道株式會社、陸奥鐵道株式會社、苦小收輕便

鐵道株式會社及日高拓殖鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案外一件委員井上敬之助君橋本喜造君辭任ニ付其ノ補闕トシテ岡田豊吉君石塚三郎君ヲ北海道農地特別處理法案委員黒住成章君辭任ニ付其ノ補闕トシテ岡田伊太郎君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ 一 昨二十一日第四部選出豫算委員藤田胸太郎君死去セラレタリ 一 昨二十一日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ

第一部選出 決算委員 廣岡宇一郎君(森恪君補闕) 一 昨二十一日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

議院法中改正法律案(賀野米太郎君外一件提出)外一件委員

委員長 黒住 成章君

理事 村上紋四郎君 青木 精一君 山谷徳治郎君

商法中改正法律案(土屋清三郎君提出)外四件委員

委員長 大石 大君

理事 中谷 貞頼君 吉木 陽君 移住組合法案(津崎尚武君外九名提出)外一件委員

委員長 池田 泰親君

理事 神田 正雄君 渡邊 伍君 造林助成法案(川崎安之助君外十一名提出)委員

委員長 神谷 彌平君

理事 篠原 和市君 宮崎友太郎君 鑛業法中改正法律案(砂田重政君提出)委員

委員長 増田 義一君

理事 岡本實太郎君 青木 精一君

一 昨二十一日公益質屋法案委員原惣兵衛君

辭任ニ付其ノ補闕トシテ砂田重政君ヲ大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案外一件委員石坂豊一君辭任ニ付其ノ補闕トシテ原惣兵衛君ヲ未成年者飲酒禁止法中改正法律案委員前田房之助君辭任ニ付其ノ補闕トシテ清水市太郎君ヲ造林助成法案委員藤田胸太郎君死去ニ付其ノ補闕トシテ平山爲之助君ヲ輸出絹織物取締法案委員藤田胸太郎君死去ニ付其ノ補闕トシテ瀨沼伊兵衛君ヲ土地賃貸價格調査委員會法案委員山本芳治君辭任ニ付其ノ補闕トシテ高橋熊次郎君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ

○議長(粕谷義三君) 只今御報道申上ダテ置キマシタ通り、本院議員藤田胸太郎君ハ、昨二十一日逝去セラレマシタ、洵ニ痛惜哀悼ノ至リニ堪ヘマセヌ、仍テ議長ハ直ニ平詞ヲ御贈ヲ致シマシタ、此段御報告ヲ申上ダマス。是ヨリ會議ヲ開キマス、大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案外一件ノ委員長ヨリ、尙ホ九州製鋼株式會社ノ工場等ノ買收代金ニ關スル法律案ノ委員長ヨリ、商法中改正法律案外四件ノ委員長ヨリ、右何レモ本日本會議開會中、委員開會ノ許可ヲ求メラレマシタ、之ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス。一身上ニ關スル件ニ付キ發言ヲ求メラレテ居リマス、之ヲ許シマス、三木武吉君

〔三木武吉君登壇〕

○三木武吉君 昨二月ノ六日本議場ニ於キマシテ、議員安藤正純君ガ東京瓦斯株式會社ノ報償契約改訂ニ關スル緊急質問ヲナサレマシタ、ソレニ對シテ臨時內務大臣安達謙藏君ガ御答辯ニナラレマシタ、其質問應答ノ中ニ、私ノ身上ニ關スル重大ナル事柄ガ發表セラレテ居ルノデゴサイマス、其事ニ付テ去ル六日ノ最近ノ議會ニ於テ、直ニ身上ニ關スル辯明ヲ致シタイト存ジタノデゴサイマスルガ、不幸ニシテ餘儀ナキ事情ノ爲ニ、其機會ヲ得ルコトガ出來

ナカクテアリマス。幸ヒ本日茲ニ辯明ノ機會ヲ得ルコトヲ得マシタコトハ、私ノ洵ニ光榮ト致ス所デアルト同時ニ、議長並ニ諸君ニ對シテ厚ク御禮ヲ申上ゲテ置キタイト存ジマス。辯明ヲ致シタイト存ジマスル事柄ハ、大體二箇條デゴザイマス、其第一箇條ハ、安藤君ノ御演說中、東京瓦斯株式會社ガ過般株式ノ資本ノ増加ヲ致シマシタ際ニ、十五万何千株ト云フ株式ノ分配ヲ致ス際ニ、内五万餘株ハ其行衛ガ不明ニナリテ居ルノデアリ而シテ其行衛不明ニナリテ居ル株ハ、政界ニモ關係ノアル所ノ東京市政界ニ於ケル有力者デアルト云フコトモ、是亦殆ド公然ノ秘密ニナリテ居ルノデアルト云フ御言葉ガアルノデゴザイマス、今一箇條ハ自分ノ派ノ議員ノ中デ一市會議員ノ意味デゴザイマセウ、自分ノ派ノ議員ノ中デ説ヲ枉ガサシ者ガアッタノデ、憲政會ノ此輩ヲ送テ之ヲ毆打シ、負傷ヲ爲サシメタ下云フガ如キ所ノ情況ヲ呈シテ居ルノデアリマス、而モソレヲ指揮シタ人ハ誰デアルカ、風聞スル所ニ依レバ、政府ノ立派ナル政務官デアッタ人デアリマス、政務官デアッタ人デハナイ、今日デハ政務官デアッタ人ダガ、二三日間マデ暴行事件ノ起リタマデハ現在ノ政務官デアッタ人デアル、斯様ナコトヲ當壇上ニ於テ御斷言ニナリテ居ルノデアリマス、固ヨリ此安藤君ノ御言ニシテ事柄ハ、本人ガ何デアルコト明ニシ名ヲ御示シニハナラテ居リマセウケレドモ、之ニ對シテ安藤臨時内務大臣ノ御答辯中、後段ノ事柄ハ三木武吉君デアルト思フガト云フ御言葉ガアッテ、更ニ安藤君ノ御發言ニ於テ、臨時内務大臣ノ三木武吉君デアルカト云フ言葉ヲ御否定ニナリテ居ラナイ所カラ推定ヲ致シマスルト云フト、恐ラクハ安藤君ノ御言ニシテ事實ノ中心ハ、不肖三木武吉デアアルト云フコトヲ斷言セラレタノデハナカラウカト推測ヲ致スノデゴザイマス、若シ安藤君ノ御言ニシテ事柄ガ、私以外ノ者デアルト云フコトデアラナラバ、私ハ辯明ヲ致ス必要ハゴザイマセウ、併シ假ニモ斯ノ如キ言葉ヲ用ヒラレテ、且ツ

前後ノ御所論ヲ綜合致シマスルト云フト、大體ニ於テソレガ私ヲ指スモノデナカラウカト推測ヲ致スコトハ、必シモ無理カラヌコトデアルト信ジマスカラ、此點ニ付テ一言簡單ナル辯明ヲ致シテ置キタイト存ジマス、先ヅ第一ニ東京瓦斯株式會社ノ株券ガ、行衛不明ニナリテ居ルト云フコトヲ、安藤君ガ御斷定ニナリテ居ルヤウデゴザイマス、能クモ安藤君ハ東京瓦斯株式會社ノ内情ヲ御承知ノコトデ、私洵ニ驚キ入リタノデゴザイマスルガ、不肖私ハ東京瓦斯株式會社ノ株式ガ何人ノ手ニ出デテ居ルノデアルカ、又現在何人ガ其株式會社ノ株主デアルカハ承知ヲ致シマセウ、少クトモ是ダケノコトヲ私ハ斷言ガ出來ル、不肖三木武吉ハ東京瓦斯株式會社ノ株式ヲ、生レテカラ今日マデ一株モ持ッタコトモナイ（拍手）極端ニ申セバ株式ト云フモノヲ一枚見タコトモアリマセウ（拍手）是ダケノコトヲ私ハ天地神明ニ誓フテ申上ゲテ置キマス、更ニ私ノ此斷言ヲ確實ニ證據立テル爲ニ、私ハ一身ヲ之ニ賭スルノデアリマス、萬一デスヨ、萬一三木武吉ガ東京瓦斯株式會社ノ株式ヲ、會テ一株モ持ッタコトデアルト云フ事實ガアッタラ——最近デゴザイマセウ、株式會社創立以來今日ニ至ルマデ、一株デモ持ッタコトヲ事實ガアッタラバ、若クハ瓦斯會社ノ株式ニ關係ヲシタコトヲ事實ガアッタラバ、即時斷然議員ヲ辭職致シマシテ、諸君ニ御託ヲ致シマス（拍手）

〔其言忘レルナ〕ト呼フ者アリ、其他發言者多シ

○議長（粕谷義三君） 靜肅ニ願ヒマス

○三木武吉君（續） 第二ニ議員ニ對シテ壯士ヲシテ暴行ヲ加ヘシメタト云フコトヲ言ウテ居ラレル、安藤君ハソレヲ或ハ直接デアルカ、間接デアルカ知ラナイイガト云フコトヲ言ハレテ居ル、私ハハッキリ申上ゲテ置ク、後ニ於テ議員ニ對シテ暴行ヲ加ヘタル者アリト云フコトハ聞キマシタケレドモ、事前ニ於テ之ヲ知ラズ、隨テ調査指圖

等ハ直接間接ノ方法ニ於テ、斷ジテ致シタコトガ無イト云フコトヲ言明致シテ置ク（拍手）向ホ序デゴザイマスカラ申上ゲテ置キマスルガ、此安藤君ノ御演說ニ關係ヲセラレマシテ、近藤達兒君ガ又何カ瓦斯會社ノ株式ノ行衛ニ付テ、大變御心配ニナリテ、此議場デ御演說ヲ爲サレテ居リマス、無論近藤君ノ御演說中ニ、三木武吉ガ關係者デアルト想像ノ出來ルヤウナ御言葉ハゴザイマセウガ、萬一ニモ左様ナル御疑念ガアッテ、御託ニナリタコトデアリトスレバ、是亦明ニ辯明ヲ致シテ置カナケレバナラヌ、前段安藤君ノ御託ニ對シテ私ガ辯明シタルコトハ、以テ近藤達兒君ノ御演說ニモ引用セラレシコトヲ希望致シマス、最後ニ私ガ申上ゲテ置キタイト存ジマスルノハ、既ニ此問題ニ付テハ私ハ職ヲ賭シ一身ヲ賭シテ、其無キコトヲ言明ヲ致シタノデゴザイマス、斯ノ如キ疑念ヲ私ノ身邊ニ投ゼラレタル方ニハ、無論有力ナル根據ガアッテ、立派ナル自信ヲ持テ述ベラレタコトデアラウト私ハ確信ヲ致スノデアル（拍手）若シ諸君ニシテ此言葉ヲ吐カレタル方ニシテ、ソレダケ立派ナル自信ヲ確信ガアルナラバデス、言論ノ自由ヲ得、如何ナルコトヲ申述ベテモ法律上ノ責任ヲ帯ビナイト云フヤウナ此議場デ仰セラレナイデ、衆議院ノ門外一步外ニ出テ、法律上ノ制裁ヲ賭ケニシテ三木武吉ノ名ヲ明ニシテ言ウテ貫ヒタイ（拍手）吾輩ハ身命ヲ賭シテ、名譽ヲ犠牲ニシテ之ヲ申述ベルノデアル以上ハ、其私ニ是ダケノ決心ヲセシムル所ノ安藤君ニシタ所ガ、近藤君ニシタ所ガ、餘程ノ根據ノアルベキ筈デアル、アルベキ筈デアラナラバ何ガ故ニ衆議院ノ門外一步外デ之ヲ申述ベラレナイノデアルカ、言論ノ自由ノアル、恰モ墮壞ニ立籠テ敵ヲ陰ニ狙撃スルガ如キ卑怯ナル振舞ト云フモノハ、苟モ男子ノ斷ジテ爲スベキモノデナイ私ハ思フノデアル（拍手）尙ホ近藤君ニシテレタ所ガ、又安藤君ニシテレタ所ガ、此御質問ノ要旨ヲ想像致シマスルト、此問題ニ付テ司法權ノ發動ヲ御希望ニナリテ居ルヤウニ私ハ推

測ヲ致ス、諸君ガ眞ニ司法權ノ發動ヲ御希望ニナルナラバ、衆議院ノ門外ニ出デ、此事ヲ斷言ナサレバ、直ニ司法權ノ發動ハアルノデアリマス、私ハ必ズ近藤君ヲ告訴致スノデアル、之ヲ言明セラレタル安藤君ヲ告訴致スノデアル、然ラバ直ニ司法權ノ發動ハ茲ニ起リテ黑白ハ法廷ニ明ニナルノデゴザイマスカラ、諸君ノ御希望カラ致シマシテモ、衆議院ノ外ニ於テ之ヲ御言明ニナランコトヲ私ハ切ニ希望致シマス（拍手）

○議長（粕谷義三君） 是ヨリ日程ニ入りマス

○安藤正純君 議長

○議長（粕谷義三君） 安藤正純君何デスカ

○安藤正純君 一身上ノ辯明ヲ致シタウゴザイマス

○議長（粕谷義三君） 許シマス——發言ヲ許シマス

〔安藤正純君登壇〕

○安藤正純君 只今三木武吉君ガ、私ノ先般此壇上ニ於キマスル質問ニ付キマシテ御辯明ガゴザイマシタ、私ハ一言モ三木武吉君ト云フ名ハ御託ハ致サナイ（卑怯者）ト呼フ者アリ

○議長（粕谷義三君） 靜肅ニ願ヒマス

○安藤正純君（續） 私ハ一言モ三木武吉トモ言ハナイノデアリマス（卑怯者）ト云フ言フナ）ト呼フ者アリ）卑怯カ卑怯デナイカ、是カラ言フコトヲ聽イタラドウダ（拍手）言ハナイノヲ三木君自身ガ恐ラク自分ノ事デアラウト御推測ナサレルトハ、ソレ程三木君ノ肚ノ中ニ私ノ言タコトガ、自分ノヤッテ居ルコトデアルト云フコトガ、御自身ガ之ヲ認メル證據デハナカラウカト思フ（拍手）私ガ縱ンバ最後マデ三木トモ武吉トモ言ハナイデモ、是等ノ事ニ付テハ世間ニ於キマシテハ——既ニ世間ニ於テハ三木武吉君デアルト云フコトガ、是ガ殆ド明カナル程ノ噂ニナリテ居ルノデアリマス（拍手）又只今三木君ハ此處デ、東京瓦斯ノ株一枝モ持ッタコトハナイ、見タコトモナイト仰シヤッタ、併シ是ハ株ヲ一株モ持ッタ

コトモナク見タコトモナクトモ——見タコトガナク持テタコトガナクレバ、其株ヲ色トナコト二人ヲ使テヤルコト出ルナクト云フ理窟ハアルマイト思フ(拍手)三木君ノヤウナ、本職ノ仕事ヲ打捨テ、マデ東京市會ノ内外ニ出入シテ乗配ヲ揮テ居ルヤウナ辣腕ナル御方ハ、君自身ガソレヲ持テナイデモ、ドンナ仕事デモ恐ラク貴方ノ辣腕デハ出来ラデアラウト思フ(拍手)

○議長(粕谷義三君) 安藤君——安藤君ニ注意致シマス、貴方ノ一身上ノ辯明ニ付テ御述ヲ願ヒマス

○安藤正純君(續) 又壯士ヲシテ暴行ヲ使嚇シタコト云フコトヲ言ヒマシタガ、ソレガ三木君デアルト云フコトハ私ハ一言モ申上ゲナイ(卑怯ナコトヲ言フナ)ト呼ブ者アリ(卑怯デナイ)——卑怯デハナイ

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス

○安藤正純君(續) 私ノ肚ヲ抜イテ言ハシメレバ、其人ノ名ガ誰デアアルカト云フコトヲ指摘シテモ宜シイノデアアルガ、私ノ此間ノ質問ノ目的ハ其處ニ在ラナイ、ハナイ、斯ノ如ク自治體ガ紊亂ヲシテ、一人ノ有力ナル人ニ搔廻サレテ居ルヤウナ自治體デハ、甚ダ宜シクナイカラシテ、此監督者タル内務大臣ハ如何ナルコトヲシテ居ルカ、又後暗イ話ガ澤山アルカラ、何故司法權ガ之ニ向テ發動ヲシナイノデアアルカト云フコトヲ、

今日ノ内務、司法兩當局者ニ質問ヲシ、又注意ヲ致シタノガ此間ノ私ノ緊急質問ノ要旨デアアルデアリマス(拍手)ソレヲ徒ニ三木君ガ自分カラ推測ヲシテ、己レニ罪ヲ搔達ムヤウニスルト云フコトハ、所謂狡シイ所アル者ハ美シイ言葉、美シイ心ヲ持テ居ル質問モ、之ニ對シテ己レノ狡シイ所ヲ自ら此壇上デ辯明サレタト同ジコト、私ハ思フノデアリマス(拍手)尙ホ須ラク三木君ハ左様ナ部分ノ辯明ヲ爲サラナイデ、世間ガ如何ニ考ヘテ居ルカ、如何ニ見テ居ルカト云フコトヲ貴方ガ内省ヲ致シマシテ、自分ノ心ニ御問ニナルコトガ、最モ此際ニ於ケル適當ノ措置デハナカラウカト思フノデアリマス(拍手)

○三木武吉君 簡單デゴザイマスカラ、自席カラ一身上ニ關スル辯明ヲ致シテ置キマス

○議長(粕谷義三君) 許シマス

○三木武吉君 私が過般ノ安藤君ノ御演説ニ對スル身上ノ辯明ハ、既ニ盡キテ居ルモノト確信ヲ致シマス、同時ニ私ノ辯明ニ依リテ安藤君其他ノ方マシテモセラレマシタ所ノ疑問ト云フモノハ、一掃サレタモノト信ジマス(拍手)ノウ(一)唯、茲ニ申上ゲテ置カナクバナラヌコトハ、只今安藤君ガ御登壇ニナラテ御話ニナラレタ、私自ラ問題ノ推移ヲ語ルモノデアルト云フヤウナ意味ノ御言葉ガアリマシタガ、私自ラ顧ミテ天地ニ愧ヂザル者デアアル、身命ヲ賭スルト云フノデアアリマセヌカ、職務ヲ賭スルト云フノデアアリマセヌカ、安藤君ガ此私ノ言葉ニ對シテ更ニ打返スダケノ有力ナル根據アルナラバ、何故ニ私ノ要求ヲ致シテ居ル門外ニ一步外ニ出テ、三木武吉ヲ御攻撃ニナラナイノカ、男子ヲシテ斯ノ如キ決心ヲ爲サシメ、自ラハ聖塚ニ立籠テ卑怯ニ身ヲ蔽フテ敵ヲ狙撃スルガ如キコトハ、少クトモ日本男子ノ爲スベキコトデナイ(拍手)

○議長(粕谷義三君) 是ヨリ質問者ノ趣旨辯明ヲ許シマス、質問第一、和議法中改正ニ關スル質問、加藤十四郎君

一 和議法中改正ニ關スル質問(加藤十四郎君提出)

和議法中改正ニ關スル質問主意書  
右成規ニ據リ提出候也  
昭和二年一月二十九日  
提出者 加藤十四郎

和議法中改正ニ關スル質問主意書  
凡ソ債務者(假リニ法人ノ場合ヲ標準トシテ)支拂フ債權者中破産申立ノ舉ニ出ツルモノアルヲ例トス而シテ債務者カ之ヲ防止スヘク和議法上ノ和議申立ヲ爲スハ亦實ニ容易キノ道理ニシテ此ノ場合債務者ハ十分精確ナル計數ヲ示スノ暇ナク遲滞ナク暫定的條件ヲ申立ツルノ外ナキ

事情アル爲他日其ノ和議條件ヲ變更スルノ必要ニ達スルヲ常トス然レニ現行和議法ハ其ノ第四十九條中ニ於テ債權者集會ニハ破産債權者三百二條「強制和議ノ提議者ハ破産債權者ノ利スル場合ニ限リ債權者集會ニ於テ其ノ條件ヲ變更スルヲ得」テフ條文ヲ準用スルヲ得ト規定スルニ過キス後和議申立人ハ和議開始前若ハ和議開始後和議債權者集會期日前迄ノ期間ニハ和議條件ヲ和議債權者ノ爲不利ニ變更スルヲ得ルヤ否ヤニ關シテハ何等ノ規定ヲ有セサルハ隔靴搔痒ノ感ナキ能ハス殊ニ該債務者カ他ノ法人ヘ委託經營又ハ合同等ノ複雜ナル關係ヲ生スル場合ニ於テハ益事態ヲ困難ナルシムルコト尠カラズ債務者及債權者ヲシテ其ノ利害得失上重大ノ岐路ニ立タシムルノ弊アルハ法文ノ不備ヲ意味スルニアラヌヤ且和議法中和議條件ニ關シテハ第十八條第五號、第二十八條第三項ニ其ノ片鱗ヲ示スニ止マリ該條件其ノモノヲ主體トセル些ノ明文ナキカ如キモ先進國ノ斯法ニ比シ頗ル遜色アルモノニアラスヤ若クハ和議條件ノ變更ハ民事訴訟法第九十六條第二號ニ所謂訴ノ申立ノ擴張又ハ減縮ニ該當スヘキモノトセハ準用ノ意義ニ於テ類似ノ規定ナカルヘカラサルニ拘ラヌ何等ノ明文ヲモ存セザルニアラヌヤ之ヲ要スルニ大正十一年四月法律第七十二號ノ斯法ハ我カ國ニ於テ最初ノ試ミナル丈ケ實際上發生スヘキ幾多ノ事項ヲ豫想スルコト能ハス所謂語リテ審ナラス記シテ精ナラス如上ノ缺陷ヲ免レサルモノノ如シ然レニモ拘ラス政府ハ現行和議法ヲ完全無缺ナリトシ寸毫モ改正ノ必要ナシト思惟セラレツツアリヤ茲ニ敢テ其ノ所見ヲ要求ス

右及質問候也  
(加藤十四郎君登壇)

○加藤十四郎君 和議法中改正ニ關スル質問ニ付テ、極メテ簡單ニ其趣意ヲ説明致シタク思ヒマス、和議法ハ我國ニ於テ新シキ試デアラダケニ、立法技術ノ點カラ見マスルト、頗ル奇觀ヲ呈シテ居ルノデアアル、即チ和議法其モノハ僅々七十箇條カラ成テ居ルニ拘ラズ、破産法ヲ準用セラル、モノハ、八十五條ノ多キニ達シテ居ルノミナラズ、民法、民訴法、商法カラソレニ準用サレテ居ルモノノ頗ル複雑ヲ極メテ居ルノデアリマス、是ニ於テ此和議法中ノ骨子タル所ノ和議條件ナルモノニ付テハ、ソコニ纒然トシテ周到委曲ヲ盡ス所ノ規定ガナクハナラヌノデアアル、所ガ其和議條件其モノモ、破産法カラ準用サレテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ立法組織デゴザイマスカラシテ、此法律ヲ以テ失敗セル債務者ノ善後處理ニ適用スル場合ニ於テハ、果シテ其遺憾ナキヲ得ルヤ否ヤト云フコトハ、大ニ考慮ヲ要スル點デアリマス、所デ此債務者ノ失敗ト申シマスルモ、ソコニ個人アリ法人アルノデアリマスケレドモ、私ハ茲ニ其性質ノ最モ複雑ナル所ノ銀行整理ノ場合ニ於テ之ヲ述ベタク存ジマス、デ銀行ノ整理ニ著手スルニ當リマシテハ、多數ノ債權者即チ預金者ノ中ニハ破産ノ申立ヲスル者ガアルノハ、是レ想像シ易キ所デアリマス、シマスルト銀行側ニ於キマシテハ、應急手段トシテ、破産申立ヲ防止スル爲ニ、和議ノ申立ヲナシテ、之ニ對抗スル必要ガアルノデアリマス、併ナガラ整理勿々ノ際ナルガ故ニ、破産セル銀行ノ提出スル貸借對照表ノ如キモノハ杜撰ナモノデアアルト云フコトハ言フマデモナイノデアアル、併ナガラ其杜撰ナルニ拘ラズ、取敢ヘズ和議條件ヲ提出スルノ必要ガアル、是ハ第十三條ノ規定スル所デアリマス、ソコデ斯ノ如ク急遽勿々ノ際作製シタル所ノ和議條件ナルモノハ、謂ハハ暫定的ノモノデアアルカラシテ、臆テ是ハ近キ將來ニ於テ變更シナケレバナラヌト云フ運命ヲ有シテ居ルノデアアル、是ガ和議條件ナルモノガ變更シ易キ場合ノ第一點デアアル

○議長(粕谷義三君) ドウカ私話ヲ御控ヘテ願ヒマス

○加藤十四郎君(續) ソレカラ段々整理ノ進行スルニ連レマシテ、銀行ガ提出シタ所ノ貸借對照表ナルモノハ、極メテ不正確デ

事情アル爲他日其ノ和議條件ヲ變更スルノ必要ニ達スルヲ常トス然レニ現行和議法ハ其ノ第四十九條中ニ於テ債權者集會ニハ破産債權者三百二條「強制和議ノ提議者ハ破産債權者ノ利スル場合ニ限リ債權者集會ニ於テ其ノ條件ヲ變更スルヲ得」テフ條文ヲ準用スルヲ得ト規定スルニ過キス後和議申立人ハ和議開始前若ハ和議開始後和議債權者集會期日前迄ノ期間ニハ和議條件ヲ和議債權者ノ爲不利ニ變更スルヲ得ルヤ否ヤニ關シテハ何等ノ規定ヲ有セサルハ隔靴搔痒ノ感ナキ能ハス殊ニ該債務者カ他ノ法人ヘ委託經營又ハ合同等ノ複雜ナル關係ヲ生スル場合ニ於テハ益事態ヲ困難ナルシムルコト尠カラズ債務者及債權者ヲシテ其ノ利害得失上重大ノ岐路ニ立タシムルノ弊アルハ法文ノ不備ヲ意味スルニアラヌヤ且和議法中和議條件ニ關シテハ第十八條第五號、第二十八條第三項ニ其ノ片鱗ヲ示スニ止マリ該條件其ノモノヲ主體トセル些ノ明文ナキカ如キモ先進國ノ斯法ニ比シ頗ル遜色アルモノニアラスヤ若クハ和議條件ノ變更ハ民事訴訟法第九十六條第二號ニ所謂訴ノ申立ノ擴張又ハ減縮ニ該當スヘキモノトセハ準用ノ意義ニ於テ類似ノ規定ナカルヘカラサルニ拘ラヌ何等ノ明文ヲモ存セザルニアラヌヤ之ヲ要スルニ大正十一年四月法律第七十二號ノ斯法ハ我カ國ニ於テ最初ノ試ミナル丈ケ實際上發生スヘキ幾多ノ事項ヲ豫想スルコト能ハス所謂語リテ審ナラス記シテ精ナラス如上ノ缺陷ヲ免レサルモノノ如シ然レニモ拘ラス政府ハ現行和議法ヲ完全無缺ナリトシ寸毫モ改正ノ必要ナシト思惟セラレツツアリヤ茲ニ敢テ其ノ所見ヲ要求ス

事情アル爲他日其ノ和議條件ヲ變更スルノ必要ニ達スルヲ常トス然レニ現行和議法ハ其ノ第四十九條中ニ於テ債權者集會ニハ破産債權者三百二條「強制和議ノ提議者ハ破産債權者ノ利スル場合ニ限リ債權者集會ニ於テ其ノ條件ヲ變更スルヲ得」テフ條文ヲ準用スルヲ得ト規定スルニ過キス後和議申立人ハ和議開始前若ハ和議開始後和議債權者集會期日前迄ノ期間ニハ和議條件ヲ和議債權者ノ爲不利ニ變更スルヲ得ルヤ否ヤニ關シテハ何等ノ規定ヲ有セサルハ隔靴搔痒ノ感ナキ能ハス殊ニ該債務者カ他ノ法人ヘ委託經營又ハ合同等ノ複雜ナル關係ヲ生スル場合ニ於テハ益事態ヲ困難ナルシムルコト尠カラズ債務者及債權者ヲシテ其ノ利害得失上重大ノ岐路ニ立タシムルノ弊アルハ法文ノ不備ヲ意味スルニアラヌヤ且和議法中和議條件ニ關シテハ第十八條第五號、第二十八條第三項ニ其ノ片鱗ヲ示スニ止マリ該條件其ノモノヲ主體トセル些ノ明文ナキカ如キモ先進國ノ斯法ニ比シ頗ル遜色アルモノニアラスヤ若クハ和議條件ノ變更ハ民事訴訟法第九十六條第二號ニ所謂訴ノ申立ノ擴張又ハ減縮ニ該當スヘキモノトセハ準用ノ意義ニ於テ類似ノ規定ナカルヘカラサルニ拘ラヌ何等ノ明文ヲモ存セザルニアラヌヤ之ヲ要スルニ大正十一年四月法律第七十二號ノ斯法ハ我カ國ニ於テ最初ノ試ミナル丈ケ實際上發生スヘキ幾多ノ事項ヲ豫想スルコト能ハス所謂語リテ審ナラス記シテ精ナラス如上ノ缺陷ヲ免レサルモノノ如シ然レニモ拘ラス政府ハ現行和議法ヲ完全無缺ナリトシ寸毫モ改正ノ必要ナシト思惟セラレツツアリヤ茲ニ敢テ其ノ所見ヲ要求ス

事情アル爲他日其ノ和議條件ヲ變更スルノ必要ニ達スルヲ常トス然レニ現行和議法ハ其ノ第四十九條中ニ於テ債權者集會ニハ破産債權者三百二條「強制和議ノ提議者ハ破産債權者ノ利スル場合ニ限リ債權者集會ニ於テ其ノ條件ヲ變更スルヲ得」テフ條文ヲ準用スルヲ得ト規定スルニ過キス後和議申立人ハ和議開始前若ハ和議開始後和議債權者集會期日前迄ノ期間ニハ和議條件ヲ和議債權者ノ爲不利ニ變更スルヲ得ルヤ否ヤニ關シテハ何等ノ規定ヲ有セサルハ隔靴搔痒ノ感ナキ能ハス殊ニ該債務者カ他ノ法人ヘ委託經營又ハ合同等ノ複雜ナル關係ヲ生スル場合ニ於テハ益事態ヲ困難ナルシムルコト尠カラズ債務者及債權者ヲシテ其ノ利害得失上重大ノ岐路ニ立タシムルノ弊アルハ法文ノ不備ヲ意味スルニアラヌヤ且和議法中和議條件ニ關シテハ第十八條第五號、第二十八條第三項ニ其ノ片鱗ヲ示スニ止マリ該條件其ノモノヲ主體トセル些ノ明文ナキカ如キモ先進國ノ斯法ニ比シ頗ル遜色アルモノニアラスヤ若クハ和議條件ノ變更ハ民事訴訟法第九十六條第二號ニ所謂訴ノ申立ノ擴張又ハ減縮ニ該當スヘキモノトセハ準用ノ意義ニ於テ類似ノ規定ナカルヘカラサルニ拘ラヌ何等ノ明文ヲモ存セザルニアラヌヤ之ヲ要スルニ大正十一年四月法律第七十二號ノ斯法ハ我カ國ニ於テ最初ノ試ミナル丈ケ實際上發生スヘキ幾多ノ事項ヲ豫想スルコト能ハス所謂語リテ審ナラス記シテ精ナラス如上ノ缺陷ヲ免レサルモノノ如シ然レニモ拘ラス政府ハ現行和議法ヲ完全無缺ナリトシ寸毫モ改正ノ必要ナシト思惟セラレツツアリヤ茲ニ敢テ其ノ所見ヲ要求ス

アルト云フコトヲ發見スル順序ニナリマスガ、サウシマズルト又茲ニ和議條件ヲ更正スル必要ガアルノミナラズ、此銀行ナルモノガ資本ノ限度トスル所ノ整理ハ、兎ニ角一通リ目鼻ガ付イタト致シマシテモ、重役カラ財産ヲ提供スル場合ガアル、其財産タルヤ動産アリ、不動産アリ、有價證券アルガ故ニ、之ヲ處分、換貨シテ其對外債務ヲ銷却シテ、殘ル所ノ財産ノ幾何ヲ銀行ニ提供シ得ルト云フコトヲ十分突止メルマデハ、茲ニ相當ノ時間ヲ要スルノデアル、何故カト云フト、餘リ狼狽ヘテ財産處分ヲスレバ、相當ノ値賣ルコトガ出來ナイ、ソレカラモウツハ、裁判所ハ第二十一條ヲ以テ多クノ場合ニ於テ辯護士ヨリ整理委員ヲ選任致シマス、此辯護士ノ整理委員ナルモノハ、一定ノ期間内ニ和議條件ニ付テ和議開始ノ事ニ付テ、意見ヲ法廷ニ提出シナケレバナラスノデアリマス、裁判所トシテハ無暗ニ之ヲ遅延ヲ許サヌノデアル、ドテラカト云フト、非常ニソレヲ急グノデアリマス、ソレ故ニ此辯護士出身ノ整理委員ト致シマシテモ、愈々正確ナル所ノ和議條件ガ出來ルマデ待ツ暇ガナイノデアルカラシテ、大概ノ所ニ於テ意見ヲ報告シナケレバナラヌノデアル、又和議條件ナルモノハ、是ハ軀テ或ル場合ニ於テハ之ヲ變更スルト云フ必要ガアルト云フコトヲ意味スル場合デアリマス、ソレカラ更ニ進ンデ銀行側ノ整理委員及普通選任整理委員ノ意見ガ符合シマシテ、此和議條件ノ程度ニ於テ進行シテ宜シト云フ程度ニ達シタモノト假定致シマシテモ、其處ニ二ツノ問題ガ起ル、ソレハ何デアアルカト云フト、第一ハ此程度ノ和議條件ヲ以テ銀行整理ノ爲ニ獨立自管ノ覺悟ヲ以テ進行スベキヤ否ヤ、第二ノ問題ハ若シ獨立自管ガ出來ナイト云フ場合ニハ、他ノ有力ニシテ而シテ信用アル有ル所ノ銀行ト併合スルノ外ナイ、併合スベキヤ否ヤト云フ問題デアリマス、所ガ此獨立自管ト云フコトニ付キマシテハ、今日マデ我國ニ於テ破産シタ銀行ノ場合ヲ見マスル

ト、殆ド出來ナイノデアアル、尤モ其中デ彼ノ藤澤町ノ關東興信銀行ノ如キ、是ハ特殊ノ有力ナル人ガ其所ニ盡力致シマシタ結果トシテ、一年餘リニシテ漸ク再開業ガ出來マシタノデアリマスケレドモ、是ハ例外デアアルノデアアル、多クノ場合ニ於テハサウ旨ク整理ガ出來ナイノデアアル、又日本銀行ヤ大藏省ト致シマシテモ、其時程度ノ和議條件デアアルナラバ、ソレハ再開業ヲ許シテナラヌト云フ意見ヲ採ラレルノハ、普通ノ場合ニ於テ是ハ有り勝ノ事デアアル、ソレ故ニ詰リ獨立自管ヲ以テ進ムト云フ方針デ中止スルノ外ナイノデアアル、之ヲ中止スルナラバ如何ナル方面ニ進ムカト申シマスレバ、則チ第二段ノ問題ニ移ッテ、他ノ有力ナル銀行ト合同スルノ外ハナイノデアアル、所ガ此方ガ持テ居ル所ノ整理銀行ガ持テ居ル所ノ和議條件ノ程度ニ對シテ、合同セントスル所ノ他ノ有力ナル銀行ガ、オイソレト其條件ヲ認メルカト云フト、是ハ決シテ認メハシナイノデアリマス、必ズ修正讓歩ヲ求メルノハ當然デアアル、サウシマズルト此整理銀行ト云フモノハ、自分ノ方ニ弱味ガアルカラシテ、全部ノ要求ニ應ズルノ外ハナイノデアリマス、是ニ於テカ此和議條件ナルモノハ又再ビ之ヲ變更スルノ必要ニ達スル次第デアリマス、斯ノ如クニシテ和議條件ナルモノハ屢々變更ノ已ムナキ所ノ事情ガ存在スルガ故ニ、本員ノ見ル所ヲ以テスレバ、和議法中ノ和議條件ニ關スル規定ト云フモノハ、第十三條ノ和議申立ノ時カラ第四十六條ノ債權者集會期日以前ニ至ルマデノ間ニ於テハ、必要ニ應ジテ和議條件ヲ變更スルヲ得ルト云フ事ニシナケレバナラナイノデアリマス、所ガ此和議法ハ然ラバ此點ニ付テ如何ナル規定ヲ爲シテ居ルカト申シマス、其第四十九條ハ破産法三百二條ヲ準用シテ居ル、其箇條ニ依リマズルト「強制和議ノ提供者ハ破産債權者ヲ利スル場合ニ限り債權者集會ニ於テ其ノ條件ヲ變更スルヲ得」斯ウ云フ條文ヲ準用スルコトニナシテ居リマス、所ガ此條件ト云フモノハ、唯、債權者集會期日

ニ於テ有利ニカ不利ニカ變更スルヲ得ルト云フコトニ規定シタ、ケノ法律デアリマス、之ヲ論理カラ照シテ申シマスルト、是ハ時間ノ或ル部分ノ見地ニ於テ、一定ノ事項ニ付テ不周義ノ肯定又ハ否定ヲ爲スニ過ギナイ、所デ不周義ノ肯定又ハ否定ナルモノハ、空間ノ見地ニ於テ殘餘ノ事項ニ付キ何等ノ支配力ヲ有セヌト云フコトハ、是ハ論理ノ命ズル所デアリマス、此論理ノカト云フモノハ矢張法律ノ解釋ノ場合ニ於テモ應用スルコトガ出來ルノデアアル、是ニ於テ此四十九條バカリデハイケナイカラシテ、ソレニ附帶シテ斯ウ云フ問題ガ起ッテ來ルノデアアル、和議開始決定前ハ勿論、和議開始決定後、債權者集會期日以前ニ於テナラバ、有利ニハ勿論、不利益ニモ債權者ノ爲ニ和議條件ヲ變更スルヲ得ルヤ否ヤト云フ問題ガ生ジテ來ルノデアリマス、是ガ實ニ和議法中ノ「ワイタルポイント」デアアル、所ガ此點ニ對シテ其處ニ何等規定ガ無イト云フコトハ、法ノ不備モ甚シト謂ハナケレバナラヌデアリマス、勿論唯、解釋上カラ申シマスナラバ、事實上ノ變更ニ基イテ、之ヲ論ズレバ、ソレハ肯定ノ二解釋シテ宜シイノデアアル、併ナガラソレヲサウ解釋シ得ルトスルナラバ、手續上カラシテ和議條件ヲ記載シタル書面ノ送達ガ必要デアアル譯デアアル、所ガ其點ニ付テハ和議法律中ニ何等ノ規定ガナイ、旁、以テ如何ニ法律中ニ不備デアアルカト云フコトヲ立證スルニ足ルデハアリマセヌカ、更ニ一歩ヲ讓ッテ左様ニ解釋シ得ルト致シマシテモ、其場合ハ和議法第二十七條乃至三十條ノ規定ニ抵觸ヲ致スノデアリマス、旁、不都合ノ結果ヲ生ズルノデアアルカラシテ、解釋ガケデモスルコトハ出來ヌト云フコトニナルノデアリマス、ソレ故ニドウシテモ此和議開始決定後、債權者集會期日以前ナラバ、和議條件ヲ債權者ノ利益ガ變更スルヲ得ルト云フコトニ付テノ規定ハ極メテ必要デアアル、隨テ之ヲ缺イテ居ルト云フコトハ實ニ法ノ不備タルヤ明白デアリマス、ソコデ斯ノ如クニ法ノ不備ノ結果トシテ債務者、殊ニ銀行ナドノ

破綻ノ場合ニ於テ之ヲ整理スルニ當リマシテハ、折角和議法ニ依リテ有利ノ解決ヲ得ント欲シナガラ、中途ニシテ進行ヲ阻止セラレマス、隨テ債權者集會ニ至ラザル前ニ、既ニ頓挫ヲ來シテ、サウシテ遂ニ失望ノ餘リ破産處分ニ一任スルノ外ナイト云フヤウニナシテ來ルノデアリマス、併ナガラ此破産ニ託シテ之ヲ解決スル場合ニハ、世ノ中ニ破産三步ト云フ諺ガアル、即チ破産ニ訴ヘル場合ハ、例ヘバ和議法デ整理スル場合ニハ五分ノ切捨テ、十分デアルト云フ時ニ於テモ、破産ノ場合ニ於テハ七分以上ヲ切捨テナケレバナラヌト云フコトハ普通ノ例デアアル、サウシテ見マス、破産手段デ之ヲ解決スル場合ハ、債權者若クハ債務者ニ對シテモ如何ニ不利益デアアルカト云フコトハ申スマデモナイノデアアル、斯ノ如ク和議法ノ規定ガ不十分ノ爲メ、遂ニ破産ニ訴ヘルノ已ムナキニ至ッテ見ル、其結果ト云フモノハ非常ニ恐ルベキモノガアル、私ノ知ル限リニ於テハ、全國ニ於テ目下銀行ノ既ニ破産セルモノ百六十、將ニ破産ノ危機ニ瀕セントスルモノガ數十アルノデアリマス、是等ノ銀行ノ中デ事情單純ナルモノハ、只今ノ現行法ガケデ何等ノ差支ナク處理スルコトガ出來ルマデ、併ナガラ盤根錯節、非常ニ混雜ヲ來セヤウナ銀行ノ場合ニ於テハ、此破産法中ノ和議條件ニ關スル規定ガ不十分ノ爲ニ、其進行ガ妨ゲラル、ト云フ結果ヲ來スノデアアル、サウシマズルト政府トシテハ茲ニ若眼サレテ、法ノ不備ヲ補フベク、破産法中改正法律案デモ出サレルノガ相當デアリマスガ、今日ニ至ルマデ何等其事ニ付テ聞ク所ガナイ、況ヤ私ハ政府ノ回答ナルモノニ接セヌノデアアル、デ之ヲ想像シマスルニ、政府ハドウ云フ御考デアアルカト云フニ、或ハ斯ウ考ヘテ居ラレルノデハナイカ、即チ解釋ト云フコトハ、是ハ裁判所ノ職權ニ屬スルモノデアッテ、政府ノ關スル所ニ非ズ、解釋ナルモノハ廣義ニ之ヲ解釋スル場合ニ於テハ、或ル場合ニ於テ法律ノ不備ヲ補フコトガ出來ルニ依リ、別段和議法ヲ今日ニ於テ改正スルノ必要ナシ、

斯ウ云フ御意見デアアルカモ知レマセヌ、併ナガラ果シテ政府ノ意見ガ其通りデアアルトスレバ、是ハ所謂解釋上況ヤ式ノ弊ニ陥ラタモノデアアル、況ヤ式トハ何デアアルカト云フト、昔シ露國ノ法律ニ一ノ男子ガ二人ノ妻ヲ持テタ者ハ罰スルト云フコトガ法律ニアリタノデアアルマシ、或人ガ三人ノ妻ヲ持テタノデアアル、是ニ於テ政府ハ直ニ其人ヲ法律ニ照シテ罰セントシタガ、其人ハ曰ク、法律ニハ二人ノ妻ヲ持テタ者ヲ罰スルト云フコトガアルノデアアル、自分ハ三人ノ妻ヲ持テタノデアアル、何故ニ罰スルコトガ出來ルカ、斯ウナッタノデアアルマシ、ソレ故ニ其後ト云フモノハ、露國ノミナラズ各文明國ハ二人以上ト云フ言葉ヲ、一般ノ法律ヲ使ウヤウニナッタノデアアルマシ、サウ云フ以上ト何ト云フコトノ爲ニ、法律ヲ變ヘルト云フ必要ガアルトシマシレバ、政府ニ於テハ此四十九條ノ法文ダケ十分ナリト解釋サレテモ、ソレデハ債權者集會以前ノ場合ニ於テ其法律ヲ適用シテ善イカ惡イカト云フコトハ明デナイ、若シ明デナイトスレバ、ドウ云フ方法デカ手續ノ違タ整理ヲシヤウデヤナイカト云フコトノ訴訟ガ起クナラバ、ソレガ爲ニ此整理事件ト云フモノハ頓挫ヲ來スノ外ハナイノデアアル、以テ此法律ノ不備ノ場合ニ於ケル所ノ害ト云フモノハ、如何ニ大ナルカト云フコトガ明白デアアリマセウ、而シテ此點ハ單リ銀行整理ノ場合ノミナラズ、個人若クハ彼ノ法人ノ場合デモ、其害タルヤ同一デアアル、是ニ於テ私ハ政府ハ立法發案權ニ安眠スルコトヲ止メテ、茲ニ大ニ覺醒一番サレマシテ、此法律ヲ速ニ改正サル、方ガ適當デハナイカ、況ヤ此法律ナルモノハ政友會内閣ノ時代ニ出來タ所ノ法律デアアル、是ニ於テ遅クトモ第五十三議會マデニハ、政府ハ此和議法中改正法律案ヲ此議會ニ提出スルヤウニ、御盡力アラシコトヲ希望スル次第デアリマス、是レ本員ガ茲ニ說明ノ趣旨ヲ披瀝スル次第デアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 本田政府委員

○政府委員(本田恆之君) 御質問ニ對シテ御答申上ダマス、只今御質問ニナリマシタル要旨ハ、現行ノ和議法ノ中ニ和議申立人ガ申立テマシタル條件ヲ、和議債權者ノ不利益ニ變更スルコトヲ得ズト云フ意味ノ規定ガアリマス、ソレデハ勿卒ノ間ニ申立テル和議條件ヲ變更スルコトガ出來ナイト云フコトニナリマシレバ、銀行其他會社ノ破産ノ多クノ場合ニ於テ行ハレル和議ガ、成立ヲスルノニ不便デアアルト云フコトニ付テ、法ノ缺點デハナイカト云フコトヲ指摘セラレテノ御質問デアリマス、勿論和議法ハ我國ニ始メテ行ハレマシタル法律デアアル、此和議法ノ發達スルコトニ付キマシテハ、政府ハ非常ナル注意ヲ以テ其實績ヲ見テ居ルモノデアアリマスカラ、若シ和議ノ運用ニ不便ヲ感ズルヤウナコトガアリマシレバ、政府ハ其條項ヲ改正スルニ決シテ客ナモノデハゴザイマセヌ、併ナガラ只今御質問ニナリマシタル條項ノ如キハ、政府ノ見ル所デハ、現行和議法ノ解釋ニ依ルコトデ、其解釋ニ依リマシテ十分ニ運用ガ出來ルト認メテ居ルノデアアリマス、此解釋ハ申上ダルマデモナク、裁判所ノ判決ニ依テ其異議ガ確定サレルコトデアアルト考ヘテ居リマス、然ルニ只今御質問ニナリマシタル點ハ、我國ノ裁判所ノ判決ト云フモノハ未ダナイノデアアリマス、ソレデアリマスカラ實際問題トナリマシテハ、裁判所ノ判決ガアツタ後ニ、而シテ尙ホ此運用ガ不都合デアアルト云フコトデアアリマスナラバ、改正ヲ致シマスルノニ決シテ各ナルモノデアアリマセヌ、運用ヲ成ベク滑カニシタイト云フノハ和議法ノ目的デアリマス、只今ノ御質問ハ恐ラクハ司法省——政府トシテハ法律ノ解釋ノ意見ヲ發表スルコトヲ差支ヘマシタルガ、質問者ガ質問セラル、所ハ、裁判所ノ判決ニ依テ明確ニ解決セラル、コトデアアルト考ヘマシカラ、現在ニ於テ和議法ヲ改正スルコト云フ意思ノ無イト云フコトヲ言明致シテ置キマス

○議長(粕谷義三君) 次ハ政弊ノ根本革新及政費ノ經濟的使用ニ關スル質問、建部 遊吾君

二 政弊ノ根本革新及政費ノ經濟的使用ニ關スル質問(建部遊吾君提出)

政弊ノ根本革新及政費ノ經濟的使用ニ關スル質問

右成規ニ據リ提出候也

昭和二年一月三十一日

提出者 建部 遊吾

政弊ノ根本革新及政費ノ經濟的使用ニ關スル質問主意書

昭和新政ノ始ニ方リ模範ヲ戒メ創造ニ勵メ民心ヲ振作シテ盛ニ經綸ヲ行ヘキハ帝國政治ノ根本義タラサルヘカラス然ルニ比年積弊政治機關ノ各方面ニ瀰リ鬱滯シテ散スルナク之カ矯革督正ノ責ニ任スヘキ議會ノ權威モ亦將ニ鼎ノ輕重ヲ問ハルノ危機ニ瀕セムトス事固ヨリ人ニ屬スト雖モ國家社會ノ大ナル其ノ徹底的革新ハ必ス制度ノ改新ニ須タスムハアラス之ヲ國民負擔ノ方面ニ觀ルニ凡ソ政費ノ増進ハ社會進程ノ必然事象ナルモ費額ヲ増サス出納ニ積ミテ政務ノ進行ヲ遂ケ施設ノ實績ヲ舉クルハ實ニ節用愛民ノ第一義ナリトス

一 政府ハ司法機關絕對獨立ノ制定、議員選舉法及代議機關運用ノ改新、請願運動業務ノ監督取締ニ關スル制度ノ創立、等ニ關シテ創造的調査研究ヲ遂ケ其ノ實現ニ邁進スルニ意ナキカ

二 政府ハ政治ノ都會化ノ自然的傾向ニ省察シ、官吏優遇ト政費膨脹トノ關係ヲ精究シ、國防ノ經濟化ヲ計リ、教員俸給支給法ヲ改正シ、會計検査院ノ權能ヲ擴張スル、等ノ諸方策ヲ考究實施シテ政費ノ經濟的使用ヲ遂行スルニ意ナキカ

右及質問候也

(建部遊吾君登壇)

○建部遊吾君 昨ハ昭和新政ノ首メニ當リマシテ、今日マデニ進ミ來レル政局ノ趨勢

ガ、私ノ狭キ胸ニ取リマシテハ、マダ甚ダ遺憾ナル點ガアルト存ジマスルガ故ニ、之ニ對シテ近クハ現政府當局ニ御質問申上ダ、遠クハ——蓋シ近キ將來デアアリマスマイガ、之ニ次デ日本帝國ノ運命ヲ雙肩ニ擔ヒ、輔弼ノ重任ニ任ズベキ人トシ、一種ノ考察トシテ提出致シタイト云フ、此大體ノ趣旨ヲ以テ稍、數箇ノ點ニ涉ッテ質問ヲ致シテ見タイト思フノデアアルマシ、洵ニ第十二議會ニ親愛ナル同僚諸君ト、此議場ニ於テ御顔ヲ合ハセマシタ其以後ニ於テ、悲ムベキ諒闇ト云フコトガ起ッテ參リマシタ、併シ此悲ムベキ冬ノ後ニハ、新帝御踐祚ト云フ長閑ケキ春ヲ迎フルコトヲ心ヨリ祝フテ、此新時代ニ會フト云フコトヲ心ヨリ祝福ヲ感ジマスルト同時ニ、吾々ハ顧ミテ重大ナル責任ヲ感ゼズニハ居レヌノデアアリマス(拍手)昨暮ノ十二月二十八日ノ朝見式ノ詔書ニモ「模範ヲ戒メ創造ヲ勵メ」ト仰セラレ、又「一日進以テ會通ノ運ニ乘シ日新以テ更張ノ期ヲ啓キ」ト云フコトヲ仰セラレアルノデアアリマス、此聖詔ヲ奉ジテ、我が國運ノ新ナル開展ヲ畫セントスベキ際際ニテ、如何ナル譯デアアリマスルカ、政治ニハ洋々タル清新ノ氣象ヲ缺イテ居ルヤニ見受ケマス、規模恢廓網維盡ク張ルト云フ如キハ、或ハ餘リ多ク見受ケラレヌヤウニ感ズルノデアアリマス、豫算ノ機關ヲ見マスルト、初ヨリ總會ト云フモノガ無クテ、分科會ニ始マリ分科會ニ終レルノ感無キ能ハザルモノデアアリマス、唯、無名ノ政争ダケハ、洵ニ雅量ニ富シタル三黨首ノ妥協ト云フモノニ依リマシテ、夕立ガ將ニ來ラントスル其一利那ニ於テ、忽チ天地カラリト霹レタト云フ、洵ニ目出度キ現象ヲモ經驗致シテ居ルノデアアリマス、然ルニ是ハ今日始マタコトデアアリマセヌガ、是迄ノ政治上ノ積弊トモ言フベキモノニ付キマシテハ、第五十一議會ヨリ第五十二議會ニ掛ケマシテモ、政界ノ鬱陶シキ空氣、所謂暗雲ト云フモノハ、未ダドレダケモ拂ヒ去ラレテ居ルノデアナイノデアアリマス、陸軍ニ附キ纏フ所ノ暗澹タル雲霧ト云ヒ、松島事件ヨリ延

イテ或ル意味ニ於テハ司法方面ノ積弊ノ一端ノ暴露セル事ト云ヒ、又議會ト云フモノガ今日ノ政治ニ於テ、究竟ノ政治廓清ノ保障トナラナクテ、近年殊ニ衰ヘテ居ルノ權威ト云フモノガ、近年殊ニ衰ヘテ居ルヤノ嘆無キ能ハザル事實モナイデハナイノデアリマス、抑、斯ノ如キ事實ハ何ニ依ル事デアリカ、其因テ來ル所ハ多々アルベシト雖モ、議會權威ノ衰頹ノ根本ハ實ニ金力選舉ニ在リト斷定セナクテ、バナラヌト思ヒマス、所謂議會政治ハ多數政治デアアル、多數政治ニハ政黨ノ勢力擴張ヲ要スル、黨勢擴張ノ爲ニハ時トシテ金力總裁ヲモ迎ヘナクテ、バナラヌ、議員各、カラスレバ或ハ買収モ行ハレ、或ハ利權獲取モ行ハレ、又或ハ解散忌避ト云フ事モ行ハレナクテ、バナラヌ、是ハ道德上左様ナクテ、バナラヌト云フニアラズ、勢ノ趨ル所遂ニ左様ナ所マデモ趨リ兼ネヌト云フ事實ガ、延イテ今日ニ於ケル議會權威ノ衰頹ト云フコトニ至ラズモノト考ヘルノデアリマス、是ニ於テ私ガ近ク現政府當局ニ質問セントスル所ハ、凡ソ斯ル政弊ノ因テ來ル所ニ對シテ、本ヲ拔キ源ヲ塞グノ重要ナル經綸畫策ヲ打立テルベク、調査研究ニ進ムノ意思アリヤ否ヤノ問題デアアルノデアリマス、是ガ爲ニ聊カ其問題ノ性質ヲ明ニセンガ爲ニ、二三具體的ニ申上ダテ見タイト思ヒマス、此議會ト云フモノヲ改善シ、政黨ト云フモノ、働ヲ更ニ美妙ニシ、高尚ナル點ニマデ引上ゲンガ爲ニハ、本議會ニ於テ新正俱樂部ノ尾崎行雄君ヲ始メ、三君ニ依テ三種ノ法律案ヲ提出シ、ナクテ居ルノデアリマス、併ナガラ不肖私ノ甚ダ經驗ニ乏シキ考カラ致シマスルト、是等ノ法律案ガ縱ンバ成立致スニ致シマシタ所デ、未ダ以テ根本源泉ノ方策ヲ以テ之ヲ容スニハ、大分距離間隔ガアルヤウニ認メザルヲ得ヌノデアリマス、私ハ議會ト云フモノ、權威ヲ高メンガ爲ニハ、固ヨリ倫理道德ノ人ニヤ宗教家ガ言フヤウニ、其人ニ存スルニハ相違ナイ、併ナガラ同ジダケノ人ヲ以テシテモ、制度ノ如何ニ依テ、其人ノ國家ノ重要ナル任務ニ任ズ

ル所以ニ於テハ、餘程目覺シキ進歩發達ヲ遂成スルコトガ出來ルト信ズルノデアル、同ジダケノ兵卒ヲ以テスルモ、軍隊ノ組立並ニ訓練ト云フモノニ依テハ、軍隊ガ數倍、數十倍精銳ナルモノトナルコトガ出來ル、是ニ於テ是非共制度ト云フ點ヨリ、是等ノ政弊ノ根本革新ノ策ヲ求メ來ラナクテ、バナラヌト思フノデアリマス、議會ノ權威ヲ高メンガ爲ニハ二ツノ點ガ必要デアルト信ズル、第一ハ議會ノ種ヲ改メルト云フ事デアリマス、第二ハ議員ノ仕事ノ能率増進ト云フ事デアリマス、議員ノ種ヲ改メルト云フ事ニ付キマシテハ、私ハ第五十議會ノ際ニ衆議院議員選舉法改正法律案ノ委員タリシ時ヨリ、此帝國議會ニ於キマシテ既ニ常ニ愚見ヲ述ベテ居ル、即チ選舉公營ト云フ事ニ依ルノ外ハナイト私ハ信ズル者デアリマスルガ、此公營案其モノ、細カナル點ニ付キマシテハ、固ヨリ陳ヨリ始ムルノ趣旨デアリマシテ、之ヲ以テ完全無缺トハ決シテ考ヘテ居ルノデアリマセヌガ、選舉公營ト云フ方法ハ、大體ニ於テ如何ナルモノデアアルカ、凡ソ選舉ト云フ事ハ、立憲代議政治ヲ實現セルカラニハ、國家ノ公事トシテ必ズ選舉ガ行ハレナクテ、バナラヌ、選舉ハ私人ノ私事ニアラズシテ、國家ノ公事デアアル、國家ノ公事トシテ選舉ガ行フナラバ、候補者若クハ運動者ノ運動ト云フモノガアルデナクテ、バナラヌ、選舉ガ行ハレヌト云フガ如キ、舊式ニ因ハレタル因襲ノ成蹟物トシテ出テ居リマスルガ如キ、現行ノ選舉ノ遺方ヲ根柢ヨリ變ヘテ行クコトガ必要デアルト斷定スルノデアリマス、其極メテ大綱ハ七八箇條ニ盡キルノデアリマス、即チ選舉費用ノ公費支辨ガ其一、候補者ノ公費ガ其二、政見演說會ノ公設其三、政見通信ヲ限定スルコトガ其四、一切ノ私的運動及私的選舉事務所ノ禁止ガ其五、候補者保證金ノ納入ガ其六、選舉義務不履行者ニ付シテ科料處分ニ處スルコトガ其七、選舉立會人ヲ設定スルコトガ其八デアリマシテ、細カナ點ハ本會議デアリマスルガ故ニ謹ンデ省略致シマスルガ、聞ク所ニ依リマスルト、第

十五回總選舉ハ其筋ノ調査ニ依レバ、候補者一人ニ付テ選舉運動費ガ一万九千八百圓ニナクテ居ル、是ハ表面ニ出タルダケデアリマシテ、内實ハ場合ニ依タルナラバ、平均其倍額ニモ達シテ居ル、候補者ノ數約千人ト云フコトデ、凡ソ四千萬圓ノ運動費ト云フモノガ此選舉ノ爲ニ費サレ、而シテ此費用ト云フモノハ、他ノ事柄ト違ヒマシテ、金高ガ多クナレバナルダケソレダケ社會ヲ搔濁スルコトヲアルト云フコトニナルノデアアル、選舉ノ原理ヨリ致シテモ、既ニ現行ノ如キ選舉ノ遺方ハ取ルニ足ラザル、否取ルベカラザルコトガ明デアリマスル上ニ、選舉其モノニ依テ無事ニ參リマシテモ、四箇年ニ一過ツ、右ノ金ヲ撒イテ社會ヲ搔濁スルコト云フガ如キ、馬鹿氣タルコトヲ平氣で見テ居ルコトデアルトハ、實ニ因襲ノ勢力モ亦甚シキモノデアルト、歎一概シナケレバナラヌコトデアアルノデアリマス、(拍手) 試ニ大體ニ於テ此選舉公營ニ依ル費用ヲ積テ見マスルト、凡ソ國家ガ負擔スル總體ノ費用ガ百九十万一千圓ト相成リマス、之ヲ各候補者ニ付テ見マスレバ、二千五百圓、代議士一人ヲ選出スルニ對スル費用ト致シマシテハ四千一百圓デアリマス、而シテ各候補者ノ選舉ノ爲ニ負擔スル費用ハト申シマス、大體ニ於テ僅ニ五百六十圓ト云フ數ガ舉ガルニ過ギヌノデアリマス、尙ホ此細カイトニ付キマシテハ、或ル適當ノ時機ニ於テ天下ニ既ニ發表セル點モアリマスケレドモ、是ヨリ又天下ノ有力ナル諸君ト共ニ研究シテ見タイト思フノデアリマス、既ニ此案ニ付キマシテハ、北席デ私ガ畏敬スル先輩同僚ノ御名前ヲ讀ムル自由ヲ有シマセヌケレドモ、相當以上ノ反響ガアル所ノ案デアルト云フコトダケハ、茲ニ概括的ニ之ヲ申上ゲル光榮ダケハ擔テ置キタイト思フノデアリマス、次ニ斯ル種ノ良イ、尙ホ補タル議員ヲ選出致シマシテ、然ル上ニ議會ト云フモノニ付テ其能率ヲ十分ニ發揮スル、所謂議會運用ノ改新ト云フコトヲヤルコトガ必要デアアル、之ニ對シマシテハ或ハ繼續委員ヲ設クベシ

トノ説ガアル、是モ適當ニ考慮ヲ廻ラセバ、洵ニ效力ガアルニ相違ナイ、次ニ第二ト致シマシテハ、議員ハ當然委員ト云フモノニスル、即チ議員ハ總テ執レカノ委員ノ一人タルモノトスルノデアアル、是ハ議員ノ職責ヲ重大ニ致シマシテ、或ル意味ニ於テハ議員ノ訓練ノ上ニ益スル所少カラザルコトトナルノデアリマス、第三ニハ常任委員會ノ種類ヲ増スコトデアアル、我が帝國議會殊ニ衆議院ハ常任委員會ハ四箇デアリマスルガ、外國ノ事ヲ申シテ甚ダ恐入リマシケレドモ、例ヘバ獨逸ナドヲ見マスルト云フト、豫算、決算、請願ノ外ニ更ニ外政、租稅、經濟、社會、人口、住宅、教育、司法、交通其他ヲ總計十五箇ノ常任委員會ガ設ケラレテ居ルト云フヤウナ例モアル、是等ヲ適當ニ考慮スレバマシテ常任委員會ノ種類ヲ増スコト云フガ如キコトモ、議會ト云フモノノ運用活動ノ能率ヲ増ス上ニハ、少ナカラザル進歩改革デアラウカト存ゼラル、ノデアリマス、尙ホ常任委員會制度ト云フモノハ或意味ニ於テ議員ノ潔白、所謂一身上ノ辯明ノ必要ナドト云フコトガ成ベク少クナルト云フコトノ利益モアルヤウニ考ヘラルノデアリマス、或ル特定ノ法案若クハ建議案ニ對シテ、特ニ之ニ對シテ自ラ進んで委員トナルト云フコトハ、固ヨリ國政ノ進行ノ爲ニ大ニ貢獻スルコト云フ忠誠ノ念慮ニ出ヅルニハ相違ナイノデアリマスケレドモ、之ヲ反對黨アタリカラ護誣中傷デモシヤウト思ヒマスルト、藉スニ言葉ヲ以テスルノ隙間ガ幾分出ナイトモ限ラヌノデアリマス、諸君御熟知ノ通り、近頃歐洲ノ各國ニ於キマシテモ、議會政治ニ對シテ幾分懷疑ノ態度ヲ以テ之ニ對スル、議會ト云フモノハ果シテ權威ノアルモノデアアルカ、大ニ當テニナルモノデアアルカト云フ點ニ對シテ、幾分如何ハシイニ足ラ踏ムト云フヤウナ、左様ナ潮流ガアルヤニ傳ヘラレルコトガ屢、吾々ノ耳ニ聞エルノデアリマス、是ハ或程度マデ事實デアリマス、例ヘバ伊太利ニ於キマシテハ「ムソリニ」ノ專制主義デアリマス、カ、希臘ニ於テハ「パン

「グロス」將軍ノ態度デアリマス。トカ、一々申サズニ國タケテ申セバ、西班牙、波蘭、佛蘭西及白耳義ト云フガ如キ歴々トシテ右ノ如キ現象デアリマス。トカ、是ハ二ツノ點ニ付テ批評セラルベキモノデアリマス、第一ハ一般事情ト致シマシテ、是モ御熟知ノ歐米各國殊ニ歐洲各國ノ民族ニ於ケル文明ノ行詰リ、民族ノ頽廢ト云フ現象カラ、朝見式勅語ニ仰セラレタル所ノ「模擬ヲ戒メ創造ヲ勸メ」歐洲人等ノ創造的能力ガ近頃ハ頗ル萎縮シテ參ッ、萎靡シテ參ット云フ此點デアリマス、今一ツハ執レノ國ト雖モ免ルベカラザル所ノ政治上ノ波瀾ノ上カラ致シマシテ、一時の變象トシテ斯ノ如キコトガ起ルト云フ譯デアリマシテ、之ニ捲込マレテ立憲政治ニ對シテ懷疑ノ態度ヲ懷クナドハ、洵ニ以テノ外ノ話デアルノデアリマシテ、宜シク今日現實ニ於テ立憲政治ニ缺陷ガアリマス。ナラバ、其缺陷ト云フモノヲ奪キ創造ノ力ヲ以テ之ヲ改メ、之ヲ新ニシ、之ヲ進メテ行クコトガ大切デアルノデアリマス、吾々ハ朝見式勅語ノ御趣旨ヲ奉戴致シマシテ、先づ此立憲政治ノ作振ト云フ點ニ向ッテ、十二分ノ創造ノ能力ヲ役シ勞シテ行カナケレバナラヌト確信スル者デアルノデアリマス、此點ニ向ッテ第一歩ヲ踏出シ、徹底ノ二方策ヲ確立スルト云フ點ニ、奮發心ガ御在リニナルカドウカト云フコトガ私ノ質問ノ第一點デアリマス、第二點ハ私ハ請願運動業務ノ監督取締ト云フ表題ノ下ニ申上ゲタイノデアル、洵ニ妙ナコトヲ云フト御考ヘデアリマセウ、私自ラモ甚ダ妙ナ事ヲ申スト云フ感ジガアルノデアル、請願業務ナドト云フコトヲ何故一體考ヘ出シタカ、是ハ即チ松島事件ガ私ニ取テノ最モ近キ動機トシテ此考ヲ起サシメタ因縁デアルノデアリマス、全體人ト云フモノハ左程善人モナケレバ、左程惡人モ無シ、宗教家ナドハサウハ云ハレヌカモ知ラヌガ、私ノ社會的觀察デハ左程飛付クヤウナ善人モ滅多ニアルモノデナケレバ、誰方カノ御叱リヲ受ケルカモ知レマセヌガ、所謂其肉ヲ啖ウモ飽カズト云フ

ヤウナ惡人モサウ矢鱈ニ出ルモノデハナイ、小人罪無シ、殊ヲ懷イテ罪有リト云フ、茲ニ人情ノ機微並ニ社會上ノ機微ガ存スルノデアル、制度ガ惡イ爲ニ罪ヲ犯サズトモ宜イ所ヲ罪ヲ犯スト云フコトガ屢々アルノデアル、松島事件ニ連累セル種々ノ方面ノ人々ナドモ、決シテ左様ノ惡人ナドデナイ、又アリ得ヤウ考ガナイ、唯、此點ニ對シテ發達スベキ所ノ制度ガ未ダ發達セヌノデアル、制度ト云フモノハ慣習カラ發達シテ、ソレニ一寸艶藥ヲ掛ケテ模樣ヲ留メテ、サウシテ制度ヲ構成スルト云フ行キ方モアリマスシ、世ノ中ガ進ミ、文明ガ進ミ社會經濟ガ進シテ參リマスレバ、慣習ナドガ何モ發達セズトモ、根柢カラ人爲的ニ新ナル制度ニ作成セラレルトモアルノデアリマス、創造ト云フ意義ヲ以テ最モ嚴肅ニ解釋シ、奉レバ、即チ此甲ニアラズシテ乙ガ眞ノ創造デアリマス、如何ニモ請願運動ト云フガ如キコトハ果シテ必要ガアルモノカドウカ、或ハアルカモ知レヌ、古ニモ階前千里門外萬里ト云フコトヲ申シマスガ故ニ、各地方ノ人々ガドンナ事ヲ欲シガテ居ルト云フコトガ、内務省ヤ農林省ノ御役人方ニ、或ハ千慮ノ一失デ御氣ノ附カヌ事ガアルカモ知レヌ、サウスレガ願主本人ニハ斯ウヤテ貴ヒタイ、イヤ私共ノ地方ニハ是ガ願ヒタイ、其願ヲ持ッテ行クノガ惡イトハ言ハヌ、尙又況ヤソレガ願主本人デアルナラバ、是ハ固ヨリノ事ナシデアアル、本人ガ役所ヘ行ッテ物ヲ言フコトガ洵ニ慣レナイカラト云フノデ、場合ニ應ジテハ代理人ガ行ク、是モ必シモ杜絶スベキデアリマセヌガ、其遺方、其社會的ノ仕事ト云フモノニ對シテ、是迄ハ何等法規制度ト云フモノガ手ヲ入レテナカッタノデアアル、法規制度ノ手ヲ入レテナカッタ當初ノ狀態ヨリ進化發達シ、即チ法制ノ進化ヲ得テ立派ナモノニナッテ居ル例ガ幾ラモアル、例ヘバ辯護士ト云フ尊キ職業モアル、是ハ其初メ何カラ進化シタノデアルカ、辯護士ノ原始時代ノ狀態ハ何デアルカト言ヘバ、所謂三百代言ナシデアアル、ソレガ段々

法制的ニ法理的——尤モ其法理ノ根柢ニハ正義公道、社會ノ發達、人民ノ福祉、サウ云フ尊キ原理ガ働キマシテ、而シテ三百代言ヨリ進化セル其極、今日立派ナル辯護士制度ニナッテ居ル、又信用組合ト云フヤウナモノガ勝手ニ方々ニ出來タ既ニシテ信用組合法ト云フモノガ出來マシタ、勝手ニ出來タ中ニハ固ヨリ結構ナモノモアリマシタケレドモ、其中ニハ免角失敗シタリ、所謂信用組合ニシテ信用組合デアッタモノガアル、ソレガ進化發達シテ立派ナル信用組合、ソレニハ信用組合ガ打立テ來テ居ル、尙亦近頃アル信託デアリマス、是モ地方ニ勝手ニ信託ト云フ仕事ガ行ハレテ居タノガ、信託法ガ出來テ信託ガ立派ニナッタノデアリマス、故ニ請願運動ト云フモノハ其モノヲ強イテ禁ズルニ當ラナイ、否必要ナコトデアラウト思ヒマスガ、之ガマダ今日、大正昭和ノ商賣往來ノ目錄ニ載ッテ居ラヌノデアリマス、載ッテ居ラヌノデアリマスカラ、中ニハ如何ニモ百中九十以上ハ洵ニ立派ナル請願運動デアアルニ相違アリマセヌガ、何等カノ都合デアチヨイト脱線スルト途方途轍モナイ請願運動ニナリマシテ、ソレガ爲ニ總付ガ出ルコトニナルノデアアル、故ニ私ハ第二點トシテ政府ニ質問ヲ呈シタイト思ヒマス。ト云フコトニナルノデアアル、禁ジテ貴ヒタイト云フデモナケレバ、禁ズル考ガナイカト云フ意味デモナイ、此業務ニ對スル監督取締、殊ニ其基礎タル請願士法トモ云フベキヲ制定スベク、所謂模範ノミナラズ、創造ノ力ヲ發揮シテ根本的拔本塞源調査研究ノ大勇猛心ヲ發揮スル思召ハゴザラヌカト云フコトガ第二デアリマス、第三點ハ司法ノ積弊ト申ス點デアリマス、併シ積弊カラ申シテハ餘リ語弊ガアリマス。司法先ツ暫ク之ヲ謳歌スル方カラ始メマス、司法其モノハ中ニ結構デアアル、殊ニ司法官其者ハ我國ニ於キマシテハ頗ル結構ナノデアアル、司法官ハ中ニ立派ナモノデアアルコトハ言フ迄モナイ、其上ニ現江木司法大臣ナドハ中ニ向上心ニ富シテ居ラル、ノデアアルト見エマシテ(ノウ)色ノ講習

會ナドヲ催サレマシテ中ニ判檢事ノイヤガ上ニモ智德ヲ高メルト云フ、其方法マデ講ゼラレテ居ルノデアアル、動モスルト人民ノ方カラハ免角訴訟ガ延ビテ困ルト言ヒマスケレドモ、其延ビルノ原因ハ司法官ノ不勉強ニアルニアラズシテ、多クノ原因ハ辯護士方ガ餘リ忙ガシ過ル、是ハ辯護士ト云フ方ニ其主タル所ノ裁判所、控訴院大審院所屬ト云フヤウナ方法ニ、健力佛蘭西アタリハヤウテ居ルト思フ、ヤルト云フコトニ依テ若干救濟出來ルカ知レマセヌガ、併シ斯ノ如キ事ハ昭和ノ新政トシテ何モ申上ゲヤウト思フ程左程大キナ事デナイノデアアル、爪ニ承ル所ニ依リマス、司法界ニ於テモ何等カノ悶ト云フヤウナモノガアルト云フヤウナ噂ヲ聞ク、是ハ甚ダ怪シカラヌ事デアリマスケレドモ、是ハ亦人ノ罪ニアラズシテ制度ノ罪ナドデアアル、甚ダ他國ノ事ナドヲ混ゼテ申スノハ恐縮千萬デアリマスケレドモ(簡單)ト呼ブ者アリ)私ガ物ヲ云フヨリハ其方ガ、簡單ニ時間ノ節約即チ能率増進ニナリマスガ故ニ、暫ク御免ヲ蒙リマシテ申上ゲマス、御案内ノ通り我國ノ制度法律等ノ主ナルモノニ付テ、根柢ニ於テ、我が先輩ニ助言ヲ與ヘタモノ、最モ有力ナル一人ガ、奧地利ノ「スタイン」博士デアアル、此「スタイン」博士ガ内閣制度ニ付テ申サレマシタ中ニハ外務、軍務、大藏、司法、内務ノ五省ガアレバソレデアリト云フ、博士ハ矢張司法ヲ内閣ノ中ニ入レテ置カレタノデアアル、何故司法ト云フモノヲ内閣ノ中ニ入レマシタカト云フト、博士ハ當時進メル内閣制度ガ政黨内閣制、議院内閣制、若クハソレニ近キモノデアルト云フコトハ認メラレナカッタノデアアル、又當時ノ事實ハ如何ニモ其通りデアッタ、然ルニ今日ハ、何モ英國ヲ模範トスルト言ハズ、立憲代議政治ト云フモノ、落着ク所ハ議院内閣制、政黨内閣制、少クトモソレニ近イモノデアアル、是ガ避クベカラズデアリマス。ト、司法行政ノ監督者ト云フモノハ、司法省ヲ内閣ニ置キマスル限リハ、是ハドウシ



ノガアル、幹事長ナドト色ミアル、斯ウ云フ者ハ誰ガヤルカ、事實ニ於テ田舎居住ノ議員デハ勤マリマセヌ、必ズ東京居住ノ人方勤メルコトニナラセ居ル、即チ此點ニ付キマシテハ官モ民モ雙方トモ、相殺スルノデアル、若シ言フベクンバ其手柄モ同ジデアレバ、罪モ同ジデアル、代議政治ニナラテ見テ所デ、少シモ政治ノ都會化ヲ防グ効力ハ先ヅナド言ウテ宜シ、此自然ノ傾向ハ、然ラバ如何ニシテ防グカト云フコトハ大問題デアラ、不肖私ニハ何等ノ案モアリマセヌガ、是ハ容易デアリマスマイ、ケレドモセメテ是等ノ傾向ガアルモノデアルト云フ點ダケニ御氣ヲ付ケテ願ヒタイ、サウスレバ百里ヲ行ク者ハ九十里ニ半バ、ドウカソレダケノ點ハ氣ヲ付ケテ戴キタイ、斯ウ云フ點ヲ御考ニナリマスト、政費ノ増進ハ強テ制度ガ惡イト云フダケデアリマセヌ、半バ以上ハ勢デアリマス、此勢ニ對シテ若干反省スル餘地モアラウト思フ、ソコデ政費ノ實際ニ於テ同ジク人民ノ出ス金デアルガ、成タケ有效ニ生カシテ御使ヒ立ヲ願フ、此點ニ付テ唯、斯ク申シタマケデハ餘リ空漠デアリマスカラ、ホンノ一二ノ點ダケヲ擧ゲマセヌガ、例ヘバ會計検査院ノ權能擴張ナド、云フコトモソレデアリマス、例ヘバ今日ノ日程ニモ會計検査院ノ改正法律案ガ出テ居リマスガ、是ハ無論人員ヲ増スコトデアリマス、必要ナルコトニ相違ナイト思フ、何等ノ異議反對モナイノデアリマス、併シソノナ意味デハナイ、私ノ申上ゲルノハ不法ヲ検査スルノ外ニ、出來得ル限り當不當ヲモ検査スルト云フ所マデ、會計検査院ト云フモノハモウ少シ思ヒ切テ大キクナルヲ厭ハズヤッタラ如何デアルカト考ヘルノデアリマス、政府ノ豫算ガ定マルト、豫算案トシテ政府ガ議會ニ提出スル前ニ若干手ヲ入レル、或ハ意ヲ注グト云フヤウナル論モアルヤウデアリマスガ、何シロ十七億三千万圓、計算ノ仕方ニ依テハ三十餘億ノ豫算ニ對シ、又其決算ニ對スルコトデアリマスカラ、ソレニ對シテ其一万分ノ一位ノ金デテ會計検査

ガ行ケバ餘リニ結構過ギル位ノ話、私ハ無理ニ數字ヲ増セト云フ譯デアリマセヌガ、會計検査院ノ能率ヲ大ニ増進スルコトヲヤルベク例ヲ申シマシタガ、遞信省又先刻遞信省ノ例ヲ申シマシタガ、遞信省ニモ今度又優遇案ガアルヤウデアル、私ハ我國ニ於テ非常ニ好ク行テ居ルノハ遞信省デアラト思フ、様々ノ點ニ於テ感心ノ點ガ多イデアリマス、其中ノ一ハ地方ニ於ケル三等郵便局ト云フモノ、是ハ村ノ相當ナル人物ノ住宅ヲ利用致シマシテ、局長ハ官吏トシテ十分ノ分限ナリ優遇ナリハ受ケテ居リマスガ、併シ其處ニ一種ノ自由ノ利ヲ制度ガアタノデアル、立寄ラバ大樹ノ蔭デ、或ル特定三等局ニ二人二分ダケノ事務員ガ配當セラレテ居ル、其二人二分ト云フモノハ局長ノ德望如何ニ依テハ一人五分ダケデ、十分二人二分ノ仕事ガ出來ルト云フヤウナ所マデ行ク、比較的金錢上ノ薄遇ニ安ジテ、三等郵便局ノ仕事ガ非常ニ功績ヲ擧ゲ、能率ヲ發揮シタノデアル、然ルニ近頃ハ段々ト役所風ニナリ、日曜日ハイカヌ、土曜日ノ午後ハイカヌ、斯ウ云フヤウナ譯(先生分リマシタ)ト呼ブ者アリ(御分リニナラドウツ其上ニ尚ホ能ク染込シテ御聽ヲ願ヒタイ、斯ウ云フコトハ殊ニ原君ノ如キ方ニハ最モ能ク聽イテ戴キタイト思ヒマス、將來遠カラズ遞信大臣ナドハ必ズ御煩ハサナケレバナラヌ—マア斯様ナ次第デアアル、サウ云フヤウナコトデ、折角是迄同ジダケノ金デモ役ニ立ツヤウニ能率ヲ發揮シテヤッタモノガ、ドチラカト云ヘバ却テ能率ヲ發揮セヌヤウニナリツ、アル、其他教員俸給支給法ノ改正ノ如キ、國防ノ經濟化ノ如キハ皆ソレ等ノ例デアラウト思ヒマスノデ、此點ハ最モ簡單ニシテ省略致シマスガ、ソレ等ヲ總テ考慮シテ豫算ノ上ニ於テ必要ナル金ヲ計上スルコトヲ躊躇ナサレハハアリマセヌガ、豫算上ノ唯物主義ニ因ハル、コトカラ成ベク脱却シ、其他ノ二點カラモ脱却シテ、是非政費能率を増進スルコトニ向テ模範ヲ示スベク勇往邁進スルコトニ—私ノ申スコトハ甚ダ廻

リ遠イノデアリマスガ、是非今日ヨリ御著手ニナラダケノ決心ハ御持ニナラナケレバナラヌ、是ガ私ノ第四點ノ御尋デアリマス、大體此邊デ止メテモ宜イヤウデアリマスガ、昨今吾々ノ耳ヲ衝イテ到リテ居リマス所ノ對外問題ガアリマス、就中軍縮問題、米國大統領「クーリッヂ」君ニ提起サレタ軍縮問題、此問題ニ付キマシテハ殆ド吾々ニ隔世ノ感ヲ與ヘルガ如キ結構ナル態度ヲ、現政府當局者ハ示シテアリマス、併シ米國大統領ノ申出ト云フモノハ如何ニモ奇抜デアアル、餘リ平凡デアラカラ奇抜デアル、五、三ノ比率ト云フコトヲ補助艦ニモ及ボシタイト云フ底意ガアルヤウニ聞エルコトハ誠ニ平凡デアリマス、併ナガラ此平凡ガ何故特ニ奇抜デアラカト云ヒマスト、全體軍備ヲ制限シヤウト云フモノ、國ト國トノ間ニ等差ヲ付ケルト云フヤウナコトハアルベキ善ノモノデアラナイ、私ハ最初新聞ヲ讀ンデ自ラノ目ヤ耳ヲ疑フデアル五、五、三ト云フモノハ三、三、五ノ間違デナイカ、斯様ニ考ヘタノデアリマス、苟モ健全ナル理性ノ所有者デアリマス限リ、斯ノ如キ形ニ於ケル、即チ數年前ニ於ケル第一華盛頓會議ニ於テデアリマシタヤウナ、左様ナル提案ガ世界戰亂ガ濟シタヤウナ、將二十年ニモ近カラントスル今日ニ於テ、尚且ツ再ビ提案サレラントスルコトハ、是ハ實ニ奇抜デアラト申スノ外ハナイノデアリマス、私ハ仍テ茲ニ外交當局若クハ外政ニ關係スル方面ニ對シテ、政府ニ質問シテ出シタイトコトガアル、是等ノ注意ヲ御忘レニナラズニ願ヘルモノデアリマセウカ、如何デアリマセウカ、是等ノ注意トハ何ゾヤデアリマセウカ、第一ハ何デモナイ—原君、私語ハ禁ゼラレテ居リマスガ—第一ハ何デモアリマセヌ、世界ガ丸イト云フコトヲ御忘レニナラヌヤウニ願ヒタイノデアリマス、御忘レニナラヌカドウカ、米國ハ太平洋ト大西洋トノ兩方ヲ持テ居ル、英國ハ米國ニモ對シ、又印度ヲ持テ居ル、日本ダケハ太平洋ダケニ面シテ居ルト云フヤウナ考カラ、第一軍縮會議ノ際ニ、大ニ軍縮ニ賛成

シタ人ガアル、ドウカ世界ガ丸イト云フコトヲ御忘レナイヤウニ、第二ハ申スマデモナク新嘉坡ノ防備ト云フコト、第三ハ航空母艦以外ニモ米國ハ多クノ飛行機、航空機ヲ積ムコト、第四、殊ニ一言添ヘタイコトハ、世界平和ノ組織ノ維持ト云フコトデアリマス、世界ハ小イヤウデモ相當廣イノデアリマス、此世界ト云フモノニ對シテ、世界平和ヲ維持シタイ、ソレハ何人モ異議ハナイ、併シ世界ノ平和ヲ維持センガ爲ニ、西洋ノ平和ハ西洋ガ主トシテ維持スベキデアアル、東洋ノ平和ハ東洋ガ主トシテ維持スベキデアアル、西洋ノ平和ガ破レタト云ウテ東洋カラ遙々出掛ケテ行テ維持スルガ如キハ愚ノ至リデアリマス、世界戰亂ノ最中ニ於キマシテモ、西伯利亞兵ト云フコトガ盛ニ論ゼラレタ、之ニ對シテハ私ノ近い方面ニモ之ニ反對論ガアリマシタガ、私ハ是ハ贊成ナノデアアル、西伯利亞兵ハ贊成ナノデアリマス、其趣旨ハ何デモナイ、世界ノ平和ニ春々タル我が日本ハ、東洋ノ平和ト云フモノハ、第一ニ自分ガ引受ケテ維持センケレバナラヌ、世界ニ對スル責任ガアルト信ズル、其任務ヲ遂行スルト云フ正々堂々タル主義主張カラ致シテ、世界平和ノ爲ニ東亞ニ出兵スル、斯様ナコトデアリタカッタノデアリマシタガ、當時ノ當局者ハソレ程ノ智デアリマスカ略デアリマスカ、ハシラ事缺イテ居ルヤウナ譯デアリマシテ、「チエツタスロウ」ハ甚ダ残念デアアル、此世界平和ノ組織ノ維持ト云フコトモ御忘レニナラヌヤウニ願ヒタイ、此四ツノ事ヲ御忘レナク、一ツ華盛頓會議ニ對シテハ處シテ戴キタイト思フノデアリマスガ、其當時ニ比ベマシテハ、實ニ隔世ノ感トモ謂フベキデ、外交上ノコトガ進ンデ參リマシタコトハ、固ヨリ私ハ満足スルノデアリマス、モウ是デ終リニナリマス、要スルニ私ガ劈頭申上ゲマシタコトヲ、茲ニ一言繰返スデハアリマセヌガ、他ノ言葉申上ゲテ終リ致シマス、今ヤ時運ガ大ニ進ミマシテ、虛禮政治ナドハモウ時代デアリマセヌ、正義、人

道、平和ナント云フ、誰ガ聞イテモ尤ナコトハ、新年御芽出度ウノ類デアリマシテ、左様ナコトハ有テモ無クテモ宜イノデアリマス、世界ノ政治ハ實勢カラ割出スト云フコトニナルデアリマス、虛禮政治ノ時代ヨリ實勢政治ヘ進ミ、迷信政治、不合理政治ヨリ合理政治ニ進ミ、中古ル思想ノ政治ヨリ最モ進ミ、最モ新シキ、所謂勸語ニ仰セラレテアル所ノ最新最進ノ政治ニ進ミ、模範政治ヨリ創造政治ニ進ムベキ、今ハ時代デアリマス、方ニ是レ政治的ノ撥亂反正ヲ致スベキ時代デアリニモ拘ラズ、三黨首ノ妥協ヲ以テ豫算ノ成立致シマシタルコトハ、洵ニ結構芽出度イコトデアリマスルケレドモ、又此豫算ト云フモノハ、反對黨諸君ト雖モ、殆下一字ヲ贊スルコトナシニ成立致シタト云フヤウナモノデアリマスカラ、何レ善美結構ナモノニハ相違アリマセヌケレドモ、豫算ノ成立ト云フガ如キハ、是レ月並、否ナ年並ノコトデアル、毎年アルコトデアル、昭和ノ新政、朝見式ノ勸語ヲ異多クモ八千万吾々臣民ガ拜讀致シマシタル、此時ニ於テ、甚ダ残念ナコトデアリマスガ、政治上ノ幾多ノ弊害ハ我ガ帝國ニ於テ、尾籠ナル文句ナガラ骨擲ミトナシテ居ルコトデアリマス、之ヲ革新スベキガ如キ重大ナル抱負ト、深奥ナル經綸ト、高遠ナル理想トヲ、現政府當局ヨリ、會期モ半バヲ過ギツ、アル今日、二月二十二日ノ今日ニ於テモ、尙且ツ何等目ニシ耳ニスルヲ得ナカシタト云フコトハ、私ノ甚ダ遺憾トスル所デアリマスルガ故ニ、此點ニ關スル質問ト云フ意義ニ於テ、甚ダ諸君ノ御倦怠ヲ催フサセテ點ハ、恐縮ノ至リデアリマスケレドモ、聊カ是ダケノコトヲ述ベテ、一ハ以テ政府當局ニ質シ、若シ此仕事數年繼續スルモノデアリマスルナラバ、場合ニ依リテハ是カラ先ノ當局者、若クハ當局タラントスル人ニモ一言ヲ呈シ、尙ホ又事柄ガ聊カ諸君ニ對シテ禮ヲ缺クコトモアツタカモ知レマセヌ、吾々議會其モノニモ關スルコトデアリマスカラ、是等ノ點ニ於テ凡ソ一時間足ラズヲ拜借シタコトハ、餘リ多ク御叱リヲ受ケルニモ當ラナイト思フノデアリマス(拍手)

御叱リヲ受ケルニモ當ラナイト思フノデアリマス(拍手)  
 (政府委員塚本清治君登壇)  
 ○政府委員(塚本清治君) 建部博士ノ只今ノ御質問ニ對シマシテハ、政府ハ慎重綿密ニ研究調査ヲ遂ゲマシタ上、他日答辯申スコトニ致シタイト存ジマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス(拍手)  
 ○議長(粕谷義三君) 質問ノ第三ハ提出者ヨリ延期ノ申出ガアリマシタ、仍テ之ヲ日程ヨリ省キマス、是ニテ質問ヲ終リマシタ、議案ノ日程ニ入りマス、日程第一、第二、第三ハ豫算案デアリマスカラ一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ  
 (異議ナシト呼ブ者アリ)  
 ○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第一、第二號、大正十五年昭和元年度歲入歲出總豫算追加案、日程第二、特第一號、大正十五年昭和元年度各特別會計歲入歲出豫算追加案、日程第三、追第一號豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、右三案ヲ一括シテ議題ト致シマス、委員長ノ報告ヲ求メマス、豫算委員長川原茂輔君

入歲出豫算追加案  
 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也  
 昭和二年二月二十一日  
 委員長 川原 茂輔  
 衆議院議長粕谷義三殿  
 第三(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件  
 報告書  
 一(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件  
 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也  
 昭和二年二月二十一日  
 委員長 川原 茂輔  
 衆議院議長粕谷義三殿  
 (川原茂輔君登壇)  
 ○川原茂輔君 只今上程セラレマシタル豫算案、其他ノモノハ去ル十七日政府ヨリ提出セラレマシテ、其翌日審査ヲ始メ、其節大藏大臣ヨリ提案ノ理由ニ付テ説明ガアツタノデアリマス、一應此提案ノ大體ノ説明ヲ御紹介スルコトハ必要ナリト存ジマス、大正十五年、昭和元年度ノ追加豫算トシテ計上セラレマシタ金額ハ、歲入歲出各、二千四百四十万三千三百二十六圓デアリマス、歲入ニ於テハ前年度剩餘金繰入ノ増加二千四百一十一万餘圓、刑務所收入増加二十二万七千餘圓等ガ其主ナル財源ニナリテ居ルノデアリマス、又歲出ニ於キマシテハ其主ナルモノヲ舉グレバ、爲替相場ノ變動ニ基ク貨幣交換差金ノ増加ノ爲メ一千六十六万四千七百七十八圓、冬期ニ於ケル失業勞働者救濟事業ニ對シ國庫ヨリ補助スルモノ七十二万八千餘圓、支那各地ニ於ケル我が居留民保護ノ爲ニ艦隊ヲ派遣スル必要デアリマス、其外何レモ必要避クベカラザル經費ノミヲ計上シタモノデアルト云フコトノ説明デアツタノデアリマス、質疑應答ガ屢、アリマシタガ、其内容ハ御手許ニ配付シテアリマスル速記録ニ於テ大體御諒水ヲ願

ヒタイト存ジマスガ、唯、一二ノ重要ナル事項ダケヲ御紹介スルコトモ亦必要ナルコト、存ジマスガ、憲政會ノ村山委員ヨリ政府ニ向テ質問セラレマシタ要旨ハ、我國民林業ノ有様ハ現下ノ狀勢ノ儘ニシテ推移スレバ、輸入木材ノ爲ニ壓倒セラレ、林業家ト云フモノハ滅茶々々ナリト遺テ、即チ農村ノ困憊ト云フモノハ極度ニ達スルノデアル、我國重要物産ノ即チ林業事業ニ對シテハ關稅ヲ引上ダ、林業ヲ保護スルト云フ意思ハナイノデアルカ、之ニ對シテ政府ハ關稅ヲ引上ダテ我國ノ林業ヲ保護スルト云フコトモ一策デアラガ、唯、ソレノミデア行カナイカラ、他ニ助長ノ策モ講ジテ居ル次第デアル、關稅ヲ引上ダテ我國ノ林業ヲ保護スルト云フコトハ必要デアラガ故ニ、目下審議中ニ屬シテ居ルノデアルト云フ答辯ガアツタノデアリマス、政友本黨ノ小川委員ヨリハ、相稅徵收ニ關スル市町村交付金ニ付テ、豫算編成上ノ疑義ガアル、即チ大正十五年度ニ於テ相稅ハ豫算ヨリ三千万圓以上ノ增收ヲ生ジテ居ル、隨テ此相稅徵收ノ經費トシテ、市町村ニ交付金ヲ增加スルコト、ナリタルガ、之ニ對シテ歲入財源ハ其增收ニ依リタル相稅ヲ以テシテハ如何デアル、片一方ニハ多額ノ金ヲ剩シテソレハ使ハズシテ、前年度ノ剩餘金ヨリ使ツテ行クト云フ遣方ハ甚ダ宜シクナイノデアル、之ヲ改メル意思ハナイカ、殊ニ本年度ノ豫算ニ於テハ、剩餘金ノ何分ノ一ハ即チ公債ヲ償還スルト云フ新政策ヲ立テシ此政府デアレバ、從來ノ慣例ニ依ラズシテヤツテハ如何ト云フノ質問ガアツタノデアリマス、之ニ對シテ政府ハ、從來當該年度ノ租稅其他ノ一般歲入ヲ以テ、其年ノ追加豫算財源ニ充當スルコトハシテ居ナイノデアル、即チ一般歲入ハ年度經過後ニナラナケレバ確實ノモノデアナイカラ、從來前年度ノ剩餘金ヲ以テ支拂フテ居ルノデアル、此問答ハ大分長カツテ、即チ從來ハ從來デアラガ、將來ハ斯ノ如キ慣例ヲ打破シテ、即チ公債償還ノ額ノ新政策ヲ立ツタ以上ハ、此趣旨ヲ徹底スル方針ハナイカト云フノ應答ガ大分長

カッタノデ、多少委員間ニ於テ此豫算編成ニ付テ注目ニ値スル應答デアッタノデアリ、其事ハ曩ニ申上ダマシタ通り、速記録ニ於テ御了承ヲ願ヒタイ、而シテ討議ノ時ニ於テハ必要已ムヲ得ザル經費ナリトシテ、即チ原案ノ通りニ通過シタノデアリマス、此段御報告ヲ致シマス

○議長(粕谷義三君) 本案ニ對シテハ何等ノ通告モアリマセヌカラ、直ニ採決ヲ致シマス、三案ニ付テ委員長ノ報告ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

(贊成者 起立)

○議長(粕谷義三君) 起立多數デアリマス、仍テ委員長報告ノ通り、三案共可決確定ヲ致シマス、日程第四、明治四十年法律第二十一號中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、豊田政府委員

第四 明治四十年法律第二十一號中改正法律案(樺太ニ於ケル租税ニ關スル件)(政府提出) 第一讀會

明治四十年法律第二十一號中改正法律案

第一條第一項中「三 營業稅」ヲ「三 營業收益稅」ニ改メ第五號ヲ削リ第六號ヲ第五號トス

附則

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條第一項第三號ノ改正規定ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和二年分以前ノ營業稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル  
本法施行前造石數ヲ査定シタル醬油及査定スヘカリシ醬油ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

(政府委員豊田勝藏君登壇)

○政府委員(豊田勝藏君) 只今議題ニナリマシタ明治四十年法律第二十一號改正法律案ニ付テ、簡單ニ御說明致シタイト存ジマス、從來樺太ニ於テハ印紙稅、砂糖消費

稅、織物消費稅、砂鑛區稅、登録稅等ヲ、内地ノ諸稅法ヲ其儘引用致シテ居リマシタ外ニ、此明治四十年法律第二十一號、即チ樺太ニ於ケル租稅ニ關スル件ニ定メル所ニ依リマシテ、所得稅外五種ノ租稅ニ付テ大賦課徵收シテ來タノデアリマス、然ルニ昨大正十五年ニ於キマシテ、内地ニ於テ稅制整理ノ行ハレマシタ結果ト致シマシテ、是ト權衡ヲ圖ルガ爲ニ、樺太ニ於キマスル現行ノ租稅中改廢ヲ要スルモノガアルコトヲ認メマシテ、是ガ改正ニ當リマシテハ、樺太ニ於ケル特殊ノ事情ト云フモノヲ、一面ニ參酌致シマシテ、且ツ他ノ一面ニ於キマシテ、内地ノ稅制整理ノ趣旨ニ順應致シマシテ、現行ノ租稅ノ中營業稅ハ之ヲ營業收益稅ニ改メ、醬油稅ハ之ヲ廢止スルコトヲ妥當ト認メマシタガ爲ニ、本案ヲ出シタ次第デゴザリマス、其趣旨ト致シマスル所ハ、内地ノ兩稅整ノ改廢ト同様デアリマスルガ爲ニ、隨テ其内容ニ關シマシテモ殆ド全部ガ内地ト同様ニナツテ居ルノデアリマス、唯、一二細カイ問題ニ付キマシテ、樺太ノ特殊事情ヨリ致シマシテ、内地法ト異ナル點ガゴザリマスルガ、其點ハ委員會ニ於テ詳細ニ御說明申上ダタイト存ジマス、尙ホ二條ヲ廢止スルコトニ致シテ居リマスルガ、第二條ハ樺太ノ稅ノ徵收並ニ滯納處分ニ關シマシテ、内地ノ國稅徵收法ヲ準用シテ居タノデゴザリマスルガ、是ハ既ニ大正十一年ニ勅令ヲ以テ、國稅徵收法其モノヲ援用致シテ居リマスルガ爲ニ、此條文ハ削除スルコトヲ必要ト認メマシテ、此機會ニ削除スルコト、致シタ次第デゴザリマス、ドウカ御審議ノ上ニ御協贊ヲ與ヘラレシコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 日程第五、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス、砂田重政君

第五

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉  
○砂田重政君 本案ハ政府提出、登録稅法

中改正法律案外十一件ノ委員ニ併託セラレシコトヲ望ミマス  
○議長(粕谷義三君) 砂田君ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ  
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第六、御料地拂下地ノ地租及登録稅免除ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、武内政府委員

第六 御料地拂下地ノ地租及登録稅免除ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

御料地拂下地ノ地租及登録稅免除ニ關スル法律案

第一條 北海道ニ於ケル御料地ニ屬スル未開地ヲ開拓シテ拂下ヲ受ケ又ハ之ヲ開拓シ若ハ荒地ノ儘使用スルノ目的ヲ以テ拂下ヲ受ケ民有ト爲リタル土地ニ對スル地租ハ民有ト爲リタル年ノ翌年ヨリ起算シ十年ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ賦課セズ

第二條 前條ノ拂下地ニ付テノ拂下ニ因ル所有權取得ノ登記ニハ登録稅ヲ免除ス但シ所有權取得後六月内ニ登記ノ囑託ヲ請求セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
第一條ノ規定ハ本法施行前拂下ヲ受ケ民有ト爲リタル土地ニシテ本法施行ノ際未ダ地價ノ設定ヲ爲サザルモノニモ亦之ヲ適用ス

第二條ノ規定ハ前項ノ規定ニ該當スル土地ニシテ本法施行ノ際未ダ拂下ニ因ル所有權取得ノ登記ヲ受ケザルモノニモ亦之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ六月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

(政府委員武内作平君登壇)

○政府委員(武内作平君) 諸君、北海道ニ於キマシテハ、現在國有未開地ガ二百万町歩アルノデアリマスガ、此土地ノ拂下並ニソレガ民有トナリマシタ場合ニ於テ、地租

及登録稅ハ國有未開地處分法ニ依ッテ免除サレテ居ルノデアリマス、北海道ニ於キマシテ、拓殖開發ト云フ立場カラ申シマスルト、能ク其性質ノ似テ居リマス所ノ御料地デアリマスガ、御料地ガ九十一万町歩アリマシテ、存置ヲ必要トセヌモノニ對シマシテハ、是モ拂下ヲスルコトニナツテ居ルノデアリマス、所ガ一方ノ國有ノ分ニ對シマシテハ、地租及登録稅ガ免除サレテ居ルニモ拘ハリマセズ、御料地ヲ拂下ゲマシタ場合ニ於キマシテハ、此免除ガ無イノデアリマスルカラシテ、サウ致シマスルト、北海道拓殖開發ト云フ立場カラ同ジヤウナ種類ノ下ニ在リマスルモノニ拘ラズ、一方ニ於テハ免除シ、一方ニ於テハ免除セヌト云フコトハ、權衡ヲ失スル次第ニナリマスカラシテ、本案ヲ提出致シマシテ、均衡ヲ保ツ、是ガ本案提出ノ趣旨デアリマス、御審議ノ上御協贊ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 日程第七、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス、砂田重政君

第七

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉  
○砂田重政君 本案ハ議長指名、九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第八及第九ハ同一委員ニ付託シタル議案ナルヲ以テ、一括議題トスルニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ第八、計理士法案、第九、會計檢査院法中改正法律案ノ兩案ヲ一括シテ其第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長高木益太郎君

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ第八、計理士法案、第九、會計檢査院法中改正法律案ノ兩案ヲ一括シテ其第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長高木益太郎君

第八 計理士法案(政府提出) 第一讀會

ノ續(委員長報告)

一 計理士法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和二年二月十九日

委員長 高木益太郎

衆議院議長粕谷義三殿

第九 會計検査院法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 會計検査院法中改正法律案(政府提出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和二年二月十九日

委員長 高木益太郎

衆議院議長粕谷義三殿

〔高木益太郎君登壇〕

○高木益太郎君 第一ノ計理士法案ハ七回ニ亙リテ審議ヲ遂ゲマシテ、政府ノ提案ヲ理由アルモノト認メマシテ、全會一致之ヲ可決致シマシタ、但シ委員中佐々木文一君カラ希望ノ提議ガアリマシタ、其内容ハ現在ノ計理士中ニハ随分如何ハシイ者ヲ含ンデ居ルヤウニ考ヘラレマスカラ、計理士ノ銓衡ヲ爲ス場合ニハ銓衡委員ニ對シ、輕々ニ銓衡ヲセラレナイヤウニ十分ノ御注意ヲ加ヘラレタイ、尙又從來ノ計理士中ニハ立派ナ人ヲ多ク含ンデ居ルガ、尙ホ一層名譽信用ヲ維持スル上ニ於テ、此法ニ依リ計理士トシテ選任セラレル人ニハ、社會ニ對シ又政府立法ノ精神ニ鑑ミテ、十分ニ其地位信用ヲ保持スル、如何ハシキ風評等ヲ受クルコトノ無イヤウニ、政府ヨリ戒飭ヲ與ヘテ置カレンコトヲ希望シテ置キマス云フ御發議ガアリマシタ、一同之ニ賛成ヲ致シマシタ、次ニ山口政二君カラシテ希望ノ發議ガアリマシタ、ソレハ將來ハ積極的ニ良イ計理士ノ養成ト云フコトニ政府ハ十分力ヲ注イテ、計理士ニ對シ社會的若クハ公ノ位置ニ付キマシテ、相當保障ヲ致シマセヌケレバ、矢張計理士ノ實際ノ仕事ノ上ニ於テ支

障ヲ致スコトニナリマスカラ、計理士ニ對スル地位ノ保障若クハ其公ノ活動ヲ促ス、此規定ノ改正等モスルヤウニ適當ノ機會ヲ得タイト云フ希望ヲ持ツテ居リマス、尙ホ府縣ノ信用組合若クハ貯蓄銀行ニ對シテハ、計理士ノ定期検査ヲ爲スト云フ所マデ進マナケレバ、實際ノ仕事ノ上ニ於テ計理士ノ爲ニモ又ソレ等ノ團體ノ爲ニモ不幸デアルト考ヘマスノデ、政府ニ於テモ關係官署ト御協議ノ上、段々ト計理士ノ地位ヲ利用向上セシメルト云フヤウナ風ニ御考ヲ煩ハシタイ、斯ウ云フ御發議ガアリマシテ、兩君ノ希望ニ對シテ政府ハ、御希望ハ洵ニ御尤ナコトデアリマスカラ、政府ハ慎重審議時宜ニ應ジテ最善ノ方法ヲ講ズル考デゴザイマス、斯ウ云フ聲明ガアリマシテ、只今御報告ヲ申上ゲマシタ如ク全會一致可決シタ次第デゴザイマスカラ、本院ニ於テモ之ヲ御可決アラシコトヲ望ム次第デアリマス、此段御報告申上ゲマス、モウツ簡單ナ御報告ヲ申上ゲマス、會計検査院法中改正法律案デアリマシテ、御承知ノ通り會計検査院ノ定員ヲ增加致シマシテ、會計實地検査ノ充實ヲ圖ル爲ニ、副検査官二名ヲ殖スト云フ案デアリマス、是亦委員會ハ全會一致可決ヲ致シマシタ、此段御報告ヲ申上ゲマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 兩案ニ對シテハ何等ノ發言通告モアリマセヌカラ直ニ採擇ヲ致シマス、兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○砂田重政君 直ニ兩案ヲ併セテ其第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決確定セラレンコトヲ望ミマス

○議長(粕谷義三君) 砂田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ニ供シマス

計理士法案(政府提出) 第二讀會(確定議)

會計検査院法中改正法律案(政府提出) 第二讀會(確定議)

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ第三讀會ヲ省略シテ兩案共委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ

○砂田重政君 日程變更ノ動議ヲ提出致シマス、直ニ本日ノ日程第五十四、武富濟君外九名提出、決議案ヲ此際議題ト爲シ、其審議ヲ進メラシコトヲ望ミマス

○議長(粕谷義三君) 砂田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、即チ茲ニ決議案ヲ議題ト致シマス、提出者武富濟君第五十四 決議案(議員小川平吉君ノ處決ニ關スル件)(武富濟君外九名提出)

決議案

議員小川平吉君ハ大正十五年八月二十六日所謂朴烈問題ニ關シ其ノ寫眞撮影ノ時期カ自己司法大臣在任中ノ出來事ナリシトセハ當然ノ責任ヲ負フヘシト聲明セルハ天下公知ノ事實ナリ然ルニ最近大審院ニ於ケル今村東京地方裁判所長懲戒裁判所ノ判決書ニ依レハ其ノ撮影ノ時期ハ大正十四年五月二日即チ小川平吉君在任中ナルコトハ明瞭ナリ仍テ同君ハ曩日ノ聲明ニ基キ直ニ引責處決スヘシ

右決議ス

〔武富濟君登壇〕

○武富濟君 諸君、只今上程セラレマシタル小川平吉君ニ關シマス決議案ハ斯様デアリマス、議員小川平吉君ハ大正十五年八月二十六日所謂朴烈問題ニ關シ其ノ寫眞撮影ノ時期カ自己司法大臣在任中ノ出來事ナリシトセハ當然ノ責任ヲ負フヘシト聲明セルハ天下公知ノ事實ナリ然ルニ最近大審院ニ於ケル今村東京地方裁判所長懲戒裁判

所ノ判決書ニ依レハ其ノ撮影ノ時期ハ大正十四年五月二日即チ小川平吉君在任中ナルコトハ明瞭ナリ仍テ同君ハ曩日ノ聲明ニ基キ直ニ引責處決スヘシ、右決議ス

ト云フノデアリマス、提案ノ理由ヲ簡單ニ説明ヲ致シマス、申ヌマデモナク、憲法政治ハ責任政治アリマス、責任觀念無キ所ニ憲法政治ノ生命ハ存在ヲ致サヌノデアリマス、憲政ノ發達ハ政治家ノ責任觀念ニ依テ助長セラレ、憲政ノ腐敗墮落ハ政治家ノ責任觀念ノ萎靡消耗ニ依テ誘致セラレ、モノデアリマス、是ヲ以テ憲法政治ニ參與致シマスル政治家タル者ハ、其在朝在野ヲ問ハズ、切ニ責任ヲ重ンジナケレバナラヌノデアリマス、責任ヲ重ンズル者ハ、言行ガ常ニ一致スルヲ要ス、其言論ニ權威ガアルヲ行ヒマスルガ故ニ、其言論ニ權威ガアルノデアリマス、權威アル言論ヲ以テ一世ヲ指導致シマスルガ故ニ、政治家本來ノ職能ヲ盡スコトガ出來ルノデアリマス、實ニ責任觀念ハ政治家ノ生命デアルト申サナケレバナリマセヌ、責任觀念無キ政治家ハ、正ニ政治家ノ資格ノ無イモノデアルト申サナケレバナラヌノデアリマス、政友會ノ重鎮小川平吉君ハ、昨年中例ノ朴烈文字ノ問題ニ關シマシテ、國體ノ擁護ト皇室ノ尊嚴維持トヲ論ジ、司法權ノ威信ヲ説キ、盛ニ内閣ノ責任ヲ説イテ、大ニ之ヲ糾弾シテ奮闘最モ力メラレタノデアリマス、其論旨ニ付テハ、遠ニ贊意ヲ表シ難キ點モアリマシタケレドモ、其熱烈ナル態度ト、颯爽タル英姿ハ、方ニ憂國慨世ノ發露デアルト致シマシテ、吾々ハ深甚ノ敬意ヲ表シタノデアリマス、而シテ其半バニ於テ小川君ハ、八月二十六日公開狀ヲ發表セラレマシテ、斯様ニ聲明セラレタノデアリマス、一部新聞紙ノ傳アル所ニ依レバ朴烈文字醜怪寫眞撮影ノ件ハ、余ノ法相在任中ノ出來事ナリヤノ說アリ、果シテ然ルヤ否ヤ、政府ニ於テ直ニ其日時場所並ニ其顛末ノ詳細ヲ公表センコトヲ望ム、抑、大逆事件ノ被告ガ並ニ豫審廷又ハ刑務所ノ應接室ニ出頭シタリトセバ、其日時ハ公ノ記録ニ依リテモ直ニ判

三二一

明ニキ善ナリ、故ニ先以テ其日時並ニ  
撮影ノ頼未動機等ヲ公表シテ疑感ヲ解ク  
ハ、政府當然ノ措置ナリト信ズ、而シテ余  
在任中ノ出来事ナリトセバ、當然ノ責任  
ヲ負フニ於テ毫モ躊躇セザルベキコトヲ茲  
ニ明言ス。ト云フノデアリマス、此御態度  
ハ海ニ堂々タルモノデアリマス、人ヲ責メ  
ントスル者ハ先自ラ責メナケレバナラス  
ト云フ、士君子ノ態度ヲ取ラレマシテ、私  
共ニ稱讚ニ値スル所デアリマス、立憲の政  
治家ハ、固ヨリ斯ノ如キ態度ヲナケレバ  
ラヌノデアリマス、諸君、小川君ハ吾々ノ  
同窓同業ノ先輩デアリマシテ、天下知名ノ  
政客デアアル、往年日露戦争後ノ條約ヲ國辱  
ナリト絶叫シテ、同志河野廣中氏等ト共  
ニ、日比谷公園ニ於テ彼ノ國民大會ヲ開催  
セラレマシテ、我が帝國ノ爲ニ萬丈ノ氣焰ヲ  
吐キ過リテ、我ガ帝國ノ爲ニ萬丈ノ氣焰ヲ  
正ニ武装ノ國士デアアルトシテ、吾々ハ同君  
ヲ見タノデアリマス、鉄拳奮仰今日ニ至  
タノデアアル、其司法大臣ノ要職ニ就カレマシ  
タルコトヲ見テ、同君ノ大成ヲ大ニ慶ビマ  
スルト共ニ、又國家ノ慶事デアアルト慶祝  
致シタノデアリマス、唯、其間往々ニシテ  
同君ノ惡聲ヲ耳ニ致シタコトガアル、併ナ  
カラ吾輩ハ未ダ會テ之ヲ信ジタルコトガナ  
イノデアリマス、一昨大正十四年八月初  
政變ノ前、小川君ハ稅制整理案ノ閣議進行  
ヲ拒否セララル、ト共ニ、一身上ノ進退ニ付テ  
ハ何等考慮セラル、所ナク、辭表ヲ提出セ  
ラレザリシコトハ、世間或ハ倒閣ノ陰謀デ  
アルナドト唱ヘタモノデアリマス、併ナカ  
ラ吾輩ハ之ヲ信用致シマセス、是ハ正ニ小  
川君等ノ正々堂々タル主義主張ノ貫徹デ  
アルトシ、確信ヲ致シテ居リマシタノデア  
リマス、近クハ又本年初頭ノ議會ニ於ケル同君ノ  
質問演說ヲ拜聴致シマスルニ、其理想高  
遠ニシテ立論ノ堂々タル敬服ノ至リニ  
堪ヘナカッタノデアリマス、同君ハ實ニ斯  
様ニ申サレタノデアアル、物質偏重主義ハ之ヲ  
排撃シナケレバナラス、物ノ政治ヲ退ケ  
テ心ヲ政治ヲ尊バナケレバナラス、政治ノ  
要諦ハ道義ヲ振興シテ人心ヲ正シクスルニ

在テト喝破セラレタ、昭和新政ノ始ニ當  
テ、政局會通ノ機ニ際シテ天下ノ人心ヲ一  
轉シ、輿論ノ機運ヲ宣揚セントスルナラ  
バ、憲政運用ノ局ニ當ル者モ、諸君モ吾々  
モ、率先シテ自ラ覺醒シナケレバナラス、奮  
勵一番シテ精神的ノ革新ヲ斷行シナケレバ  
ナラス、更ニ進シテ若槻首相ニ對シテハ自  
己本來ノ良心ニ質シ、之ヲ天賦ノ德性ニ照  
シ、道義ノ法則ニ依テ自ラ其進退ヲ決ス  
ベシ、斯ノ如クニシテ天下ノ人心ハ靡然ト  
シテ覺醒シ、沸然トシテ振起スルノデア  
ルト誨ヘラレタ、最後ニハ又政局ニ當ル者ハ  
進退行藏一ツニ士君子ノ道ニ則テ、禮讓  
廉恥ヲ重シジナケレバナラスト論結セラ  
レタノデアリマス、洵ニ縷々數千萬言、正ニ  
金玉ノ響キト輝キト持テ居ルノデアリ  
マシテ、吾々ハ全然共鳴ヲ致シタノデア  
リマス、流石ニ先輩小川平吉君ナレバコソ  
ト、謹ンデ傾聴ヲ致シテ其高教ニ接シタル  
コトヲ深ク感謝ヲ致シタノデアリマス、然  
ルニ何事ゾヤ、茲ニ突如トシテ甚ダ意外ナ  
ル最モ驚クベキ一ツノ事實ニ逢致シマシ  
テ、私ハ自ラ其目ト耳トヲ疑ハントシタノ  
デアリマス、其驚クベキ意外ノ事實トハ何  
アルカ、曰ク小川君ノ最近ニ於ケル言動  
レデアリマス(拍手)暫ク其言動ヲ觀察ヲ致  
シタイノデアリマス、第一ニ小川君ノ公開  
狀ノ文旨ハ曩ニ朗讀致シマシタル通り、怪  
寫眞ノ撮影ガ自分ノ在任中ノ出来事デア  
タトスルナラバ、當然ノ責任ヲ負フニ於テ  
毫モ躊躇セザルベキコトヲ明言セルト云フ  
ノデアリマス、然ルニ近頃發表セラレマシ  
タル今村東京地方裁判所長ノ大審院ニ於ケ  
ル懲戒裁判所ノ判決ノ記載ヲ見マスルト云  
フト、其怪寫眞ノ撮影ハ明ニ二十四年五月  
二日デアッタ、小川君ノ在官中ノ出来事  
デアッタト云フ事ハ頗ル明白ト相成タノ  
デアリマス(拍手)之ニ付テハ一點ノ疑ガナイ  
ト云フコトヲ御認メ相成ラナケレバナライ  
ノデアリマス、本年二月四日ニ發表セラレ  
マシタル懲戒裁判所ノ判決自體ヲ熟讀致シ  
マス、其事實ハ頗ル明瞭デアリマス、立松  
判事ガ朴烈事件ノ管轄違ノ言渡ヲ致シマシ

タノハ十四年ノ七月七日デアリマス、控訴  
院ノ判事ニ轉任致シマシタノハ、同年ノ七月  
十五日デアリマス、是ハ官報ニ明ニ記載サ  
レテアル、控訴院ノ判事トナシマシタノ  
デアリマス、而シテ控訴院ノ判事ニ轉任ス  
ルト同時ニ、今迄事務ヲ執テ居リマシタ  
ル豫審ノ第五號廷ナル室ヨリ、他ノ室ニ移轉  
ヲシタト云フ事アベカラザル事實ガアル、  
而シテ大審院ノ特別權限ニ屬シマス朴烈被  
告事件ノ受命判事ノ辭令ヲ得マシタノハ、越  
エテ二日經テマシタ同年七月十七日デア  
リマス、而シテ立松判事ガ意見ヲ附シテ之ヲ  
大審院ニ送致致シマシタノハ、同年九月三日、  
大審院ガ開始決定致シマシタノハ十月二十  
八日、而シテ判決書ニ明記シテアリマス事  
實ヲ見レバ、淀橋警察署長ノ立山合戦ナル  
者ノ部下ノ原ト云ヘル巡查ガ、立松豫審判事  
ノ依頼ニ依テ現像ヲスル爲ニ寫眞ノ原板  
ヲ悉ク持歸タト云フ事實ガアル、而シテ  
其現像ヲ致シマシテ之ヲ立松判事ニ返戻  
致シマシタノハ六月十三、四日頃デア  
リマス、朴烈ニ立松ガ其寫眞ヲ與ヘマ  
シタノハ六月二十日デアリマス、此事實  
ヲ見マスと云フト、五月二日例ノ怪寫眞  
ガ撮影セラレタトト事實ハ、争フベキ  
餘地ガ無イノデアリマス、假ニ百歩ヲ讓  
テ小川君ノ爲ニ姑ク辯ヲ費スナラバ、是ハ  
五月二日ニアラズト致シマシテモ、原巡查  
ガ現像ノ爲ニ立松判事ヨリ受取り去リタル  
ハ六月五日頃デアリマス、而シテ  
ス、又假ニ六月五日頃ナラズト致シマシ  
テモ、立松判事ガ控訴院判事ニ轉任ヲ致シ  
豫審ノ第五號廷ヲ移リマシタノハ七月十五日  
前デアリマス、而シテ小川君ノ在官中ノ  
出来事デアッタト云フコトハ、  
一點ノ疑モナイノデアリマス(拍手)而モ今  
村地方裁判所長ガ懲戒裁判ニ付セラレマシ  
タル點ニ付テハ、七月十五日以後ノ事ナリ  
セバ、即チ立松豫審判事ガ控訴院ニ轉任  
シタル後ノ事デアッタナラバ、立松ニ對ス  
ル監督權ハ東京控訴院長ニ移轉ヲ致シテ居  
ルノデアリマスカラ、今村所長ハ毫末微塵  
モ責任ノアルベキ善ハアリマセス、今村所

長ニ責任アリヤ否ヤヲ懲戒裁判所ニ於テ慎  
重審議致シマス爲ニハ、其寫眞ノ撮影ガ立  
松豫審判事ガ東京控訴院ニ轉シタル後ノ出  
來事ナリシヤ否ヤト云フコトヲ審案スルコ  
トガ、最も重要ナル事項ニ算ヘラレテ居ル  
ノデアリマス(拍手)是ニ於テ懲戒裁判所ハ  
十分ノ取調ヲシマシタ結果、矢張寫眞ノ撮影  
ハ五月二日デアッタニ相違ナイト云フコト  
ヲ認メマシテ、茲ニ今村所長ノ責任アリヤ  
否ヤヲ審案致シマシテ、偶然突發ノ部下ノ  
行爲ニ對シテハ上官タルモノハ責任ナシト  
ノ判決ヲ與ヘラレタルコトハ、小川君ト雖  
モ御承知ノ通りデアリマス、然ラバ即チ小  
川君ハ直ニ前言ニ從ヒマシテ、當然ノ責任  
ヲ負フニ於テ躊躇スベキ善デハナカッタ  
デアリマス(拍手)然ルニ小川君ハ今日只今  
マデ引責處決ヲナサラヌ、私共ハ平昔最モ  
尊信シテ居リマシタル先輩デアッタ、口ニ  
最高德義ヲ高調セラレマシタル紳士デア  
リマス、而シテ尙ホ且ツ其引責辭職ヲセラ  
レバコトハ、實ニ意外ナル一大事ト謂ハナ  
ケレバナラスノデアリマス、第二ニ小川君  
ハ新聞記者ニ對シ、又政友會ノ代議士會  
席上ニ於テ、屢ニ懲戒裁判所判決認定ノ事  
實ヲ否定セラレ、寫眞撮影ノ時期ハ五月  
二日デハナイ、自己退官後デアアル、同年  
秋ノ頃デアッタト云フコトヲ主張セラレテ  
居リマスケレドモ、是レ以テノ外ノ言說デ  
アリマス、天皇ノ御名ニ於テ裁判ヲセラレ  
ル最高法衙ノ最高權威アル判決ヲ否定スル  
ト云フガ如キハ、洵ニ許スベカラザル態度  
デアルト斷定ヲシナケレバナラス、是ガ若  
シ無智無識ナル匹夫匹婦ノコトデアラ  
バ、固ヨリ之ヲ問ハヌデモ宜シイ、苟モ天  
下ノ名士デアリ、士君子ヲ以テ許セルノ人  
デアアル、殊ニ曩ニ司法大臣ノ大官ニ就レタ  
ル小川君ニシテ、此判決ヲ否定スルガ如キ  
ハ、私共ト致シマシテハ洵ニ驚キ入タル  
御所爲デアアルト申サナケレバナリマセス、  
前司法大臣ガ大審院ノ判決ヲ自己利益辯護  
ノ爲ニ否定スルガ如キハ、是レ即チ判決神  
聖ノ冒瀆デアリ、裁判所威信ノ毀損デア  
リ、即チ司法權ノ蔑視デアリマス、司法權



レバナラヌ、敢テ此言ヲ爲スハ平素小川君ヲ信ズレバコソデアリマス、後輩等ノ如キガ敢テ小川君ニ向テ忠告ヲ申出ヅルナドト云フコトハ、甚ダ非禮デアルト云フコトハ存ジテ居リマス、隨テ私ハ唯、小川君ノ質問演說中ニ爲サレタル貴キ教ノ數句ヲ、茲ニ繰返スニ止メヤウト考ヘマス、小川先生曰ク、政治ノ要諦ハ道義ヲ振興シ、人心ヲ正スニ在リ、曰ク、吾等ハ奮勵ニ精神ノ革新ヲ斷行セザルベカラズ、曰ク、自己本來ノ良心ニ質シ、之ヲ天賦ノ徳性ニ照シ、道義ノ法則ニ從テ其進退ヲ決スベシ、曰ク、政治家ノ進退行藏一ニ士君子ノ道ニ則リ、禮讓廉恥ヲ重シゼヨトノ貴キ教ハ、是ハ小川君御自身ノ御發言デアリマス、此言說ニ願ミテ直ニ處決セラルベキ筈デアリマス、然ラズンバ言行不一致デアツテ、責任ノ何タルカヲ解セザル非立憲的政治家タリトノ汚名ヲ負ハナケレバナラヌモノデアルト認メマス、敢テ此言ヲ爲ス、小川君ヲ敬スレバコソデアリマス、若シ萬一小川君自ラガ引責處決ヲ爲サラス場合ニハ、滿場一致ヲ以テ本案ヲ可決セラレンコトヲ切望スル者デアリマス、若シ本案ヲ否決シ去ル時ニ於テハ、我が帝國議會ナルモノハ政治家ノ責任觀念ヲ要求セザルモノデアリ、政治家ノ言行不一致ヲ認容スルモノデアリ、其腐敗墮落ヲ誘致スル止スルモノデアリ、其腐敗墮落ヲ誘致スルモノデアルトノ國民一致ノ評決ヲ受ケマシテ、延イテ世道人心ヲ荼毒スルノ罪惡ヲ犯スノ結果ト相成ルデアリマセウ(拍手)今ヤ既成政黨ヲ呪フノ聲ハ全國ニ充滿致シテ居リマス、無産黨ノ擡頭ヲ見、勞農黨ノ成立ヲ見ク、政界ノ新機運ハ其勢澎湃タル激浪ノ如クニ吾等ノ脚下ヲ襲ヒツ、アルト知ラナケレバナラヌノデアリマス(發言スル者多シ)

○議長(粕谷義三君) 静肅ニ願ヒマス  
○武富濟君(續) 舊人ハ目覺メナケレバナラヌ、政黨者流ハ自覺ヲシナケレバナラヌ、公明正大ナル政治ヲ行ハナケレバナラヌ、憲政ノ大道ヲ眞直ニ進マナケレバナラヌ、政治家ハ正シクナケレバナラヌ、政治家ハ強クナケレバナラヌ、而シテ責任ヲ執ルニ於テハ最も勇猛デアラナケレバナラヌデアリマス、政治家タル者ハ小川君ノ所謂諸君モ吾等モ率先シテ、自ら覺醒ヲシナケレバナラヌ重大ナル時機ニ際會シテ居ルモノト知ラナケレバナラヌデアリマス、若ソレ諸君ガ俗論ニ囚ハレ、私情ニ驅ラレ、純理ヲ忘レ、公事ヲ蔑ニシテ斯ル案件ヲ否決シ去ルガ如キコトガアリマシタナラバ、我が帝國議會ノ威信ヲ地ニ墜スベキ一大汚辱デアルトノ汚名ヲ負ハナケレバナラヌデアリマス、切ニ諸君ノ御賛成ヲ求めマシテ、私提案ノ趣旨ヲ説明致シタノデアリマス

○議長(粕谷義三君) 一身上ニ關スル件ニ付テ、小川君ヨリ發言ヲ求めラレテ居リマス、之ヲ許シマス、小川平吉君

(小川平吉君登壇)

○小川平吉君 只今武富君ヨリ決議案御提出ノ理由ヲ承リマシタ、其前半ニ於テ私ニ對シ武富君ヨリ讚辭ヲ呈セラレマシタニ對シマシテハ、洵ニ感謝ニ堪ヘマセヌ、又武富君ガ去ル十八日ノ此議場ニ於ケル私ノ演說ヲ御引用ニナリマシテ、之ニ御同感ヲ表セラレタル點ニ對シマシテハ、私ハ洵ニ會心ノ至ニ堪ヘナイノデアリマス、此演說ノ趣意ハ私ハ只今デモ諸君ト共ニドウカ之ヲ實行致シテ、昭和ノ初ニ方テ精神的ノ革新ヲ斷行致シタイト云フコトヲ考ヘテ居リマス、先刻武富君ノ茲ニ述べラレマシタル如ク、昨年ノ八月二十六日ニ私ハ彼ノ朴準植等ノ問題ニ關シマシテ、御述ベノ如キ聲明書ヲ發シテ居リマス、即チ此朴準植ノ事件ナルモノハ私ハ大切ナル事件ト考ヘル、之ニ關係スル所ノ人々ハ總テ事實ト之二件ヲ責任ヲ明ニシナケレバナラナイト當時考ヘマシタノデゴザイマス、而シテ先ヅ以テ政府ノ關係シタル事實ニ付、責任ヲ問ヒマスル前ニ方テ、私ノ在職中ノ出來事デアールカ、其以後ノ出來事デアールカ、此點ニ付テ明デナカッタ所ノ、彼ノ怪寫眞攝影ノ時日竝ニ其顛末、之ニ對シマシテ御承知ノ通リ、當時江木司法大臣ノ話トシテ承ル所ニ

依レバ、此事ハ極メテ輕イモノデアアル、事實又前法相ノ時代デアルト云フ風ナコトガ散見致シマシタ、私ハ私ノ在任中ノ出來事デアールカ否ヤト云フ疑ノアル點ニ付テハ、先ヅ以テ政府ヨリシテ其事實ヲ明ニシテ貴ヒマシテ、之ニ對スル當然ノ責任ヲ、先ヅ自分カラ負擔ヲ致シ、然ル後ニ進シテ政府ノ責任ヲ問ハウト考ヘタノデアリマス、固ヨリ當然ノ責任ト申シマスルノハ、司法大臣トシテ當時部下ニ斯ノ如キ不都合ナル所爲ヲ致シタニ付テ、司法大臣ハ既ニ辭任ヲ致シテ居リマスルケレドモ、即チ政治上ノ責任ハ解除セラレマシテモ、道徳上ノ責任トシテ、私ノ良心ノ發露トシテ、其責任ヲ感スル以上ハ此責任ヲ負擔スル、斯様ナ考ヲ以テ聲明書ヲ書イタノデアアル(ヒヤ)

故ニ當時或ル新聞紙上ニ於テハ、或ハ此出來事ハ司法大臣在任中デアッタナラバ、私ガ代議士ヲ辭スルナント云フヤウナ記事モアツタ、之ニ對シテハ明白ニ私ハ取消モ致シテ居ル、又代議士ニハ關係ノ無イ事デアルト云フコトモ、私ハ話ヲシテ其記事ガ出テ居ルノデアリマス、是ハ恰モ世人ハ誤解ヲ招クコトヲ虞レマシテ、私ノ即チ當然ノ責任ヲ負フト云フノ趣意ヲ明ニ致シタ考デアアル、而シテ此聲明書ニ對シマシテ、政府ガ數日後ニ發表セラレマシタ聲明ハ、當時新聞紙上ニ現ハレマシタル如ク、如何ニモ其聲明書目體ガ甚ダ信用置キ難イ、又彼ノ朴準植事件ノ調書ニ之ヲ對照シテ見ルト、益、以テ信用ヲスルコトガ出來ナカッタノデアリマス、又今回ノ懲戒裁判ノ判決ト事實ガ違フテ居ル譯デアリマス、故ニ遺憾ナガラ此點ノ事實ハ政府ノ聲明ヲ信用スルコト能ハズト云フダケデ、私ハ即チ自己ノ力ノ及ブ範圍ニ於テ、事件ノ真相ヲ調査シテ參照ノデアリマス、而シテ此問題ハ茲ニ止メテ調査ヲ進メテ、一面ニ於テハ即チ進シテ政府ノ責任ヲ問フコト云フ段取ニ致シタノデアリマス、而シテ吾等ノ同僚及其他各地ニ居ル所ノ有志ノ人々等ヨリ、様々ナル資料ガ吾等ノ手ニ届イテ居リマス、之ニ依テ見マスト云フト、此怪寫眞攝影ノ時期ハ大

正十四年ノ十月デアアル、十月ノ十七日デアルト云フコトノ事實證據ガ澤山ニ參ッテ居ル、一々是等ノ事實證據ヲ私ハ此席ニ於テ列舉スルヤウナ煩ハシイコトハ致シマセヌ、致シマセヌガ、事實トシテ私ハ茲ニ述べルノデアアル、其證據ノ中ニハ此怪寫眞ノ裏面ニ大正十四年初秋之ヲ寫ス、斯様ニ書イテアル所ノ寫眞ヲ彼ノ石黒……(發言者多シ)

○議長(粕谷義三君) 静肅ニ願ヒマス  
○小川平吉君(續) 石黒銳一郎ナル人ガ、一箇月モ預シテ居ラタト云フコトノ證人モアルノデアリマス、又諸君モ若シ此事件ヲ御調ニナリマシタナラバ御承知デアアラウト思フ、此寫眞其モノニ付テ之ヲ豫審廷ノ現在ノ狀況ト對照致シテ見マスレバ、其光線ノ這入り工合、甚ストゾ「位置、其卓子掛ノ狀況、是等豫審廷ノ狀況ト寫眞ニ現ハレタ事柄ガ相違シテ居ルト云フ事實モアル、又私ガ茲ニ申述セルマデモナイ、既ニ度々新聞紙上ニモ發表ニナツテ居ル所ノ、彼ノ五月二日ト云フ日ハ、豫審調査ニ依テ見マスレバ、立松豫審判事ハ刑務所ニ出張ヲ致シテ、非常ニ浩翰ナル調書ヲ作製致シテ居ル、吾等ノ目ヲ以テスレバ、ドウシテモ七八時間經タナケレバ作レヌ所ノ調書ヲ作シテ居ル、其一日ノ日ニ刑務所ニ於テ斯ノ如キ浩翰ナル調書ヲ作製致シ、殊ニ其當日ハ朴準植ニ對シテ金子文子ノ豫審調書マデ全部讀ミ聽ケ、金重漢ノ調書マデ讀ミ聽ケタト云フコトガ書イテアル以上ハ、五月二日ニ裁判所ニ兩人ヲ喚ビ、寫眞ヲ攝影シタト云フコトハ、ドウモ信用ガ出來ヌト云フコトハ、是ハ當リ前ナ話デアアル(拍手)斯様ナル事實ヲ始メト致シマシテ、或ハ金子文子ノ著用致シテ居リマス所ノ著物、並ニ其襦袢ハ「レース」トカニ云フ所ノ物デアツテ、六月ニナラナケレバ是ハ許サレヌ所ノ著物ヲ著テ居ルト云フ事實モアル(ヒヤヒヤ)拍手)又私ガ現ニ今日モ所持シテ居ル彼ノ原板ヲ擴大致シマシタ所ノ寫眞ニ依テ見レバ、其寫眞ニ映シタル所ノ數物ハ裁判所ニ在ル所ノ「リノリユーム」デハナイ、

何方編物ノ如キモノデアルト云フ、即チ刑務所デアルト云フ證據ガ寫眞デモ分テ居ルト云フ事實ガアル(拍手)然レニ斯ノ如キコトニ御關係ノナイ諸君ハ、吾々ノ手ニハ御承知ナイデアリマセウガ、吾々ノ手ニハ斯ノ如キコトヲ初メトシテ多數ノ證據ガ參ッテ居ルデアアル、併ナガラ是ガ何レガ眞デアアルカト云フコトニ付テハ、第三者トシテハ頗ル感ハザルヲ得ヌコトデアラウト吾々モ考ヘテ居ル、幸ニシテ彼ノ懲戒裁判ナルモノガ始マリマシタ、私ハ頗ル此成行ニ向ッテ注意ヲ拂ッテ居タノデアリマス、而シテ此懲戒裁判ニ於ケル所ノ辯護人タル今村辯護士ノ手ニハ、私ガ以上述べマシタルル如キ證人其他ノ證據ト云フモノハ、餘程具備セラレテ居タモノデアルト、私ハ信ズベキ理由ヲ持ッテ居ル、是ガ公判廷ニ於テ、即チ被告ノ爲ニ是等ノ證據事實ガ提供ヲセラレ、即チ五月二日ノ時日ト云フモノガ、公判廷ニ於テ争ヒトナッテ審議サレルコト、私ハ考ヘテ居タ、然レニ豫期ニ反シ、公判ハ尙ニ僅少ナル時間ニ、法律上ノ責任問題ダケノ議論ニ依ッテ終了致シタト承テ、聽ッテ控訴裁判ガ開カレマシテ、是亦極メテ短時間ノ間ニ、彼ノ時日ノ如キハ争ヒノ點トシテ審議セラレズ、法律論ニ依ッテ公判ガ終結シテシマッタト云フコトデアアル、而シテ諸君ト共ニ私ハ最近ニ至ッテ彼ノ懲戒裁判ノ控訴ノ判決ヲ一讀致シタノデアリマス、私ハ茲ニ明言ヲ致ス、固ヨリ大審院ノ判決ニ限ラズ、裁判所ノ判決ニ向ッテハ最モ尊重ヲスル所ノ一人デアリマス、又裁判所ノ判決ノ羈絆力ニ對シマシテモ、此羈絆力ヲ疑ハナイ者デアリマス、是ト同時ニ彼ノ裁判所ノ判決ノ主文其モノモ、時ニ依ッテ其判決例ノ覆ヘルコトガアルコトモ存ジテ居ル、又裁判ノ理由ナルモノハ武富君モ御承知ノ通り、主文ニ密接スル所ノ事實ダケガ確定ノモノデアリ、其他ノ理由ニ至ッテハ固ヨリ確定ノモノデハナイ(拍手)本件ノ控訴裁判所ニ於ケル所ノ所謂確定ノ事實ト云フモノハ何デアリマセウ、主文ニ密接スル所ノ東京地方裁判所

長ノ監督權ト、立松豫審判事ノ偶發の行爲、此二點ニ依ッテ主文ガ出來テ居ル、是ガ確定力ヲ有シテ居ル事實デアリ、他ノ裁判ノ理由ニ至ッテハ、法律論トシテハ確定力ヲ持ッテ居ラヌコトハ論ズルヲ俟タヌ所デアリマス、併ナガラ私ハ此法律論ニ依ッテ私ノ道徳上ノ責任ヲ律スルガ如キ考ハ毫モナイノデアアル、又私ハ必シモ此懲戒裁判所ノ判決ガ東京地方裁判所長ニ對シテ、何等ノ責任ナシト判決セラレタコトニ向ッテ、之ニ對シテモ私ハ必シモ相當ノ判決ナリトハ考ヘテ居リマセウ、聞ク所ニ依ッテ東京第一辯護士會ノ如キモ、是ハ責任アルカノ如キ議論ガアルト承ッテ居ル位デアアル、故ニアリトスレバ、私ノ責任モ從ッテ深イト云フ議論デアアル、一身ニ取リテハ利益ノ論デアリマセウ、併ナガラ私ノ良心ニ照シ、私ノ知識ニ依ッテ判斷ヲ致シ考ヘテ居ラヌ、必シモ此判斷ガ當レリトハ私ハ考ヘテ居ラヌ、併ナガラ此裁判所ノ形式上ノ議論、法律論ト云フモノハ私ハ姑ク措イテ問ハヌノデアリマス、私ハ私ノ良心ニ照シ、此控訴裁判所ニ對シテ最モ尊重スル所ノ觀念ヨリシテ、如何ニシテ斯ノ如キコトヲ裁判所ガ認定ヲセラレタノデアアルカト云フコトニ付テ疑ヲ懷イタノデアリマス、然ルニ先刻モ述べマスル通り、公判廷ニ於テハ此問題ハ論點トシテ審議サレテ居ラヌ、又判決其モノヲ讀ンデ見マシテモ、武富君ノ能ク御承知ノ通り、凡ソ判決ニ對シテハ事實ヲ認定スル以上ハ、之ニ對スル證據ヲ舉ゲテ明細ニ説明スベシト云フ所ノ法律ノ規定ガアルニ拘ラズ、此判決ニハ毫モ證據ヲ舉ゲテ居リマセウ、(ヒヤ)故ニ如何ナル證據ニ依ッテ是ダケノ事實ヲ認定致シタノデアアルカ、此證據ニ對スル所ノ反對ノ證據方法モ少シモ研究サレテ居ラナイ、故ニ私自身ト致シマシテハ私ノ良心ニ訴ヘテ、私ノ今日マデ持ッテ居ル所ノ證據ニ對シテ(良心ガアルカ)ト呼フ者アリ今日既ニ多少ノ疑ヲ生ジテ居ル、何トナレバ私ハ大審院ノ判決其モノヲ法律上尊重スルバカリデハナイ、事實ニ於テ裁判官諸氏ニ對シ

テモ重キ信用ヲ拂ッテ居リマス、又辯護人タル今村方三郎ト云フ人ニ對シテモ平素最モ尊敬ヲ拂ッテ居ルノデアアル、是等ノ人ガシタ裁判デアアルカラ、或ハ私ノ持ッテ居ル所ノ證據、或ハ私ノ持ッテ居ル所ノ事實、今日マデ信用シテ居タ所ガ誤リデアアルノデハナイカト云フ疑ガ生ジテ參ッテ、併ナガラ之ヲ誤リカト信ズルニハ更ニ進ンデ研究ヲ致シ、私ノ手ニ在ル所ノ、即チ證人ノ持ッテ居タ彼ノ怪寫眞ノ裏面ニ書イテアル時日ト云フモノハ、ドウ云フ譯デ是ガ間違ヒデアッタノデアアルカ、更ニヨリ以上ノ事實證據ト云フモノガアッタノデアアルカ、或ハ承ル所ニ依リマスレバ、六月ノ何日カニ警察官ガ、怪寫眞ノ撮影ヲシタト云フコトガアル、果シテ其證言ト云フモノガ信用スベシト云フコトデアッタナラバ、是ハ無論私任中ノコトニ屬スル、五月ノ二日ト云フモノガ間違ヒデアリマシテモ、六月ノ半バニ怪寫眞ノ現像ガ出來タト云フコトデアラナラバ、無論私ノ在任中ノ出來事デアアル、其證據ガ果シテアルノデアアルカ、信用スベキモノデアアルカドウデアアルカト云フコトヲ、如何ニシテ私ガ知ルコトガ出來ルカ(拍手)何ヲ言フカト呼フ者アリ)私ハ今日正ニ是等ノ事實ニ對シテ等閑ニ付シ、或ハ全ク之ヲ棄去ルト云フコトハ私ニハ出來ナイノデアアル(ヒヤ)既ニ私ノ今日マデ持ッテ居タ所ノ證據、又ハ信用シテ居タ事實ニ付テモ、一面ニ裁判官、辯護士諸氏ノ茲ニ信用シタ反對ノ事實ガアルト云フコトナラバ、之ヲ突合ハシテ見テ、而シテ然レ後私ノ良心ノ命令スル所ニ從ッテ、事實ヲ決定致サナケレバナラヌノデアアル(ヒヤ)是ハ私ガ呉ニモ諸君ノ前ニ申上ダテ置キマス、私ガ此責任ヲ通レルナドト云フ考ヲ以テ、事實ヲ曖昧ニ付スルト云フコトハ絕對ニアリマセウ、今日吾々同志ノ調査ノ結果ト云フモノガ之ヲ覆ヘスダケノ取調ベモセザル中ニ、自己ノ良心ニ反シテ、而シテ證據モ舉ゲナイ所ノ裁判ニ向ッテ、全部ノ理由ヲ信用セヨト言ウテモ、是ハ出來ナイ(拍手)

故ニ私ハ更ニ進ンデ取調ヲ致シマシテ一恐ラクハ裁判所ノ方ノ認定、辯護人ノ信ズル所ガ事實デアラウカトモ考ヘル、事實デアルト私ガ見込ダナラバ、即チ當初聲明ノ如ク、假令聲明ガナイト致シマシテモ、此當然ノ負フベキ所ノ責任ヲ負フト云フコトハ、茲ニ諸君ノ前ニ私ハ明言ヲ致シマス次第デアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 議事進行ニ關シテ發言ヲ求メラレテ居リマス、三輪市太郎君

○三輪市太郎君 簡單デアリマスカラ自席デ發言ヲ御許ヲ願ヒマス、本問題ハ小川君ノ言明ニ依リマシテモ事態既ニ明トナタト信ズルガ故ニ、最早當議場ニ於テ討論スルニ及バナイト認メマス、仍テ此場合提案者ニ於テハ速ニ撤回セラレンコトヲ望ム者デアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 尙ホ議事進行ニ關シテ發言ヲ求メラレテ居リマス、山枿儀重君(山枿儀重君登壇)

○山枿儀重君 只今小川平吉君ハ昨年ノ八月二十六日ニ發シタ所ノ公開狀ノ趣旨ニ基イテ、若シ所謂怪寫眞ガ確ニ自分ノ在任中ニ於テ撮影セラレタモノデアルトスルナラバ、自分ハ道徳上良心ニ感ズル所ニ依ッテ其責任ヲ負フト云フコトヲ、重ねテ此處ニ明ニセラレタコトヲ私ハ深ク敬意ヲ表スルノデアリマス、併ナガラ私共ハ小川平吉君ハ尙ホ其事實ヲ(發言者多シ)大審院ノ判決ガ誤ッテ居ルト言ハル、ガ如キ御言葉デアリマシタガ故ニ、私共ハ(議事進行デハナイ)ト呼ビ、發言者多シ)故ニ私共ハ小川平吉君ノ只今ノ辯明ノ趣旨ヲ明ニシナケレバ、私共ハ此議事ヲ進行スルコトガ出來ナイノデアリマスルカラ、茲ニ小川平吉君ニ對シテ私共ノ疑ヲ懷イテ居ル所ヲ述ベテ、而シテ重ネテ小川平吉君ノ辯明ヲ求メテ以テ議事ヲ進行致サントスルノデアリマス、故ニ是ハ議事ヲ進行ニ重大ナル關係ノアルモノデアルト思フノデアリマス、吾々ノ聞ク所ニ依リマスルト(ソレハ議事進行デハナイ)「議事進行ト質問トハ違フ」(議長々々)ト呼ビ其他發言者多シ)

○議長(粕谷義三君) 是ヨリ質疑ヲ許シマス、土屋清三郎君

(土屋清三郎君登壇)

○議長(粕谷義三君) 先刻三輪君ヨリ本案ノ提出者ニ對シテ撤回ノ勸告ガアリマシタヤウデアリマスガ、提出者ニ於テハ其要求ニ應ゼラレマスカ

(武富濟君「應ズルコトガ出來マセヌ」ト呼フ)

○議長(粕谷義三君) 是ヨリ質疑ヲ許シマス

○土屋清三郎君 私ハ提案者ノ説明並ニ小川君ノ釋明ヲ拜聽致シマシテ、幾多ノ疑點ヲ生ジタノデアリマス、仍テ二三ノ點ニ付テ提案者ニ御尋フ致シタイト思フノデアリマス、固ヨリ私ハ小川君ノ屬スル所ノ政友會員デアリマセヌ、又提案者諸君ノ屬スル所ノ憲政會員デアリマセヌ、既成政黨ノ現狀ヲ憤慨シテ之ヲ革正セントスルコトニ對シテハ、身ヲ挺ンジテ闘ハントシテ居ル一人デアリマス、隨テ私ノ質問ノ言葉ノ中ニ、若シ諸君ニ禮ヲ失スルガ如キコトガアリマシタナラバ、希クハ忠告耳ニ逆フモノトシテ御諒恕アラント豫メ御願シテ置クノデアリマス、第一ニ提案者ニ御尋シタイトイハ、先程承リマスルト云フ、質問ノ理由ハ、小川君ガ寫眞ノ撮影ガ自己ノ在任中デアラナラバ責ヲ負フト云フコトヲ新聞ニ聲明シタト云フコト、大審院ノ今村裁判所長ニ對スル判決書ニ五月二日、即チ小川君ノ在任中デアッタト云フコトニアルヤウニ承知ヲ致シタノデアリマス、即チ此二ツノ點ヲ結付ケテ諸君ハ問責ノ材料ト致シテ居ラレドデデアリマス、然ルニ小川君ハ此寫眞ノ撮影ガ五月二日デアルト云フコトハ、先刻之ヲ否定シテ居ラレドデアリマス、又新聞ニ掲載ノ聲明書ニ對シテハ、小川君ハ之ヲ自己ノ如ク申シテ居リマセケレドモ、私ノ問ク所ニ依リマスルト云フコト、アノ聲明書ハ小川君自身ガ書イタモノデナクシテ、他ノ者ガ小川君ノ名ヲ以テ出シタモノデアルト云フ説モアルノデアリマス、元來罪ノ疑ハシキモノハ之ヲ罰セズト

云フコトハ私ノ申スマデモナク刑法ノ原則デアアル、況ヤ政治家ガ同僚ニ向テ政治上ノ責任ヲ問フ場合ニ於キマシテハ、層一層慎重ノ態度ヲ執ラナケレバナラナイト思フノデアリマス、先刻武富君ハ裁判所ノ判決ヲ引用致シマシテ、天皇ノ名ニ於テヤツタ所ノ神聖ナル裁判ニ於テ之ヲ認メタト云フコトヲ申サレマシタガ、天皇ノ名ニ於テ爲サレタ所ノ裁判必シモ常ニ眞實デアリマセヌ、何ガ故ニ裁判ニ於テ三審制度ガ存スルカト云フコトハ、武富君能ク御承知デアリマセウ、一審ニ於テ死刑ノ宣告ヲ受ケタル者ガ、二審ニ於テ無罪トナル例ハ必シモ無イデハナイノデアリマス、若シ裁判ガ神聖デアルト云フナラバ、第一審モ神聖デナケレバナラナイ、第二審モ亦神聖デナケレバナリマセヌ、隨テ吾々政治家トシテ同僚ノ責任ヲ問フ場合ニ於テハ、唯單ニ裁判ノ判決ノミニ依ルト云フコトハ出來ナイノデアリマス(拍手)是ニ於テ提案者ニ伺ヒタイトイハ、提案者ガ唯一ノ材料トシテ引用セラレタル所ノ新聞紙記載以外、並ニ裁判所判決以外ニ於テ、小川君ノ否定セラレタル事實ヲ立證スルト云フヤウナ證據アリヤ否ヤ、此點ニ付テ御尋致シタイトデアリマス、第二ニ百歩ヲ譲ッテ之ヲ事實ナリト致シマシテモ、固ヨリ是ハ法律上ノ問題デアリマセヌ、政治道徳上ノ問題デアリマセヌ、若シ政治道徳ノ上カテ人ノ言責ヲ捉テ之ヲ問フナラバ、ヨリ重大ナル問題ガ幾多茲ニ存在シテ居ルト思フノデアリマス、諸君ノ總裁タル若槻氏ノ言責ハ如何デアリマスカ、青木次官ニ對スル言責ハ如何デアリマスカ(拍手)箕浦君ニ對スル偽證事件ノ起リタル言責ハ如何デアリマス(拍手)更ニ三黨首會合ノ席ニ於テ誓フ所ノ深甚ナル考慮トハ何デアリマス(拍手)青木次官ノ問題ハ若シ若槻氏ニシテ、仙石大臣ニ對シテ青木氏ノ留任ヲ求メナカッタナラバ、アノ問題ハ起ラナカッタデアリマセウ、又箕浦君ニ對シテモ同様、若槻内相ガ地方デ差支ナカッタナラバ、考慮スルト云フコトヲ言ハナカッタナラバ、憐ムベシ箕浦君ハ周圍ノ

人トナラナカッタデアリマセウ、三黨首妥協ノ問題ニ至ッテハ、在野兩黨ヨリ不信任案ヲ突付ケラレテ、議會ハ將ニ壓倒ノ多數ヲ以テ此不信任案ガ通過シ、若槻内閣ノ運命ハ正ニ風前ノ燈火ノ如クデアッタノデアリマス、此時ニ當リテ彼ハ急速トシテ、停會ノ奏請ヲシテ、急速トシテ兩黨首會見ヲ求メテ、而シテ何ヲ求メタノデアリマス、是ガダウン此豫算ダケハ通過シテ呉レロ、是ガ深甚ナル考慮トナッタデアリマス、私ハ反對黨ノ言葉ヲ以テ之ヲ批評スルナラバ、諸君ノ仰イデ居ル所ノ若槻總裁ハ、政治的ニハ國民ノ前ニ、正ニ起訴猶豫ノ狀態ニ在ルノデアリ(拍手)之ヲ小川君ノ新聞紙ニ聲明シタト云フコト、相對比シテ見マシタナラバ、其一ヲ以テモ尙ホ十分問責運動ニ値スルノデアリ(拍手)然ルニ諸君ハ己ノ總裁ニ屬スルコトハ之ヲ棚ニ上ゲテ、唯、反對黨ニ屬スルガ故ニ之ヲ攻撃スルト云フコトハ、諸君ハ斷言スルモノデアリ、諸君ガ小川君ヲ責ムル前ニ、先ヅ己ノ總裁タル若槻首相ノ言責ヲ問フ所ノ勇氣ガナイカドウカ、之ヲ第二ニ御尋致スルノデアリマス、第三ニ、若シ諸君ノ志ガ近ク政機ノ動クコトヲ察シテ、豫メ反對黨ニ向テ一撃ヲ加ヘヤウトスルナラバ、何故ニ一黨員ノ片言隻語ヲ捉ヘテ之ヲ非難スルコトナクシテ、堂々ト其黨首ニ向テ攻撃ノ矢ヲ向ケナイノデアリカ、現ニ諸君ハ第五十一議會ニ於テ、密田中大將ニ對シテ彼ガ現役中ニ於テ、密田中大將ニ於テ乾新兵衛ト會見シテ、政黨乘取リノ軍資ノ調達ヲシタ、此問題ハ今日ト雖モ尙ホ國民群疑ノ間ニ在ルノデハナイカ、此點ハ諸君之ヲ如何ニ致シタノデアリカ、更ニ又機密費事件ハドウデアリカ、田中大將ガ陸軍大臣現役中ニ於テ、莫大ナル機密費ヲ私ノ名ニ於テ銀行ニ預ケ、公債ヲ買ヒ、而シテ其行先ガ不明デアリ、諸君ハ之ニ對シテ昨年如何ナル態度ヲ執ラレタノデアリカ、昨日ノ貴族院ニ於テハ、阪谷男爵カラ強ク此事ヲ質問シテ居ラレドデアリマセヌカ、其他或ハ宮中某重大事件ニ關

スル問題ノ如キ、忠誠無比ト言ハレテ居タ所ノ山縣公ハ遂ニ悶々ノ裡ニ悶死セラレタデアリマセヌカ、是ト相策謀シタル所ノ者ハ、田中大將デアルト云フコトデアリ(拍手)是等ノ問題其ノ一ツヲ捉ヘテモ反對黨ヲ撃ツ十分デアリ、然ルニ諸君ハ昨年或ハ之ヲ宣傳シ、或ハ之ヲ肯定シテ、今日ニ至ッテ之ヲ忘レタガ如キ態度ハ、蓋シ諸君ガ是等ノ問題ニ對スル昨年ノ言責ハ、全ク荒唐無稽ナルモノト是認シタル結果ナルヤ否ヤ(拍手、笑聲起ル)此點ニ付テ明白ナル御答辯ヲ願ヒタイトイノデアリ、最後ニ私ハ、特ニ聲ヲ大ニシテ提案者諸君ニ御尋スル、諸君ニシテ志若シ眞ニ政界廓清ノ爲メデアルト云フナラバ、本案ノ如キ徒ニ細鱗ヲ小川ニ漁ッテ、吞舟ノ魚ヲ海ニ逸スルガ如キ態度ヲ執ラズシテ(漢文同感)ト呼フ者アリ)眼ノ今一段ノ高所ニ置イテ、今日此腐敗墮落セル所ノ政界ヲ廓清スルガ爲メ、先ヅ諸君ノ屬スル所ノ憲政會ヲ解散シ、更ニ之ヲ他ノ政本兩黨ニ及ボシテ、此腐敗墮落セル此威信ヲ、國民ノ間ニ失セル所ノ既成政黨ヲ一舉ニ撲滅シテ、昭和ノ新政ニ當リテ眞ニ國家國民ヲ本位トスル所ノ政治ヲ行フ所ノ抱負無キヤ否ヤ、蓋シ諸君ハ憲政會ノ中ニ於テ、最モ將來ヲ嚮望セラレ、所ノ新人デアルト云フコトデアリ、國民ハ縱令今日ノ政黨ニ飽キタリト雖モ、諸君新人ノ前途ニ對シテハ、多大ノ期待ヲ持ッテ居ルト考ヘルノデアリマス、仍テ此點ニ付テ明瞭ナル的確ナル所ノ御聲明ヲ得タイト思フノデアリマス

(武富濟君登壇)

○武富濟君 土屋君ノ御質問ニ對シテ簡單ニ御答ヲ致シマス、小川君ガ發表セラレタ

ル聲明書ナルモノハ、小川君自身ノ作製ニ非ズシテ、他人ノ作製シタルモノナルヤノ間込ミガアル、隨テ之ヲ根據トシタル提案

ハ、正シクナイデハナイカト云フ御趣旨ガアッタノデアリマス、私ハ彼ノ聲明書ハ小川平吉君ガ責任ヲ以テ自ら作製セラレタモノデアルト確信ヲ致シテ居リマス、現ニ小川君ハ此壇上ニ於テ只今自ら責任ヲ持ッテ發

スル問題ノ如キ、忠誠無比ト言ハレテ居タ所ノ山縣公ハ遂ニ悶々ノ裡ニ悶死セラレタデアリマセヌカ、是ト相策謀シタル所ノ者ハ、田中大將デアルト云フコトデアリ(拍手)是等ノ問題其ノ一ツヲ捉ヘテモ反對黨ヲ撃ツ十分デアリ、然ルニ諸君ハ昨年或ハ之ヲ宣傳シ、或ハ之ヲ肯定シテ、今日ニ至ッテ之ヲ忘レタガ如キ態度ハ、蓋シ諸君ガ是等ノ問題ニ對スル昨年ノ言責ハ、全ク荒唐無稽ナルモノト是認シタル結果ナルヤ否ヤ(拍手、笑聲起ル)此點ニ付テ明白ナル御答辯ヲ願ヒタイトイノデアリ、最後ニ私ハ、特ニ聲ヲ大ニシテ提案者諸君ニ御尋スル、諸君ニシテ志若シ眞ニ政界廓清ノ爲メデアルト云フナラバ、本案ノ如キ徒ニ細鱗ヲ小川ニ漁ッテ、吞舟ノ魚ヲ海ニ逸スルガ如キ態度ヲ執ラズシテ(漢文同感)ト呼フ者アリ)眼ノ今一段ノ高所ニ置イテ、今日此腐敗墮落セル所ノ政界ヲ廓清スルガ爲メ、先ヅ諸君ノ屬スル所ノ憲政會ヲ解散シ、更ニ之ヲ他ノ政本兩黨ニ及ボシテ、此腐敗墮落セル此威信ヲ、國民ノ間ニ失セル所ノ既成政黨ヲ一舉ニ撲滅シテ、昭和ノ新政ニ當リテ眞ニ國家國民ヲ本位トスル所ノ政治ヲ行フ所ノ抱負無キヤ否ヤ、蓋シ諸君ハ憲政會ノ中ニ於テ、最モ將來ヲ嚮望セラレ、所ノ新人デアルト云フコトデアリ、國民ハ縱令今日ノ政黨ニ飽キタリト雖モ、諸君新人ノ前途ニ對シテハ、多大ノ期待ヲ持ッテ居ルト考ヘルノデアリマス、仍テ此點ニ付テ明瞭ナル的確ナル所ノ御聲明ヲ得タイト思フノデアリマス

(武富濟君登壇)

○武富濟君 土屋君ノ御質問ニ對シテ簡單ニ御答ヲ致シマス、小川君ガ發表セラレ

ル聲明書ナルモノハ、小川君自身ノ作製ニ非ズシテ、他人ノ作製シタルモノナルヤノ間込ミガアル、隨テ之ヲ根據トシタル提案

ハ、正シクナイデハナイカト云フ御趣旨ガアッタノデアリマス、私ハ彼ノ聲明書ハ小川平吉君ガ責任ヲ以テ自ら作製セラレタモノデアルト確信ヲ致シテ居リマス、現ニ小川君ハ此壇上ニ於テ只今自ら責任ヲ持ッテ發

スル問題ノ如キ、忠誠無比ト言ハレテ居タ所ノ山縣公ハ遂ニ悶々ノ裡ニ悶死セラレタデアリマセヌカ、是ト相策謀シタル所ノ者ハ、田中大將デアルト云フコトデアリ(拍手)是等ノ問題其ノ一ツヲ捉ヘテモ反對黨ヲ撃ツ十分デアリ、然ルニ諸君ハ昨年或ハ之ヲ宣傳シ、或ハ之ヲ肯定シテ、今日ニ至ッテ之ヲ忘レタガ如キ態度ハ、蓋シ諸君ガ是等ノ問題ニ對スル昨年ノ言責ハ、全ク荒唐無稽ナルモノト是認シタル結果ナルヤ否ヤ(拍手、笑聲起ル)此點ニ付テ明白ナル御答辯ヲ願ヒタイトイノデアリ、最後ニ私ハ、特ニ聲ヲ大ニシテ提案者諸君ニ御尋スル、諸君ニシテ志若シ眞ニ政界廓清ノ爲メデアルト云フナラバ、本案ノ如キ徒ニ細鱗ヲ小川ニ漁ッテ、吞舟ノ魚ヲ海ニ逸スルガ如キ態度ヲ執ラズシテ(漢文同感)ト呼フ者アリ)眼ノ今一段ノ高所ニ置イテ、今日此腐敗墮落セル所ノ政界ヲ廓清スルガ爲メ、先ヅ諸君ノ屬スル所ノ憲政會ヲ解散シ、更ニ之ヲ他ノ政本兩黨ニ及ボシテ、此腐敗墮落セル此威信ヲ、國民ノ間ニ失セル所ノ既成政黨ヲ一舉ニ撲滅シテ、昭和ノ新政ニ當リテ眞ニ國家國民ヲ本位トスル所ノ政治ヲ行フ所ノ抱負無キヤ否ヤ、蓋シ諸君ハ憲政會ノ中ニ於テ、最モ將來ヲ嚮望セラレ、所ノ新人デアルト云フコトデアリ、國民ハ縱令今日ノ政黨ニ飽キタリト雖モ、諸君新人ノ前途ニ對シテハ、多大ノ期待ヲ持ッテ居ルト考ヘルノデアリマス、仍テ此點ニ付テ明瞭ナル的確ナル所ノ御聲明ヲ得タイト思フノデアリマス

(武富濟君登壇)

○武富濟君 土屋君ノ御質問ニ對シテ簡單ニ御答ヲ致シマス、小川君ガ發表セラレ

ル聲明書ナルモノハ、小川君自身ノ作製ニ非ズシテ、他人ノ作製シタルモノナルヤノ間込ミガアル、隨テ之ヲ根據トシタル提案

表シタモノデアルト明言ヲシテ居ラレルノデアリマス(拍手)隨テ提案ノ根據ニ供ヘマシテ何等不都合アルヲ見ヌノデアリマス、尙ホ土屋君ノ御質問中ニ、裁判所ノ判決ハ必シモ神聖ナモノデナイ、隨テ之ヲ何ガ故ニ提案ノ根據トシタカ、他ニ有力ナル證據材料ガアルノデアルカ、ナイノデアルカト云フ御質問デアリマシタ、成程判決モ固ヨリ人間ト言ヘル裁判官ガ作製スルモノデアリマシテ、或ハ萬ニ一ツ間違ヒナキ事ヲ保シ難イコトハ事實デアリマス、併ナガラ吾ガ根據ニ供シマシタル判決ハ第一審ノ判決ニアラズシテ、大審院ノ所謂最高法衙ノ最終ノ判決デアリマシテ、眞實ヲ語レルモノデアルト見ルコトガ相當デアリマス(拍手)他ニ幾多ノ材料證據ハアリマスルケレドモ、是ハ特ニ御示スル必要ナクシテ、此大審院ノ判決ガ最も權威アル材料ナリトシテ提案ヲ致シマシタルコトハ、何等不審デハナイト信ジマスル(拍手)次ニ土屋君ハ頻ニ堂々タル大問題ヲ羅列セラレマシテ、吾等ノ答辯ヲ求メラレタノデアリマスルガ、是ハ全然本提案ノ問題外ト信ジマスルカラ、御答スベキ限リテナカラウト思ヒマス(拍手)

○砂田重政君 質疑ハ此程度デ打切ラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(粕谷義三君) 先刻土屋君ガ述べラレマシタ如ク、今日議會ニ於テ論議スベキ問題ニアラズト云フ適切ナル御論議モアリマシタル次第デアリマスルガ故ニ、此際討論ヲ用ヒズ直ニ採決セラレンコトヲ希望致シマス

〔ノウ〕(拍手、其他發言者多シ)

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ餘ヒマス、只今砂田君ヨリ質疑ヲ打切り向ホ討論ヲ用ヒズシテ直ニ採決スベシトノ緊急動議ヲ提出セラレマシタ、此動議ニハ成規ノ贊成アリト認メマス、仍テ直ニ採決ヲ致シマス、此動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔贊成者 起立〕

○議長(粕谷義三君) 起立者多數デアリマス

〔多數〕(少數)「異議アリ」ト呼ヒ其他發言者多シ

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス、只今ノ宣告ニ對シテ異議ガアリマスガ、成規ノ贊成ガアリマスカ—贊成ナシト認メマス、仍テ多數ニ決シマス—本案ノ採決ヲ致シマス、採決ヲ致シマスニ付キマシテ一言致シマス、此採決ニ對シマシテハ砂田重政君外三十名ヨリ記名投票ヲ以テ採決スベシトノ動議ガアリマス、又岡本實太郎君外三十名ヨリハ無名投票ヲ以テ採決スベシトノ動議ガアリマス、斯ノ如ク採決ノ方法ニ付テニ様ノ要求ガアリマス、仍テ茲ニ記名投票ニスベキヤ、或ハ無名投票ニスベキヤヲ起立ニ依リテ採決ヲ致シマス、記名投票ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔贊成者 起立〕

○議長(粕谷義三君) 起立者多數デアリマス、記名投票ニ決シマシタ、是ヨリ投票ヲ行ヒマス、本案ニ贊成ノ諸君ハ白票デアリマス、反對ノ諸君ハ青票デアリマス—閉鎖—氏名點呼ヲ命ジマス

〔書記氏名ヲ點呼ス〕

○議長(粕谷義三君) 投票漏ハアリマセヌカ—投票漏ナシト認メマス、投票函閉鎖—開匣—開鎖

〔書記官投票ノ數ヲ計算ス〕

○議長(粕谷義三君) 投票ノ結果ヲ書記官長ヨリ報告セシメマス

〔中村書記官長朗讀〕

投票總數 二百八十八  
可トスル者 白票 百五  
否トスル者 青票 百八十三

〔拍手起ル〕

○議長(粕谷義三君) 只今ノ結果ニ依リマシテ、決議案ハ否決セラレマシタ(拍手起ル)

〔參照〕  
武富君外九名提出決議案ヲ可トスル議員ノ氏名左ノ如シ  
石塚 三郎君 石黒大次郎君

- |        |        |       |        |        |        |        |        |        |        |        |        |         |        |        |        |        |        |       |        |        |       |        |         |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |         |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |         |        |       |        |        |        |        |        |         |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |       |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |       |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |       |        |        |         |        |        |       |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |       |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |         |        |        |        |        |        |        |       |        |        |        |        |        |        |        |
|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|---------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 飯塚春太郎君 | 原 脩次郎君 | 土生 彰君 | 西 英太郎君 | 戸井 嘉作君 | 戸澤民十郎君 | 大島 要三君 | 小野 重行君 | 奥村 千藏君 | 神谷 彌平君 | 神部 爲藏君 | 加藤 綱一君 | 加藤 十四郎君 | 金田平兵衛君 | 横山金太郎君 | 吉原 義雄君 | 高木 正年君 | 高島 兵吉君 | 武富 濟君 | 田中 養達君 | 中野 寅吉君 | 中野 實君 | 永井柳太郎君 | 内ヶ崎作三郎君 | 黒田重兵衛君 | 八並 武治君 | 山口 助作君 | 山口 嘉七君 | 山根 儀重君 | 山根 忠雄君 | 松本 忠雄君 | 降旗元太郎君 | 福田 五郎君 | 小島 七郎君 | 木曾三四郎君 | 江藤 榮吉君 | 手代木隆吉君 | 荒川 五郎君 | 佐藤富十郎君 | 齊藤太兵衛君 | 齊藤 金吾君 | 澤田 利吉君 | 由谷 義治君 | 井本 常作君 | 服部 英明君 | 羽田彦四郎君 | 本田 恒之君 | 戸田 由美君 | 大津淳一郎君 | 大里廣次郎君 | 岡本實太郎君 | 川崎安之助君 | 神田 正雄君 | 加藤政之助君 | 加藤 六藏君 | 金澤安之助君 | 横山勝太郎君 | 吉川吉郎兵衛君 | 高木益太郎君 | 高橋元四郎君 | 頼母木桂吉君 | 田中 善立君 | 中谷 貞頼君 | 中野 正剛君 | 永田善三郎君 | 村上 嘉六君 | 野村 嘉六君 | 工藤 鐵男君 | 山宮 藤吉君 | 山田 道兄君 | 山田 厚三君 | 松本 郡治君 | 丸山 五郎君 | 藤井 敬慎君 | 小島 證作君 | 小池 仁郎君 | 紺野九右衛門君 | 寺島 權藏君 | 淺川 浩君 | 荒井 建三君 | 作間 耕逸君 | 齊藤 隆夫君 | 齊藤仁太郎君 | 柵瀬軍之佐君 | 木村小左衛門君 | 三橋四郎次君 | 宮崎松次郎君 | 清水留三郎君 | 重松 重治君 | 平沼 亮三君 | 平井光三郎君 | 關矢 孫一君 | 菅村 太事君 | 野原種次郎君 | 湯淺 凡平君 | 磯部 尚君 | 板野 友造君 | 今里準太郎君 | 石井 三郎君 | 石原正太郎君 | 井上敬之助君 | 井上 虎治君 | 猪野毛利榮君 | 濱口吉兵衛君 | 八田 宗吉君 | 原 惣兵衛君 | 本田 義成君 | 星島 二郎君 | 長田 桃藏君 | 大口 喜六君 | 岡田伊太郎君 | 若尾幾太郎君 | 渡邊 伍君 | 加藤 知正君 | 兼松寅太郎君 | 海原 清平君 | 吉村 伊助君 | 田中 定吉君 | 高木 音藏君 | 高橋 光威君 | 中島 守利君 | 中村 清造君 | 武藤 金吉君 | 内田 信也君 | 浦山助太郎君 | 梅田 寛一君 | 熊谷 巖君 | 黒住 成章君 | 斯波 貞吉君 | 信太儀右衛門君 | 廣瀬 徳藏君 | 平野 光雄君 | 森田 茂君 | 杉浦 武雄君 | 田崎 信藏君 | 清瀬 一郎君 | 磯部 保次君 | 岩崎幸治郎君 | 今井 健彦君 | 石坂 豊一君 | 飯村 五郎君 | 井上 孝哉君 | 井口延次郎君 | 泰 豊助君 | 濱田 國松君 | 鳩山 一郎君 | 西方 利馬君 | 堀切善兵衛君 | 土井 權大君 | 大竹 謙治君 | 小野 義一君 | 岡田 忠彦君 | 若宮 貞夫君 | 渡邊 祐策君 | 加藤久米四郎君 | 河上 哲太君 | 吉植庄一郎君 | 竹内友治郎君 | 高井 商二君 | 高橋熊次郎君 | 高山 長幸君 | 中村 魏君 | 難波 清人君 | 向井 倭雄君 | 植原悦二郎君 | 上笠安太郎君 | 來栖 七郎君 | 熊谷 直太君 | 工藤十三雄君 |
|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|---------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|

矢野 鈺吉君	山本悌二郎君
山本 慎平君	山口 義一君
山口恒太郎君	山下 谷次君
山内 範造君	山崎達之輔君
前田 米藏君	松本 眞平君
松山常次郎君	松實喜代太君
牧野 良三君	藤田 包助君
藤川 清助君	二木 洵君
古川 清君	木暮武太夫君
小久保喜七君	小橋謙三衛君
兒玉 右二君	神崎 勳君
近藤 達兒君	安藤 正純君
安保 庸三君	青木 精一君
青柳郁次郎君	秋田寅之介君
秋田 清君	東 武君
齋藤藤四郎君	柳原 經武君
佐々木文一君	佐々木長治君
坂井 大輔君	木戸 豊吉君
木村政次郎君	吉良 元夫君
宮崎三之助君	宮本 逸三君
三善 清之君	三土 忠造君
篠原 和市君	島本 信二君
廣瀬 爲久君	廣岡宇一郎君
平山爲之助君	森 龜起君
森 恪君	望月 圭介君
瀬沼伊兵衛君	砂田 重政君
鈴木 隆君	菅原 傳君
隅田 豊吉君	杉 宜陳君
井坂 豊光君	井出繁三郎君
池田 泰親君	禱 苗代君
原 夫次郎君	本多貞次郎君
堀田義次郎君	床次竹二郎君
東郷 實君	陣 軍吉君
折原巳一郎君	小川郷太郎君
大園榮三郎君	大城幸之一君
奥野小四郎君	川原 茂輔君
加藤謙五郎君	神村 吉郎君
丹下茂十郎君	田口 文次君
津崎 尙武君	筒井民次郎君
中村啓次郎君	上原 好雄君
浦野 謙朗君	熊谷五右衛門君
藏園三四郎君	栗林 五朔君
八木 逸郎君	山谷徳治郎君

前田 兼實君	牧山 耕藏君
松浦五兵衛君	松田 源治君
丸山 浪彌君	福井 甚三君
麓 純義君	小橋 一太君
兒玉 實良君	寺田 市正君
櫻内 幸雄君	宜保 成晴君
三輪市太郎君	宮島幹之助君
志波安一郎君	清水 長郷君
元田 肇君	坂東幸太郎君
岡田 温君	堤 清六君
土屋清三郎君	永田新之允君
山口 左一君	増田 義一君
小屋 光雄君	佐々木安五郎君
佐藤 潤象君	羽室庸之助君
田中 讓君	武藤 山治君
森田 金藏君	

○砂田重政君 殘餘ノ日程ニ對シテ、延期ノ動議ヲ提出致シマス

○議長(粕谷義三君) 砂田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次回ノ日程ハ追テ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後五時八分散會

衆議院議事速記録第十五號中正誤

頁	段	行	誤	正
二七八	一	三六	憲法	議院法
二七三	三	一三	性質ノ意義	提出ノ時期
二八六	四	三六	「第二號」ヲ「第三號」	「及第二號」ヲ「乃至第三號」